

2. 薬学部授業概要索引

1 学年

科目名	開講時期	単位数		対象	科目担当者	掲載	備考	
	(コマ数)	必修	選択	クラス		ページ		
薬学周辺	こどもの発達A	後1(7.5)		1	1P全	鈴木 敏城	48・49	1～6年で4単位以上 を選択必修
	こどもの発達B	後2(7.5)		1	1P全	鈴木 敏城	50・51	
	スポーツと健康A	—		1	1P全	—	—	
	スポーツと健康B	—		1	1P全	—	—	
	医学の歴史A	後1(7.5)		1	1P全	押尾 茂	52・53	
	医学の歴史B	後2(7.5)		1	1P全	押尾 茂	54・55	
	現代の社会福祉A	集中(7.5)		1	1P全	田中 治和	56・57	
	高齢者の健康A	前1(7.5)		1	1P全	小池・廣瀬・ 齋藤・山崎・ 鈴木(史)	58・59	
	基礎薬学計算	前1(7.5)		1	1P全	和田・木田	60・61	
人文科学	言語学A	前2(7.5)		1	1P全	伊藤 頼位	62・63	1～6年で4単位以上 を選択必修
	言語学B	前1(7.5)		1	1P全	伊藤 頼位	64・65	
	哲学A	前1(7.5)		1	1P全	鈴木 敏城	66・67	
	哲学B	前2(7.5)		1	1P全	鈴木 敏城	68・69	
	文化学A	—		1	1P全	—	—	
	文化学B	—		1	1P全	—	—	
	文学A	後1(7.5)		1	1P全	川崎美佐子	70・71	
	文学B	前2(7.5)		1	1P全	川崎美佐子	72・73	
社会科学	経済学A	前2(7.5)		1	1P全	後藤 康夫	74・75	1～6年で4単位以上 を選択必修
	経済学B	前1(7.5)		1	1P全	後藤 康夫	76・77	
	社会学A	後1(7.5)		1	1P全	小久保嘉代	78・79	
	社会学B	後2(7.5)		1	1P全	小久保嘉代	80・81	
	法学A	—		1	1P全	—	—	
	法学B	—		1	1P全	—	—	
	歴史学A	後1(7.5)		1	1P全	柳田 春子	82・83	
	歴史学B	後2(7.5)		1	1P全	柳田 春子	84・85	
一般 教養 科目	薬学英語Ⅰ	前(15)	1		1P全	伊藤 頼位	86・87	1～6年で2単位以上 を選択必修
						川崎美佐子	88・89	
	薬学英語Ⅱ	後(15)	1		1P全	伊藤 頼位	90・91	
						川崎美佐子	92・93	
	基礎英語演習	前1(7.5)		0.5	1P全	川崎美佐子	94・95	
		前2(7.5)		0.5	1P全	福富 靖之	96・97	
	後1(7.5)		0.5	1P全				
	英語検定Ⅱ	後2(7.5)		0.5	1P全	福富 靖之	98・99	
	英語検定Ⅲ	—		0.5	1P全	—	—	
	英会話Ⅰ	前1(7.5)		0.5	1P全	伊藤 頼位	100・101	
		後2(7.5)		0.5	1P全	川崎美佐子	102・103	
	英会話Ⅱ	前2(7.5)		0.5	1P全	伊藤 頼位	104・105	
		後1(7.5)		0.5	1P全			
	英会話Ⅲ	後2(7.5)		0.5	1P全	伊藤 頼位	106・107	
	英語圏言語文化研修	集中(7.5)		0.5	1P全	伊藤 頼位	108・109	
	中国語Ⅰ	前1(7.5)		0.5	1P全	劉 芳	110・111	
	中国語Ⅱ	前2(7.5)		0.5	1P全	劉 芳	112・113	
	中国語Ⅲ	後1(7.5)		0.5	1P全	劉 芳	114・115	
	外国語単位認定科目A	—		0.5	1P全	—	—	
	外国語単位認定科目B	—		0.5	1P全	—	—	
外国語単位認定科目C	—		0.5	1P全	—	—		

一般教養科目	実技	体育A	後1(7.5)		0.5	1P全	藤本 千晶	116・117	1～6年で1単位以上 を選択必修
		体育B	後2(7.5)		0.5	1P全			
		美術A	後1(7.5)		0.5	1P全	天形 健	118・119	
		美術B	後2(7.5)		0.5	1P全			
		書写A	後1(7.5)		0.5	1P全	鈴木 蒼舟	120・121	
		書写B	後2(7.5)		0.5	1P全			
基礎教育科目	基礎科学	数学Ⅰ	前(14)	1		1P全	木田・和田	122・123	
		数学Ⅱ	後(13)	1		1P全	渡邊・中橋・ 吉田	124・125	
		化学Ⅰ	前(13)	1		1P全	石山・和田	126・127	
		化学Ⅱ	前(12)	1		1P全	山岸 丈洋	128・129	
		物理学Ⅰ	前1(12)	1		1P全	和田 重雄	130・131	
		物理学Ⅱ	前2(12)	1		1P全	柏木・和田・ 志村・小野	132・133	
		生物学Ⅰ	前1(13)	1		1P全	和田・佐野	134・135	
		生物学Ⅱ	前2(12)	1		1P全	大島・佐野	136・137	
		化学熱力学入門	後(14)	1		1P全	柏木・小野	138・139	
		基礎科学演習Ⅰ	前(15)	1		1P全	和田・熊本・ 金原・横田	140・141	
		基礎科学演習Ⅱ	後(15)	1		1P全	和田・熊本・ 金原・横田	142・143	
		基礎科学実習	前・後(8)	0.5		1P全	和田 他	144・145	
	準備教育	フレッシュマンウィーク	入学直後	0.5		1P全	学年主任	—	
		フレッシュマンセミナー	前1(7.5)	0.5		1P全	伊藤 頼位 他	146・147	
		情報科学講義	前1(7.5)	1		1P全	木田 雄一	148・149	
		IT技能演習Ⅰ	前(15)	1		1P全	木田 雄一	150・151	
		IT技能演習Ⅱ	後(15)	1		1P全	木田 雄一	152・153	
		日本語表現演習Ⅰ	前(15)	1		1P全	佐藤 亜実	154・155	
		日本語表現演習Ⅱ	後(15)	1		1P全	唐沢 明	156・157	
		倫理学	前1(7.5)	1		1P全	高橋 恭寛	158・159	
	心理学の基礎	後1(7.5)	1		1P全	車田 文雄	160・161		
	薬学基礎	薬学入門	前2(7.5)	1		1P全	衛藤・井上・ 伊藤(鍛)・ 島貫・斉藤	162・163	
		チーム医療学演習Ⅰ	前(15)	1		1P全	早坂・衛藤・ 小池・ 伊藤(鍛)	164・165	
		チーム医療学演習Ⅱ	後(15)	1		1P全	早坂・衛藤・ 小池・ 伊藤(鍛)	166・167	
		健康科学入門	後2(7.5)	1		1P全	押尾 茂	168・169	
	専門教育科目	基礎科目	生化学Ⅰ	後(14)	1		1P全	大島 光宏	170・171
			機能形態学Ⅰ	後(14)	1		1P全	野島 浩史	172・173
			有機化学Ⅰ	後(14)	1		1P全	山岸・金原	174・175
			基礎分析化学	後(14)	1		1P全	鈴木・大樂	176・177
			物理化学Ⅰ	後2(7)	1		1P全	柏木・小野・ 大樂	178・179
薬学と法			後(14)	1		1P全	多根井 重晴	180・181	
薬学演習Ⅰ			後末(15)	1		1P全	学年主任	182・183	
配当単位計			32.5	15					

授業科目名	こどもの発達A		1, 2年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1単位
担当教員	講師（歯学部）：鈴木敏城		
オフィスアワー	月曜日：12：10～13：00		

1. 科目の概要

人間は、各発達段階をとおして、発達課題を達成しながら心の定型発達（一般的な発達）を遂げていく。「こどもの発達A」では、この定型発達に焦点を当てて、こどもの心の変化を特に胎児期から青年期に至るまでを中心にし、生涯発達という側面も重視しながら捉え、心の発達という側面から人間を考えていく。授業は、講義だけでなく学生同士の対話や課題文の作成等から成り、自ら考えることが求められる。従って、授業は授業の時間であると共に評価の時間でもある。

2. 一般目標

生涯発達の概念を念頭に置きながら、胎児期から青年期に至るまでのこどもの心の定型発達を段階的に捉えることにより、人間の心の発達について体系的に学ぶ。

学生が薬剤師となった時のこどもの患者への対応の基礎を学ぶ。

学生が親となった時にこどもの心の発達を意識した子育てを行うための基礎を学ぶ。

生涯発達という概念も重視し、人間の一生を発達という側面から考える。

3. 行動目標

- ① こどもの心の定型発達を発達段階ごとに理解する。
- ② 生涯発達（人間の心は一生を通じて発達すること）を理解する。

4. 準備学習

- ① シラバスを読み、次の授業テーマや内容に関する事柄を図書館やインターネットで調べて読んでおく。
 - ② 各自が調べた授業のテーマや内容に関する事柄に対して、自分の立場や意見を考えておく。
 - ③ ②で考えた内容を箇条書きにし、論理的な繋がりを考えておく。
- * ①②③の学習準備にかかる時間は30～60分程度。毎回この準備をしておくことで、授業の理解度が上がり、授業中に対話を求められたときの材料となる。また、授業時に各自が書いて提出する課題文を構成することが容易になる。

5. 評価

- ① 発表等の内容： 30%（学生同士の対話や発表）
- ② 課題文の論理性：40%（授業時に書いて提出する課題文）
- ③ 出席の状況： 30%（欠席者は授業を聴かなかただけでなく、対話等に参加しなかったことになる）

6. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配付する。

参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	オリエンテーション 胎児期「講義及び対話」	薬学準備教育(1)	「こどもの発達A」についての説明 胎児期について	鈴木 敏城
2	乳児期 「講義及び対話」	薬学準備教育(1)	乳児期の発達課題の達成と問題	鈴木 敏城
3	幼児期 「講義及び対話」	薬学準備教育(1)	幼児期の発達課題の達成と問題	鈴木 敏城
4	学童期 「講義及び対話」	薬学準備教育(1)	学童期の発達課題の達成と問題	鈴木 敏城
5	思春期 「講義及び対話」	薬学準備教育(1)	思春期の発達課題の達成と問題	鈴木 敏城
6	青年期 「講義及び対話」	薬学準備教育(1)	青年期の発達課題の達成と問題	鈴木 敏城
7	生涯発達 「講義及び対話」	薬学準備教育(1)	生涯発達について	鈴木 敏城

授業科目名	こどもの発達B		1, 2年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1単位
担当教員	講師（歯学部）：鈴木敏城		
オフィスアワー	月曜日：12：10～13：00		

1. 科目の概要

人間は、各発達段階をとおして、発達課題を達成しながら心の定型発達（一般的な発達）を遂げていくが、発達に伴う様々な困難や障害も現れることがある。

「こどもの発達B」では、この発達に伴う様々な困難や障害に焦点を当てて、人間の心の発達について考えていく。

授業は、講義だけでなく学生同士の対話や課題文の作成等から成り、自ら考えることが求められる。従って、授業は授業の時間であると共に評価の時間でもある。

2. 一般目標

発達障害や愛着障害、いじめや虐待、不登校、引きこもり、非行といった発達に伴う様々な困難について考え、学生が薬剤師になった時のこどもの患者への対応の基礎を学ぶ。

3. 行動目標

- ① 発達障害について理解する。
- ② 愛着障害について理解する。
- ③ いじめや虐待、不登校、引きこもり、非行といった発達に伴う様々な困難について理解する。

4. 準備学習

- ① シラバスを読み、次の授業テーマや内容に関する事柄を図書館やインターネットで調べて読んでおく。
 - ② 各自が調べた授業のテーマや内容に関する事柄に対して、自分の立場や意見を考えておく。
 - ③ ②で考えた内容を箇条書きにし、論理的な繋がりを考えておく。
- * ①②③の学習準備にかかる時間は30～60分程度。毎回この準備をしておくことで、授業の理解度が上がり、授業中に対話を求められたときの材料となる。また、授業時に各自が書いて提出する課題文を構成することが容易になる。

5. 評価

- ① 発表等の内容： 30%（学生同士の対話や発表）
- ② 課題文の論理性：40%（授業時に書いて提出する課題文）
- ③ 出席の状況： 30%（欠席者は授業を聴かなかただけでなく、対話等に参加しなかったことになる）

6. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配付する。

参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	オリエンテーション 心の発達の概要 知的障害 「講義及び対話」	薬学準備教育(1) 「こどもの発達B」についての説明 心の発達の概要の説明と知的障害についての説明	鈴木 敏城
2	発達障害 「講義及び対話」	薬学準備教育(1) 発達障害の分類と特徴, 対応	鈴木 敏城
3	愛着障害と虐待 「講義及び対話」	薬学準備教育(1) 愛着障害の原因と特徴, 対応 虐待の分類と被虐待児の特徴と対応	鈴木 敏城
4	いじめ 「講義及び対話」	薬学準備教育(1) いじめの構造と対応	鈴木 敏城
5	不登校と引きこもり 「講義及び対話」	薬学準備教育(1) 不登校児童生徒への対応 引きこもりへの対応	鈴木 敏城
6	非行 「講義及び対話」	薬学準備教育(1) 非行の心理と対応	鈴木 敏城
7	学級集団の発達 「講義及び対話」	薬学準備教育(1) こどもたちの生活の場としての学級集団の構造と発達	鈴木 敏城

授業科目名	医学の歴史 A		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (薬学周辺)	選択	1 単位
担当教員	教授：押尾 茂		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

医学とは、人体の構造や機能、病気について研究し、その病気を診断・治療・予防する学問です。我々の学ぶ薬学は医学の一分野を構成し、化学物質の人体活動への影響を調べ、必要な場合はそれらを合成し、それらの作用を薬物治療として人へ応用するあるいは悪影響を与える場合は人への影響をなくす方法を考える学問分野です。医学の歴史は、医療人が共通に持つべき基礎知識です。それを概観できることで、多職種の医療人と共通の話題を持つことができます。本講義では、教科書を道しるべとしながら、紀元前の昔から現代までの医学の歴史をたどり、医学がこれからどこへ向かっていくのかについてまでを学びます。

2. 一般目標

医療人として必要な教養を身に付けるために、薬剤師として必要な医学の歴史を学ぶ。

3. 行動目標

1. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。2. 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。3. 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史について説明できる。4. 医学の歴史的発展の過程を説明できる。

4. 準備学習

次回の予習内容について、毎回指示するのでそれに従うこと。

5. 評価

出席、授業態度、レポートを総合して評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：なし (資料を配付します)

参考書：「病気の社会史」立川祥二著 岩波現代文庫 岩波書店、「医学探偵の歴史事件簿」小長谷正明著 岩波新書 岩波書店、「Disease 人類を襲った30の病魔」Mary Dobson著 小林力訳 医学書院

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	イントロダクション・薬の歴史	医薬の歴史を学ぶ意義を考える。紀元前に遡り、人類の発展と薬の進歩を学ぶ。	押尾 茂
2	薬剤師の歴史	わが国における薬剤師制度の発展の歴史を学ぶ。	押尾 茂
3	感染症との闘いの歴史 (1)	人類の保健衛生を向上させる上で、重要な位置を占めてきた、感染症との闘いを学ぶ。	押尾 茂
4	感染症との闘いの歴史 (2)	同上	押尾 茂
5	医療保険・介護制度の歴史	わが国の医療保険・介護制度の成立について学ぶ。	押尾 茂
6	医療倫理 (1)	「ヒポクラテスの誓い」から始まる医療倫理の流れを現代まで辿りながら、その歴史的意義を学ぶ。	押尾 茂
7	医療倫理 (2)	生殖医療を例として、医療倫理の実際について学ぶ。	押尾 茂

授業科目名	医学の歴史 B		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (薬学周辺)	選択	1 単位
担当教員	教授：押尾 茂		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

医学とは、人体の構造や機能、病気について研究し、その病気を診断・治療・予防する学問です。我々の学ぶ薬学は医学の一分野を構成し、化学物質の人体活動への影響を調べ、必要な場合はそれらを合成し、それらの作用を薬物治療として人へ応用するあるいは悪影響を与える場合は人への影響をなくす方法を考える学問分野です。医学の歴史は、医療人が共通に持つべき基礎知識です。それを概観できることで、多職種の医療人と共通の話題を持つことができます。本講義では、教科書を道しるべとしながら、紀元前の昔から現代までの医学の歴史をたどり、医学がこれからどこへ向かっていくのかについてまでを学びます。

2. 一般目標

医療人として必要な教養を身に付けるために、薬剤師として必要な医学の歴史を学ぶ。

3. 行動目標

1. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。2. 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。3. 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史について説明できる。4. 医学の歴史的発展の過程を説明できる。

4. 準備学習

毎回指定された教科書の部分をよく読んで出席する。

5. 評価

出席、授業態度、レポートを総合して評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：「Disease 人類を襲った 30 の病魔」Mary Dobson 著 小林力訳 医学書院

参考書：「病気の社会史」立川祥二著 岩波現代文庫 岩波書店、「医学探偵の歴史事件簿」小長谷正明著 岩波新書 岩波書店

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	イントロダクション・細菌感染症 (1)	医薬の歴史を学ぶ意義を考える。ペスト・ハンセン病・梅毒・発疹チフス (教科書6-36ページ)	押尾 茂
2	細菌感染症 (2)	コレラ・腸チフス・結核・産褥熱・嗜眠性脳炎 (教科書44-83ページ)	押尾 茂
3	寄生虫病 (1)	マラリア・トリパノソーマ症・シャーガス病 (教科書84-107ページ)	押尾 茂
4	寄生虫病 (2)	住血吸虫症・鉤虫症・オンコセルカ症 (教科書108-127ページ)	押尾 茂
5	ウイルス性疾患 (1)	天然痘・麻しん・黄熱病・デング熱・狂犬病・ポリオ (教科書128-171ページ)	押尾 茂
6	ウイルス性疾患 (2)	インフルエンザ・エボラ出血熱・エイズ・SARS (教科書172-207ページ)	押尾 茂
7	生活習慣病	壊血病・クールー病・クロイツフェルト・ヤコブ病・がん・心臓病 (教科書208-247ページ)	押尾 茂

授業科目名	現代の社会福祉A		1, 2年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：田中 治和（東北福祉大学教授）		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

社会福祉全般に関わる基礎的知識—主に歴史と現況，及び思想について論じる。Aでは，特に明治期から現代までの日本社会にある貧困問題，並びに福祉問題の概要とそれへの諸施策の動向について，具体的資料を用いて説明していく。

2. 一般目標

社会福祉問題への興味・関心を深めるため、明治期以降の日本の社会福祉問題の概要とそれへの諸施策の動向を理解する。

3. 行動目標

- ①社会福祉への興味・関心を深める。
- ②貧困問題をはじめとして、多様な社会問題の捉え方を理解する。
- ③自らの人生観・人間観を再吟味することができる。

4. 準備学習

集中講義のため、事前に準備することは難しいですが、可能ならば、新聞やインターネット等から、「貧困問題」「福祉問題」と呼ばれる事象を読んでおくことが望まれる。

5. 評価

レポート：60%，授業参加態度：40%

6. 教科書・参考書

教科書：教科書は使用せず，配布するレジюмеと資料を用いて行う。

参考書：レジюмеに記載し，また授業時に適宜紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	社会福祉学入門	社会福祉とは何か、また学びの方法について	田中 治和
2	社会福祉の歴史①	明治期の救済制度と慈善事業について	田中 治和
3	社会福祉の歴史②	大正期の社会事業について	田中 治和
4	社会福祉の歴史③	昭和初期の社会事業の変質=厚生事業の成立について	田中 治和
5	社会福祉の歴史④	戦後復興期の社会事業について	田中 治和
6	社会福祉の歴史⑤	高度経済成長期の社会福祉について	田中 治和
7	社会福祉の歴史⑥	少子高齢化社会の社会福祉について	田中 治和
8	まとめ		

授業科目名	高齢者の健康 A		1, 2年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1 単位
担当教員	教授：小池勇一 教授（歯学部）：廣瀬公治，山崎信也 准教授（歯学部）：鈴木史彦		
オフィスアワー	火曜日の15：30～17：30		

1. 科目の概要

我が国は世界でも例を見ない速度で高齢社会に突入した。また，高齢者を取り巻く環境や社会状況は近年になって大きく変貌を遂げてきている。従来は家族と同居している高齢者が一般的であったが，家族環境の変化により一人暮らしの高齢者が年々増加している。また，人口構成が少子高齢化となり，扶養者数に対する被扶養者数の比率が年々増加していることにより，若年層に対する年金負担が重くのしかかり，若年層が高齢者層を支える扶養体制の維持が困難となりつつある。このような背景を鑑みて，高齢者の生活習慣病をはじめとした疾病予防やヘルスプロモーションにより，高齢者の健康を維持することが何よりも重要な課題となりつつある。本科目では，高齢者を取り巻く様々な問題について基本的な理解を深めていく。

2. 一般目標

高齢者の特性，老化，疾患，予防，介護などについて理解を深める。

3. 行動目標

- 1) 人における老化について理解できる。
- 2) 高齢者の健康指標について理解する。
- 3) 高齢者における身体疾患・精神疾患についての理解を深める。
- 4) 在宅および入院や施設入所高齢者における問題点とその解決・支援方法について理解できる。
- 5) 高齢者における口腔の健康，口腔機能向上，口腔ケアについて理解できる。
- 6) 高齢者における災害・救急医療の特徴について理解できる。
- 7) 高齢者の終末期医療およびターミナルケアについて理解できる。

4. 準備学習

講義内容はシラバスに記載しているが，講義が中心となるので，講義内容を理解するためには配布資料に加え，講義ノートを作成することが望ましい。

5. 評価

試験成績 90% および出席日数 10% により評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：特に指定しない。毎週，講義プリントや教材を配布する。

参考書：編集 安村誠司，甲斐一郎，高齢者保健福祉マニュアル，南山堂，2013年，中島澄夫，高齢者医療，オーム社，2008年

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	老化とは	薬学準備教育(1)	老化の定義, 老化の種類, 老化のメカニズムなどについて	小池 勇一
2	高齢者における健康づくり	薬学準備教育(1)	高齢者の健康の定義, 健康指標などについて	廣瀬 公治
3	高齢者の病気と疾病予防	薬学準備教育(1)	高齢者によく見られる病気とその予防について	小池 勇一
4	高齢者の介護およびリハビリテーション	薬学準備教育(1)	在宅, 入所高齢者の介護や医学的リハビリテーションなどについて	鈴木 史彦
5	高齢者と口腔の健康	薬学準備教育(1)	高齢者における口腔疾患や口腔ケアなどについて	鈴木 史彦
6	高齢者の救急医療	薬学準備教育(1)	救急時, 災害時における高齢者の医療や支援について	山崎 信也
7	終末期医療とケア	薬学準備教育(1)	終末期の実態やターミナルケアなどについて	小池 勇一
8	定期試験	薬学準備教育(1)		小池 勇一

授業科目名	基礎薬学計算		1年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	必修	1単位
担当教員	准教授：和田重雄 講師：木田雄一		
オフィスアワー	月曜，火曜の16：30～18：00		

1. 科目の概要

薬学を学んでいく上で最低限必要な数学・化学・物理等の基礎学力が不足している学生を対象とする。講義，演習を繰り返しながら，計算力増強・科学的知識の充実を図るよう非常に基本的な内容から取り組む。実力試験の成績により，受講対象者を決定する。

2. 一般目標

数学Ⅰ，化学Ⅰ，物理学Ⅰ・Ⅱなどの科目の学習をスムーズに行えるよう，最も基本的な知識，学力を身につける。また，暗記に頼らない学習方法についても言及する。

3. 行動目標

1. 複雑な四則演算もスムーズに行える。
2. べき数の扱いを間違えない。
3. 物質量，濃度など，薬学で扱う基本的な量を求める。
4. 基本的なグラフの読み書きができる
5. 簡単な指数・対数計算ができる
6. 原始関数の基本概念を理解し，代表的な関数の不定積分が求められる。

4. 準備学習

準備より，復習を徹底的に行ってもらいたい。毎回の課題を，次回の授業までに確実にこなせるように反復練習を行ってもらいたい。

5. 評価

授業時の提出物（小テスト等）50%，試験50%

6. 教科書・参考書

教科書：『わかりやすい薬学系数学入門』（都築稔編，講談社），
他に講師作成教材を利用

参考書：

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	物理量と計算 「講義・演習」	準備教育- (7)-①	量と数値, 単位の関係, 有効数字の扱いを学ぶ。量を求めるための計算を行う。	和田 重雄 木田 雄一
2	物質量・濃度と連分数 「講義・演習」	準備教育- (7)-①	連分数の計算法を学ぶ。物質量, 濃度など基本的な量を求める方法を学ぶ	和田 重雄 木田 雄一
3	指数関数と対数関数とその活用 「講義・演習」	準備教育- (7)-②	指数, 対数およびその計算の基本ルールを学ぶ 薬学での活用法を実践する	和田 重雄 木田 雄一
4	種々の関数とグラフ, 計算練習 「講義・演習」	準備教育- (7)-②	関数・グラフの意味を理解する グラフの読み書きを行う	和田 重雄 木田 雄一
5	化学量と指数対数 「講義・演習」	準備教育- (7)-②	指数, 対数で表す種々の化学量を求める方法を学ぶ	和田 重雄 木田 雄一
6	微分と積分の基礎 「講義・演習」	準備教育- (7)-③	微分, 積分の基本的な考え方, 計算法を学ぶ	和田 重雄 木田 雄一
7	薬学計算の総まとめ 「講義・演習」	準備教育- (7)①②③	薬学で扱う種々の量の求め方を学び, 習熟させる	和田 重雄 木田 雄一
8	定期試験		授業で扱った内容の試験	和田 重雄 木田 雄一

授業科目名	言語学A		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (人文科学)	選択	1単位
担当教員	講師：伊藤頼位		
オフィスアワー	火曜日以外の平日昼休み		

1. 科目の概要

言語学は人間が使用する言語の発音・文法・意味・歴史などを扱う学問領域である。この授業では言語の特徴をさまざまな面から探る方法を知るとともに、言語学の主要な領域についての基礎的な事項を説明する。授業の目的は普段無意識に使っている言語を客観的に分析することで、言葉に対するより鋭敏な感覚を養うとともに、より良い言語コミュニケーションの基礎を作ることである。授業では日本語と英語を比較しながら説明を行うが、これらの言語の運用能力を高めることがこの授業の目的ではないことに注意されたい。

2. 一般目標

言葉に対するより鋭敏な感覚を養うために、言語を科学的に分析する言語学の中心的な研究対象とその研究成果を知り、自ら言語を客観的にとらえる態度を養成する。

3. 行動目標

- (1) 言語学が対象とする事項を列挙することができる。
- (2) すべての言語が共通して持つ特徴を列挙し、それらを概説できる。
- (3) ヒトの発音器官の名称と構造を説明できる。
- (4) 言語音の分類法を説明できる。
- (5) 語形成の規則および語義関係を説明できる。
- (6) 代表的な品詞の定義を説明できる。
- (7) 文の句構造とそれに基づく多義性を説明できる。
- (8) 含意とは何か説明できる。
- (9) 含意を導く推論と文脈依存解釈を説明できる。
- (10) 第一言語の習得過程を説明できる。
- (11) 生成文法理論における普遍文法仮説を説明できる。
- (12) 言語の構造と解釈および運用について科学的に考察することができる。

4. 準備学習

予習：授業時に使用するプリントを事前に配布するので一読してから授業に臨むこと。

自主学習：レポートの題材とするので、授業中に紹介した書籍を1冊以上読むこと。

5. 評価

20% 出席および授業時の態度

80% レポート

6. 教科書・参考書

教科書：プリントを使用

参考書：授業中に紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	言語学とは「講義」 薬学準備教育(1)	言語学の対象と方法, 言語を構成する要素	伊藤 頼位
2	人間のことばが持つ特徴 「講義」	恣意性, 二重分節性, 転位性, 創造性, 構造依存性	伊藤 頼位
3	発音の仕組み「講義」	発音器官, 調音点と調音法, 母音と子音	伊藤 頼位
4	単語の成り立ちと意味 「講義」	形態素, 語形成規則	伊藤 頼位
5	文の構造「講義」	品詞, 句構造, 主部と述部	伊藤 頼位
6	ことばの意味「講義」	多義性, 文脈, 含意	伊藤 頼位
7	こどもの言語習得「講義」	第一言語の習得過程, プラトンの問題と普遍文法仮説	伊藤 頼位

授業科目名	言語学B		1, 2年
授業区分	一般教養科 (人文科学)	選択	1単位
担当教員	講師：伊藤頼位		
オフィスアワー	平日昼休み		

1. 科目の概要

言語学は人間が使用する言語の発音・文法・意味・歴史などを扱う学問領域である。この授業では言語の特徴をさまざまな面から探る方法を知るとともに、言語学の主要な領域についての基礎的な事項を説明する。授業の目的は普段無意識に使っている言語を客観的に分析することで、言葉に対するより鋭敏な感覚を養うとともに、より良い言語コミュニケーションの基礎を作ることである。この授業では興味深い言語現象の幾つかを取り上げ、実際の言語分析がどのように行われるかを解説する。

2. 一般目標

言葉に対するより鋭敏な感覚を養うために、言語を科学的に分析する言語学の中心的な研究対象とその研究成果を知り、自ら言語を客観的にとらえる態度を養成する。

3. 行動目標

- (1) 言語学が科学的方法を用いて言語を分析する学問であることを説明できる。
- (2) 古代文字の例を挙げ、その特徴を説明できる。
- (3) 表音文字と表意文字を説明できる。
- (4) 言語音の分類法を説明できる。
- (5) 英語および日本語の音の特徴を説明できる。
- (6) 連濁がどのような現象か説明し、連濁が生じる条件について考察する。
- (7) 会話の協調原則と会話の公理を説明できる。
- (8) 会話の公理からの逸脱によって生じる含意を説明できる。
- (9) 代名詞の束縛規則について説明できる。
- (10) 受動文形成における句の移動について説明できる。
- (11) 受動文形成規則に課される制約について説明できる。
- (12) 語族の概念について説明できる。
- (13) 英語の歴史的変化について説明できる。

4. 準備学習

予習：授業時に使用するプリントを事前に配布するので一読してから授業に臨むこと。
 自主学習：レポートの題材とするので、授業中に紹介した書籍を1冊以上読むこと。

5. 評価

20% 出席および授業時の態度
 80% レポート

6. 教科書・参考書

教科書：プリントを使用
 参考書：授業中に紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	文字「講義」	薬学準備教育(1)	記号と文字, 世界の言語で使われる文字	伊藤 頼位
2	音声「講義」	薬学準備教育(1)	再発見: 英語の発音・日本語の発音	伊藤 頼位
3	音韻「講義」	薬学準備教育(1)	日本語の連濁現象	伊藤 頼位
4	会話の公理「講義」	薬学準備教育(1)	会話の協調原則と会話の公理	伊藤 頼位
5	意味解釈「講義」	薬学準備教育(1)	代名詞の解釈規則	伊藤 頼位
6	変形「講義」	薬学準備教育(1)	受動態に関する規則	伊藤 頼位
7	言語変化「講義」	薬学準備教育(1)	英語の歴史	伊藤 頼位

授業科目名	哲学A		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (人文科学)	選択	1単位
担当教員	講師 (歯学部): 鈴木敏城		
オフィスアワー	月曜日 12:10~13:00		

1. 科目の概要

哲学は、人間が自分の自由な意志と責任において、自分をどのように創っていくのかを問う。哲学のテーマとなる人間存在は、自分の死を自覚した上で、人生の中で自分を創っていく存在である。

一方医療は、人間が得る疾病や外傷を治療し、生命の危機にある人間を快復させ、その個人の人生へと戻していく。医療は、患者としての他者の死を意識し、その他者を死から遠ざけ人生に戻していく関わりである。

哲学も医療も死と人生(生)という共通した視点を持つが、哲学の視点は自分の生と死を考える主体への視点であり、医療の視点は他者の生と死を考える客体への視点である。

医療者を目指す薬学部の学生が哲学を考えることは、学生が自分を捉え自身の人生を創造していく上でも、医療と哲学との関連を考え医療の中に患者としての個人の主体性を取り入れる意味でも重要である。そこで、「哲学A」では、次の3点に重点を置き授業を展開する。

- ① 「哲学する」とはどのような行為か、自分を創造するとはどのような行為かを考える。
- ② 哲学を現実問題のを解決に応用する「公共哲学」と「臨床哲学」について考える。

授業は、講義、教師と学生との対話、学生同士の対話、学生個人の思考、その思考の文章化という各要素で構成される。学生には、読むこと、聴くこと、話すこと、考えること、書くことが要求される。講義も重視するが、学生が聴くだけの講義ではなく、受講生には自分の考えをまとめ、それを口頭で発表したり文章で表現することが要求される。

授業の中で学生が何をどのように考え発表したか。また、授業時に毎回学生が書いて提出する文章の内容を形成的評価の材料とする。従って、授業は授業の時間であると同時に評価の時間でもある。

2. 一般目標

人間存在の持つ自由と責任を自覚する。その自覚に根ざした自己決定と行動の重要性に気付く。自分自身を創造する哲学的自覚を持った医療者となることを目指し、患者の生と死を、単に客体としての生と死ではなく、患者が人間存在として自己決定し創造していく人生そのものと捉え、医療の中に患者としての人間存在の主体性を取り入れる態度が必要であることを理解する。

3. 行動目標

- ① 「哲学する」とはどのような行為か、自分を創造するとはどのような行為かについて理解する。
「弁証法」と「実存哲学」の概略を理解する。
人間の「現存在」としてのあり方、「実存」としての生き方を考える。
- ② 哲学を現実問題の解決に応用する「公共哲学」と「臨床哲学」について理解する。
市民社会と「新しい公共」について理解する。
医療と哲学を繋ぐ「哲学の臨床分野」について理解する。

4. 準備学習

- ① シラバスを読み、次の授業のテーマや内容に関連する事柄を図書館やインターネットで調べて読んでおく。
 - ② 各自が調べた授業のテーマや内容に関連する事柄に対し、自分の立場や意見を考えておく。
 - ③ ②で考えた内容を箇条書きにし、論理的な繋がりを考えておく。
- * ①②③の学習準備にかかる時間は30~60分程度。毎回この準備をしておくことで、授業時の理解度が上がり、授業中に発表を求められた場合の材料になる。また、授業時に各自が書いて提出する文章を構成することが容易になる。

5. 評価

- ① 発表等の内容：30% (教師との対話及び学生同士の対話〈2人あるいはグループでの討議〉)
 ② 文章の論理性：40% (毎回授業時に授業で取り上げた内容への各自の意見を書いて提出する)
 ③ 出席の状況：30% (学生が聴くだけの講義ではない。欠席者は授業中の対話に参加しなかったことになる) 出席の判定は、授業時に毎回学生に課す課題文の提出をもって出席と判定する。

6. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配付する。

参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	オリエンテーション 古代・中世の哲学 「講義及び対話」	A-(1)-① -6,7 準備教育- (1)-1,2	鈴木 敏城
2	近代の哲学 (弁証法) 「講義及び対話」	A-(1)-① 1,5,6,7 準備教育- (1)-1,2	鈴木 敏城
3	現代の哲学 (実存哲学) 「講義及び対話」	A-(1)-① -1,5,6,7 準備教育- (1)-1,2	鈴木 敏城
4	哲学と宗教 「講義及び対話」	A-(1)-① -5,6,7 A-(1)-1 準備教育- (1)-1,2	鈴木 敏城
5	死生学 「講義及び対話」	A-(1)-① -5,6,7 B-(1)-1 準備教育- (1)-1,2	鈴木 敏城
6	公共哲学 (新しい公共とこれからの 哲学) 「講義及び対話」	A-(1)-① -1,2,3,4,5,6,7 A-(1)-①- 1, 2, 3 準備教育- (1)-1,2	鈴木 敏城
7	臨床哲学 (臨床に应用する哲学) 「講義及び対話」	A-(1)-① -1,2,3,4,5,6,7 A-(2)-① -1,3,4 準備教育- (1)-1,2	鈴木 敏城

授業科目名	哲学B		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (人文科学)	選択	1単位
担当教員	講師 (歯学部): 鈴木敏城		
オフィスアワー	月曜日 12:10~13:00		

1. 科目の概要

哲学は、人間が自分の自由な意志と責任において、自分をどのように創っていくのかを問う。哲学のテーマとなる人間存在は、自分の死を自覚した上で、人生の中で自分を創っていく存在である。

一方医療は、人間が得る疾病や外傷を治療し、生命の危機にある人間を快復させ、その個人の人生へと戻していく。医療は、患者としての他者の死を意識し、その他者を死から遠ざけ人生に戻していく関わりである。

哲学も医療も死と人生(生)という共通した視点を持つが、哲学の視点は自分の生と死を考える主体への視点であり、医療の視点は他者の生と死を考える客体への視点である。

「哲学B」では、医療と哲学の関連、医療への哲学の応用、医療哲学がテーマとする分野を考えていく。授業は、講義、教師と学生との対話、学生同士の対話、学生個人の思考、その思考の文章化という各要素で構成される。学生には、読むこと、聴くこと、話すこと、考えること、書くことが要求される。講義も重視するが、学生が聴くだけの講義ではなく、受講生には自分の考えをまとめ、それを口頭で発表したり文章で表現することが要求される。

授業の中で学生が何をどのように考え発表したか。また、授業時に毎回学生が書いて提出する文章の内容を形成的評価の材料とする。従って、授業は授業の時間であると同時に評価の時間でもある。

2. 一般目標

人間存在の持つ自由と責任を自覚する。その自覚に根ざした自己決定と行動の重要性に気付く。自分自身を創造する哲学的自覚を持った医療者となることを目指し、患者の生と死を、単に客体としての生と死ではなく、患者が人間存在として自己決定し創造していく人生そのものと捉え、医療の中に患者としての人間存在の主体性を取り入れる態度が必要であることを理解する。

3. 行動目標

- ① 医療と哲学を繋ぐ哲学の臨床分野「臨床哲学」について理解する。
- ② 「医療哲学」がテーマとする分野を理解する。
- ③ 患者の自己決定権、患者の権利について理解する。
- ④ 終末期医療と「スピリチュアルケア」について理解する。

4. 準備学習

- ① シラバスを読み、次の授業のテーマや内容に関連する事柄を図書館やインターネットで調べて読んでおく。
 - ② 各自が調べた授業のテーマや内容に関連する事柄に対し、自分の立場や意見を考えておく。
 - ③ ②で考えた内容を箇条書きにし、論理的な繋がりを考えておく。
- * ①②③の学習準備にかかる時間は30~60分程度。毎回この準備をしておくことで、授業時の理解度が上がり、授業中に発表を求められた場合の材料になる。また、授業時に各自が書いて提出する文章を構成することが容易になる。

5. 評価

- ① 発表等の内容：30% (教師との対話及び学生同士の対話〈2人あるいはグループでの討議〉)
- ② 文章の論理性：40% (毎回授業時に授業で取り上げた内容への各自の意見を書いて提出する)
- ③ 出席の状況：30% (学生が聴くだけの講義ではない。欠席者は授業中の対話に参加しなかったことになる)
出席の判定は、授業時に毎回学生に課す課題文の提出をもって出席と判定する。

6. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配付する。

参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	オリエンテーション 哲学Aの復習と哲学Bの概略 (実存哲学の整理) 「講義及び対話」	A-(1)-① -5,6,7 準備教育- (1)-1,2	鈴木 敏城
2	「臨床哲学」 (臨床問題への哲学の応用) 「講義及び対話」	A-(1)-① 1,2,3,4,5,6,7 準備教育 -(2)-① -1,2,3,4 準備教育- (1)-1,2	鈴木 敏城
3	患者の権利 (患者の自己決定権) 「講義及び対話」	A-(1)-① -1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 A-(2)-② -1, 2, 3 A-(2)-③ -1, 2, 3, 4 A-(2)-④ -1, 3 A-(3)-① -1, 2, 3, 4, 5, 6	鈴木 敏城
4	インフォームドコンセント (患者と医療者との関係) 「講義及び対話」	A-(1)-① -1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 A-(2)-② -1, 2, 3 A-(2)-③ -1, 2, 3, 4 A-(2)-④ -1, 3	鈴木 敏城
5	緩和医療とターミナルケア (疾病受容と死の受容) 「講義及び対話」	A-(1)-① -1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 A-(2)-① -1, 3 B-(1)-1	鈴木 敏城
6	尊厳死 (尊厳死と安楽死) 「講義及び対話」	A-(1)-① -1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 A-(2)-① -1, 3 B-(1)-1	鈴木 敏城
7	薬剤師として哲学する 「講義及び対話」		鈴木 敏城

授業科目名	文学A		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (人文科学)	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：川崎美佐子		
オフィスアワー	木曜日授業終了後		

1. 科目の概要

すべての学問は人間性を育てることに通じている。学問は知的好奇心を高め、知識を拡大し、私たちの人生を豊かにしてくれる。文学を学ぶ意義もそこにある。文学作品とは先人たちの英知の宝庫である。私たちが人生において悩んだ時にはなぐさめとなり、迷った時には進むべき道を示す指針となってくれる。

この授業では主に英詩を扱う。英詩の文の構造、表現、音などに注目しながら詩を読み味わう。時代背景など文学史的な説明も行いながら、英詩についての知識をより深めていく。詩とは、詩人の日常生活の感情の吐露から超現実的な想像力や思想などを、巧みな言葉を用いて表現した芸術作品である。この機会に是非英詩に触れ、自分自身の想像力や感性、人間性を磨くきっかけとしてもらいたい。授業は演習形式で行っていくので、30～40名の受講者を想定している。受講希望者がこの人数を超える場合は抽選を行う。毎回授業の後に、感想や自分の考え、疑問点などをワークシートに記入し提出してもらい、点数化して評価に加える。

2. 一般目標

さまざまな解釈をもとに英詩を読解することを通して、詩を味わい、感性を磨き、自己表現力を高めることを目標とする。

3. 行動目標

- (1) 英詩の構造を知る。
- (2) 英詩の内容を理解することができる。
- (3) 時代背景や詩人の生い立ちなど、文学史的な教養を身につける。
- (4) 詩に対して感じたことや思ったことなどを自分の言葉で表現できる。

4. 準備学習

初回の授業において、取り扱う英詩や詩人について説明するので、自分でも詩人の生い立ちや生きた時代について図書館などで調べてみることを。授業には英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

5. 評価

平常点（出席、態度、授業参加度等）20%
 ワークシート 30%
 レポート 50%

6. 教科書・参考書

教科書：プリントを配布する。

参考書：英和辞典

その他必要があれば、授業時に紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	Introduction 文学とは, 英詩とは「講義」 と「演習」	薬学準備教 育(1)	授業の説明 英詩の読み方の説明	川崎 美佐子
2	英詩を読む(1) 「講義」と「演習」	薬学準備教 育(1)	比較的読みやすい詩を読む	川崎 美佐子
3	英詩を読む(2) 「講義」と「演習」	薬学準備教 育(1)	女性詩人の詩の読解と鑑賞	川崎 美佐子
4	英詩を読む(3) 「講義」と「演習」	薬学準備教 育(1)	ロマン派詩人の詩の読解と鑑賞	川崎 美佐子
5	英詩を読む(4) 「講義」と「演習」	薬学準備教 育(1)	ロマン派詩人の詩の読解と鑑賞詩を作ってみ る	川崎 美佐子
6	英詩を読む(5) 「講義」と「演習」	薬学準備教 育(1)	シェイクスピアのソネット	川崎 美佐子
7	英詩を読む(6) 「講義」と「演習」	薬学準備教 育(1)	シェイクスピアの作品鑑賞	川崎 美佐子

授業科目名	文学B		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (人文科学)	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：川崎美佐子		
オフィスアワー	木曜日授業終了後		

1. 科目の概要

すべての学問は人間性を育てることに通じている。学問は知的好奇心を高め、知識を拡大し、私たちの人生を豊かにしてくれる。文学を学ぶ意義もそこにある。文学作品とは先人たちの英知の宝庫である。私たちが人生において悩んだ時にはなぐさめとなり、迷った時には進むべき道を示す指針となってくれる。

この授業では主に英米文学のさまざまな作品を扱う。有名な詩、劇、小説を原文で読み味わう。時代背景など文学史的な説明も行いながら、英米文学作品についての知識をより深めていく。この機会に是非有名な文学作品に触れ、自分自身の想像力や感性、人間性を磨くきっかけとしてもらいたい。授業は演習形式で行っていくので、30～40名の受講者を想定している。受講希望者がこの人数を超える場合は抽選を行う。毎回授業の後に、感想や自分の考え、疑問点などをワークシートに記入し提出してもらい、点数化して評価に加える

2. 一般目標

さまざまなジャンルの文学作品に触れることで感性を磨き、作品解釈や作者の意図を読み取ることで読解力を身につけ、作品に対して自分の考えをまとめることで自己表現力を高めることを目標とする。

3. 行動目標

- (1) 英米文学作品についての知識を身につける。
- (2) 原文精読を通して作者の意図を読み取る。
- (3) 時代背景や作者の生い立ちなど、文学史的な教養を身につける。
- (4) それぞれの文学作品に対して感じたことや思ったことなどを自分の言葉で表現できる。

4. 準備学習

初回の授業において、取り扱う作品や作家について説明するので、自分でも作品の内容、作者の生い立ちや生きた時代について図書館などで調べてみることを。授業には英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

5. 評価

平常点（出席、態度、授業参加度等）20%

ワークシート 30%

レポート 50%

6. 教科書・参考書

教科書：プリントを配布する。

参考書：英和辞典

その他必要があれば、授業時に紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	Introduction 文学とは「講義」と「演習」	薬学準備教育(1)	授業の説明 英米文学についての説明	川崎 美佐子
2	イギリス文学 (1) 「講義」と「演習」	薬学準備教育(1)	ロマン派の詩を読む	川崎 美佐子
3	イギリス文学 (2) 「講義」と「演習」	薬学準備教育(1)	シェイクスピアの作品	川崎 美佐子
4	イギリス文学 (3) 「講義」と「演習」	薬学準備教育(1)	イギリスの小説について	川崎 美佐子
5	アメリカ文学 (1) 「講義」と「演習」	薬学準備教育(1)	アメリカ女性詩人の詩を読む	川崎 美佐子
6	アメリカ文学 (2) 「講義」と「演習」	薬学準備教育(1)	ロストジェネレーション時代の作家とその作品 (1)	川崎 美佐子
7	アメリカ文学 (3) 「講義」と「演習」	薬学準備教育(1)	ロストジェネレーション時代の作家とその作品 (2)	川崎 美佐子

授業科目名	経済学A		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (社会科学)	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：後藤康夫		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

テーマ：世界経済入門—21世紀のアジアの時代と経済学の展開—。経済学というと、皆さんはどんなイメージを持っていますか。「カネもうけの実用学問」でしょうか。あるいは、「数学を駆使した専門学問」でしょうか。ここでは、「人間発達の経済学」を提起し、アジアで初めてノーベル経済学賞を受賞したアマルティア・センを取り上げます。21世紀は、「アジアの時代」と言われていますので、アジアの未来、そして日本の未来を考えながら、一緒に経済学を学んでいくこととします。

2. 一般目標

- ① 地球市民としてスケール大きなものの見方、考え方を身につける。
- ② 「人間発達の経済学」を学ぶ。

3. 行動目標

- ① 他者の意見に耳を傾け、理解する。
- ② 自分の意見を、わかりやすく相手に伝える。
- ③ 講義は、学生参画型を採用し、学生の皆さん方との討論、学生自身のグループ・ディスカッションを行いながら、進めていく。したがって、コミュニケーション能力が求められる。

4. 準備学習

世界はいま、大変な激動期にあります。新聞やテレビ、インターネットを通して、「世界の動き」を敏感にキャッチすることが望まれます。もちろん、テキストを事前に読んで予習することや、理解できなかったところを自分で復習したり、それでも理解できなかった場合は、担当教員に質問することは大前提です。そのためには、本屋さんや図書館に出向くなど、「自分の手と足で調べる」ことが求められます。

5. 評価

出席や討論への参加は大前提で、レポートを作成（A4サイズで1枚程度：100%）してもらいます。

6. 教科書・参考書

教科書：アマルティア・セン『貧困の克服 —アジア発展の鍵は何か—』（大石りら訳）、集英社新書、640円＋税。

参考書：池田香代子『世界がもし100人の村だったら』。西川潤『新・世界経済入門』岩波新書。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	21世紀の世界	薬学準備教育(1)	格差と貧困 暴力の連鎖	後藤 康夫
2	アジアの経済成長と社会的危機	薬学準備教育(1)	教育 医療 出生率 高齢化	後藤 康夫
3	世界の工場：中国とインド	薬学準備教育(1)	低賃金 不公正 貧しい人々の声	後藤 康夫
4	アジア的価値	薬学準備教育(1)	権威主義 市民的権利の抑圧	後藤 康夫
5	インドの経験	薬学準備教育(1)	独立 文化的多様性	後藤 康夫
6	人間の安全保障	薬学準備教育(1)	生活の質 公共的議論	後藤 康夫
7	総合討論	薬学準備教育(1)	経済学的ものの見方 レポートの書き方	後藤 康夫

経済学	経済学B		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (社会科学)	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：後藤康夫		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

テーマ：日本経済入門—働き方を通して考える—。バイトの経験のある受講生のみなさん，その職場の環境はいかがですか。あるいは，受講生の家族の皆さん方の働き方はいかがでしょう。この講義では，身近な働き方を通して，日本経済，そして日本社会のあり方を考えていきます。とくに，次の3つに焦点をします。①派遣やパート，そして正社員などの雇用条件は，どこが違うのでしょうか。そしてこの雇用条件の違いは，一種の「身分」となっているのはどうしてでしょうか。②格差や貧困を通して，日本社会や政府の政策のあり方を考えていきます。③どうしたら，「まともな働き方」が実現されるのでしょうか。

2. 一般目標

- ① 他国との比較などを通して，「世界のなかの日本」を考える。
- ② 日本経済を通して，経済学を具体的に考える。

3. 行動目標

- ① 他者の意見に耳を傾け，理解する。
- ② 自分の意見を，わかりやすく相手に伝える。
- ③ 講義は，学生参画型を採用し，学生の皆さん方との討論，学生自身のグループ・ディスカッションを行いながら，進めていく。したがって，コミュニケーション能力が求められる。

4. 準備学習

世界も日本も，大変な激動期にあります。新聞やテレビ，インターネットを通して，「世界の動き」，「日本の動き」を敏感にキャッチすることが望めます。もちろん，テキストを事前に読んで予習することや，理解できなかったところを自分で復習したり，それでも理解できなかった場合は，担当教員に質問することは大前提です。そのためには，本屋さんや図書館に出向くなど，「自分の手と足で調べる」ことが求められます。

5. 評価

出席や討論への参加は大前提で，レポートを作成（A4サイズで1枚程度：100%）してもらいます。

6. 教科書・参考書

教科書：森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書，800円＋税。

参考書：① 森岡孝二『働きすぎの時代』岩波新書。

- ② 森岡孝二『就職とは何か—まともな働き方の条件—』岩波新書。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	いま, 若者たちの働き方は 薬学準備教育(1)	ブラック・バイト 非正規雇用	後藤 康夫
2	派遣 薬学準備教育(1)	女工哀史 規制緩和	後藤 康夫
3	パート 薬学準備教育(1)	日本的性別分業 女性のM字型雇用	後藤 康夫
4	正社員 薬学準備教育(1)	過労死 ストレス・うつ	後藤 康夫
5	格差と貧困 薬学準備教育(1)	ワーキング・プア 低所得	後藤 康夫
6	政府の雇用政策 薬学準備教育(1)	官製ワーキング・プア 生活保護	後藤 康夫
7	まともな働き方 薬学準備教育(1)	ディーセント・ワーク 最低賃金引き上げ	後藤 康夫

授業科目名	社会学A		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (社会科学)	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：小久保嘉代		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

社会学は近代社会の成立と相前後として生まれた、比較的「若い」学問分野である。近代社会において、産業革命や身分制度の崩壊を背景として科学的・合理的世界観が広まり、様々な社会現象をより客観的に把握・分析しようとする態度が現れた。これが「社会学」という学問分野のはじまりである。

社会学において分析の対象となるのは、複数の人間および社会集団が常時互いに関わり合うことを前提として成り立つ社会の仕組みそのものであり、社会学者たちもその仕組みの解読を様々な切り口から試み続けてきた。そこでこの授業においても、「役割」や「家族」、「集団・組織」など我々が日々の生活の中で比較的身近に接する事象や関係性に注目し、関連する議論を紹介したい。受講前に必要とされる知識は特にないが、日常生活において自明視しがちな社会の仕組みや人と人との関わりの枠組みに対する気づきの力を育むことをこの授業の目標とする。

2. 一般目標

社会学の基礎知識を学び、現代社会の基本的構造、様々な集団・組織の構成原理、人々のつながり・生活様式のあり方についての今日的な課題について理解できるようになることを目標とする。

これらの過程を通して、現代社会における様々な課題への感心と分析力を是非身につけて欲しい。

3. 行動目標

1. 社会学の基礎知識を身につけ、世の中で発生する様々な社会現象を分析的に把握できるようになること。
2. 現代社会における様々な社会システムと、それぞれの連関について学ぶこと。
3. 「個人的なこと」と「社会的なこと」とのそれぞれのつながりを考えられるようになること。

4. 準備学習

受講前に必要とされる知識および技能は特にはないが、授業でとりあげたトピックから日常生活に対する知的好奇心を持ち続ける態度を是非育くまれない。

5. 評価

定期試験（記述式：授業配布資料・ノート類に限り持ち込み可）100%

6. 教科書・参考書

教科書：特になし。教員作成の資料を使用する。

参考書：特になし。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	社会学ことはじめ：社会学誕生とその背景 「講義」	薬学準備教育(1) 西欧近代社会の成立過程と、最初期の社会学者の「世の中の見方」について紹介する。	小久保嘉代
2	社会から人を見る・人から社会を見る・社会から社会を見る—デュルケム, ウェーバー, パーソンの社会学 「講義」	薬学準備教育(1) 社会学の二大巨頭・デュルケムとウェーバーの議論とその特徴について紹介する。	小久保嘉代
3	家族の仕組みとはたらき—知っていて知らないその姿 「講義」	薬学準備教育(1) 家族の種類とその機能について紹介する。	小久保嘉代
4	集団と組織—目的があるときもないときも 講義	薬学準備教育(1) 様々な集団・組織の種類とその特徴・機能についての議論を紹介する。	小久保嘉代
5	「生活」のとらえ方—今のこと, 一生のこと 「講義」	薬学準備教育(1) 比較的短いタイムスパンにおけるライフスタイルの様態, および生涯におけるライフステージの変遷が社会から受ける影響について学ぶ。	小久保嘉代
6	社会構造と社会階層—「階級」とは違います 「講義」	薬学準備教育(1) 「社会階層」の概念を学び, 社会階層が社会の仕組みに及ぼす影響について考える。	小久保嘉代
7	社会問題の捉え方—「逸脱」はなぜおこる 「講義」	薬学準備教育(1) 社会問題をどのようなものとして把握するかについての様々な議論を学ぶ。	小久保嘉代
8	定期試験		

授業科目名	社会学B		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (社会科学)	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：小久保嘉代		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

社会学Bの授業では、社会学が対象としているトピックの中でも特に人々と「時間・空間」との関わりという側面に焦点を据える。我々は常に、自分が存在している時間・空間からの影響を受けながら、人々と関わり「社会」を形成している。その営みの中で、自らに与えられた時間や空間を如何に意味付け・活用し、人々との関わりを築き上げてゆくに至ったかについて、地域社会学および空間論の知見を踏まえながら解説する。そしてこれらの知見をもととして、近現代の東北地方がいかなる社会変動に見舞われつつ現在に至っているかについて概観する。

2. 一般目標

人々が自らを取り巻く環境を如何に意味付け、活用してゆくかについての様々な捉え方について学び、この知識を背景として近現代の東北地方の歩みについての知識・教養を深めることを目標とする。

3. 行動目標

1. 時間・空間に対する人々の様々な認識について知識を深めること。
2. 農地や工場、商店街や住宅地等々の「日常の風景」における規則性についての知識を得ること。
3. 近現代の東北地方の社会変動についての知識を身につけること。

4. 準備学習

受講前に必要とされる知識および技能は特にはないが、授業でとりあげたトピックから日常生活に対する知的好奇心を持ち続ける態度を是非育くまれない。

5. 評価

定期試験（記述式：授業配布資料・ノート類に限り持ち込み可）100%

6. 教科書・参考書

教科書：特になし。教員作成の資料を使用する。

参考書：特になし。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	空間の認識と地図 「講義」	薬学準備教育(1)	人間社会における空間の認識と表現の多様性について概説する。	小久保嘉代
2	地域社会の基本的な構造 「講義」	薬学準備教育(1)	地域社会の構造と変動についての基礎理論を紹介する。	小久保嘉代
3	生活時間と生活空間 「講義」	薬学準備教育(1)	近代化とそれに伴う時間規制・空間規制について概説する。	小久保嘉代
4	農村空間と農業立地 「講義」	薬学準備教育(1)	農村社会を規定し、農村社会から規定される空間と立地について概説する。	小久保嘉代
5	工業と工場立地 「講義」	薬学準備教育(1)	「ものづくり」とそのための立地がいかなる展開を見せているかについて概説する。	小久保嘉代
6	都市社会の構造 「講義」	薬学準備教育(1)	「住まうところ」としてみた都市とその特徴について論じる。	小久保嘉代
7	近現代の東北地方 「講義」	薬学準備教育(1)	これまでのまとめとして明治時代から現代に至るまでの東北地方の変化について紹介する。	小久保嘉代
8	定期試験			

授業科目名	歴史学A		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (社会科学)	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：柳田春子		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

郡山は奥州街道の宿駅であり、各地への交通も開け、二本松藩安積三組の代官所および蔵場もあったことから、在郷町として発達した。文政7年(1824)閏8月には、「村」から「町」へ昇格をゆるぎされて「郡山町」が誕生した。郡山は、諸大名の参勤交代の休泊や人馬継ぎ立て、問屋場の整備・拡大により、旅籠屋商店の町並みも発達した。また、全国的な通信・遞送を請負う京屋・島屋の進出もあり、ますます町場としての機能を拡大し、城下町の特権商人に劣らない資力をもつ商人も出現したのである。宝暦12年(1762)以降頃から、藩は幕府の御手伝普請やその他の公務、藩主の臨時的な支出を賄うため、領内の農商からの貸上金・才覚金などの徴収が不可欠となっていたが、郡山・本宮などの在郷商人の財力に頼らねば、藩体制は維持できなくなっていた。

受講者が、郡山の発展の基礎は江戸時代にすでに芽生えていたことを理解し、当時の「郡山宿の賑わい」の様子知り、農民の負担実態も理解できることを目的とする。

2. 一般目標

実際生活している現在の郡山市の歴史の理解を深め、郡山に残っている記録(資料)などから歴史を身近なものとして考えられるようになり、歴史のながれの中に生活していることに気付く。

3. 行動目標

- 1 郡山が奥州街道(仙台・松前道)の宿駅として発展してきたことを理解する。
- 2 当時の交通手段である伝馬制度と寄人馬(助郷)を理解する。
- 3 問屋の整備と諸大名・幕府役人の休泊が宿にとって負担となっていたことを理解する。
- 5 郡山が宿場町であり旅籠屋が軒を並べ賑わっていたことや当時の社会の矛盾にも気づく。
- 6 軒並図から江戸時代の郡山宿の姿を理解する。
- 8 文政7年の「村」から「町」への昇格を当時の史料を示し、行政側と民間側からの動きを知る。
- 9 貨幣経済の拡大と商品作物の流通により、物価高騰し、大名も献金か無くては藩運営ができなかったこと、格式という賞誉を与えて献金をうけていた社会状況を理解する。

4. 準備学習

レポート提出を課すので、できるだけ通して出席をすること。毎回渡すプリントなどの資料を目を通しておくこと。

5. 評価

- ①出席の状況：30% ②授業の態度：10% ③レポート：60%

6. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配布する。

参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	郡山宿の歴史 (1)「講義」	薬学準備教育(1)	二本松藩の成り立ちと郡山宿について	柳田 春子
2	郡山宿の歴史 (2)「講義」	薬学準備教育(1)	奥州街道の宿駅・伝馬制度と寄人馬 (助郷)	柳田 春子
3	郡山宿の歴史 (3)「講義」	薬学準備教育(1)	問屋の整備と諸大名・幕府役人の休泊	柳田 春子
4	郡山宿の歴史 (4)「講義」	薬学準備教育(1)	旅籠屋と飯盛女	柳田 春子
5	郡山宿の歴史 (5)「講義」	薬学準備教育(1)	軒並図からみた郡山宿の様子	柳田 春子
6	郡山宿の歴史 (6)「講義」	薬学準備教育(1)	文政七年の郡山宿昇格について	柳田 春子
7	郡山宿の歴史 (7)「講義」	薬学準備教育(1)	献金・賞誉と農民の負担	柳田 春子

授業科目名	歴史学B		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (社会科学)	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：柳田春子		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

安積疏水は、明治政府が大規模な東北地方開発政策を掲げるなかでこれをその中心に据え、国営事業第一号として総力をあげて完成させた一大土木遺産である。安積疏水の恵みは、農業用水のほか、発電、工業用水・飲料水など広範囲に及んでいる。

安積疏水が産業の近代化に果たした役割にスポットをあて、この時代の商工業の発達、現在の郡山の町の姿の原型となっていることを理解できるようにする。

2. 一般目標

戊辰戦争の兵火により町が焼かれたにうえ、藩も消滅したなかでの村役人たちの行動と役割を知る。岩倉使節団に参加していた安場保一や大久保利通と郡山のかかわりを通して、明治初期の郡山の歴史が動いたことを理解する。郡山が江戸末期約4,500人弱の宿場町から現在は32万人の人口を持つ中核都市となっていることを資料を通して理解する。

3. 行動目標

- 1 安積疏水ができる前の郡山の農業用水事情と江戸末期にあった湖水東注を考えた人々にふれる。
- 2 県令安場保和指揮の県の安積開拓のはじまりと桑野村の誕生について理解する。
- 3 安積疏水の調査と設計と安積疏水の開削について理解する。
- 4 明治政府による国営安積開墾について理解する。
- 5 安積疏水の恩恵 ～製糸業～ の発達について理解する。
- 6 安積疏水の恩恵 ～水力発電～ について理解する。
- 7 安積疏水の恩恵 ～上水道～ について理解する。
- 8 安積疏水の維持・管理と商業の町から工業の町へ変革した様子を理解する。

4. 準備学習

レポート提出を課すので、できるだけ通して出席をすること。毎回渡すプリントなどの資料を目を通しておくこと。

5. 評価

- ①出席の状況：30% ②授業の態度：10% ③レポート：60%

6. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配布する。

参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	安積疏水の歴史(1)「講義」 薬学準備教育(1)	安積疏水前史と湖水東注	柳田 春子
2	安積疏水の歴史(2)「講義」 薬学準備教育(1)	安積開拓のはじまりと桑野村の誕生	柳田 春子
3	安積疏水の歴史(3)「講義」 薬学準備教育(1)	安積疏水の調査と設計と安積疏水の開削	柳田 春子
4	安積疏水の歴史(4)「講義」 薬学準備教育(1)	明治政府による開墾	柳田 春子
5	安積疏水の恩恵(1)「講義」 薬学準備教育(1)	製糸業	柳田 春子
6	安積疏水の恩恵(2)「講義」 薬学準備教育(1)	水力発電	柳田 春子
7	安積疏水の恩恵(3)「講義」 薬学準備教育(1)	上水道	柳田 春子

授業科目名	薬学英語 I		1年
授業区分	一般教養科目 (外国語)	必修	1単位
担当教員	講師：伊藤頼位		
オフィスアワー	平日昼休み		

1. 科目の概要

英語は薬学の学習・研究においてもっとも多く用いられている言語であり、その習得は薬学を志すものにとって必要不可欠である。また、英語による会話の能力は、現代社会における必須の素養であるだけでなく、国際化する医療現場において、その必要性が高まっている。この授業では、英語で書かれた文章から必要な情報を的確に読み取るための基礎的技能を養成する。

2. 一般目標

英語で書かれた文章から必要な情報を的確に読み取るため、読解速度の向上を図り、さまざまな読解技術を習得すると同時に受容語彙を増加させる。また、基本的な文法事項を再確認し、それらを英語運用に活かせるよう訓練する。

3. 行動目標

- (1) 平易な英語で書かれた文章を速読し、主題を把握することができる。
- (2) 平易な英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。
- (3) 2500語の受容語彙 (receptive vocabulary) を獲得している。
- (4) 科学に関連する平易な英単語の意味を理解している。
- (5) 効果的な方略と技能を用いて語彙を増加させることができる。
- (6) 文法知識を活用して正確な英語運用ができる。

4. 準備学習

予習：テキストの該当ユニット通読し、未知の単語を単語ノートに記載してその意味を辞書で調べる。テキストの音声ファイルを5回以上聞く。

復習：授業時に配布されるホームワークシートに取り組み、次回授業時に提出する。

※授業には必ず英和辞典を持参すること。(電子辞書でも可)

5. 評価

10% 授業時の態度

30% ホームワーク

60% 定期試験

6. 教科書・参考書

教科書：An Introduction to Scientific English for Japanese College Students

(大学生のための科学英語入門) 平野 幸彦 他著 南雲堂

参考書：旺文社『オーレックス英和辞典 第2版』

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	Chapter 1, Unit 1.1 「演習」	薬学準備教育(3)	Cells リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
2	Chapter 1, Unit 1.2 「演習」	薬学準備教育(3)	Tissues リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
3	Chapter 1, Unit 1.3 「演習」	薬学準備教育(3)	New cells from old リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
4	Chapter 1, Unit 1.4 「演習」	薬学準備教育(3)	Henrietta Lacks and her immortal cells リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
5	Chapter 1, Unit 1.5 「演習」	薬学準備教育(3)	Are you irreplaceable? リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
6	Chapter 1 Summary 「演習」	薬学準備教育(3)	Chapter 1 学習事項のまとめ 文法・語彙演習	伊藤 頼位
7	Chapter 2, Unit 2.1 「演習」	薬学準備教育(3)	Carnival people リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
8	Chapter 2, Unit 2.2 「演習」	薬学準備教育(3)	A closer look at carnival people リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
9	Chapter 2, Unit 2.3 「演習」	薬学準備教育(3)	Hard lessons リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
10	Chapter 2, Unit 2.4 「演習」	薬学準備教育(3)	Expansion リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
11	Chapter 2, Unit 2.6 「演習」	薬学準備教育(3)	Always moving and mixing リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
12	Chapter 2 Summary 「演習」	薬学準備教育(3)	Chapter 2 学習事項のまとめ 文法・語彙演習	伊藤 頼位
13	Chapter 3, Unit 3.1 「演習」	薬学準備教育(3)	Temperature changes リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
14	Chapter 3, Unit 3.2 「演習」	薬学準備教育(3)	Energy from the Sun リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
15	Chapter 3 Summary 「演習」	薬学準備教育(3)	Chapter 3 学習事項のまとめ 文法・語彙演習	伊藤 頼位
16	定期試験	薬学準備教育(3)		伊藤 頼位

授業科目名	薬学英語 I		1年
授業区分	一般教養科目 (外国語)	必修	1単位
担当教員	非常勤講師：川崎美佐子		
オフィスアワー	木曜日授業終了後		

1. 科目の概要

国際化に伴い、医療現場の国際化も加速している現代、英語の習得は必須事項といえる。世界において、最新の研究情報や報告は英語で発信されている。薬剤師もまた、常に最新の医療研究や情報に対応するために、英語で書かれた多くの論文や文献を読む必要がある。英語で書かれた文章を速く的確に読みこなすためには、基本的な文法的知識とそれなりの語彙力が求められる。本授業では、基礎的な英語力を養うことを目指す。リスニングやリーディングを通して、英語の基本的な文法事項や英文の構造を確認し、語彙を増やすことにより、英語の土台を築いていく。基本的に演習形式で授業を行うので、受講生には積極的な授業参加と発言を期待する。

2. 一般目標

専門的な文献や研究論文を正確に読むための前段階として、英語の基本的な文法事項を確認し、語彙力を増やし、さらに英語で書かれた文章の正確な読解力を身につける。

3. 行動目標

- (1) 英文法の知識の習得。
- (2) 語彙力を高める。
- (3) リスニングにおいて、必要な情報を的確に聞き取ることができる。
- (4) 英文を正確に読み、内容を把握することができる
- (5) 英語の発音に関する知識を身につけ、活用できる。

4. 準備学習

毎回授業終了時に準備学習の範囲を指定するので、必ずやって授業に参加すること。語学は継続的な学習が不可欠なので、授業で扱う内容をもとにできる限り自主学習を行うこと。定期的に小テストを行い授業の定着を図る予定である。授業には英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

5. 評価

平常点（出席、授業態度、授業参加度、準備学習の有無、小テストなど）40%
試験 60%

6. 教科書・参考書

教科書：Living for Tomorrow: Health & Environment Topics from VOA, Seisuke Yasunami and Richard S. Lavin, SHOHAKUSHA

参考書：英和辞書

その他必要があれば、授業時に紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	Introduction Unit1「演習」	薬学準備教育(3) 授業についての説明 リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
2	Unit2「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
3	Unit3「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
4	Unit4「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
5	Unit5「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
6	Unit6「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
7	Unit7「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
8	Unit8「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
9	Unit9「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
10	Unit10「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
11	Unit11「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
12	Unit12「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
13	Unit13「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
14	Unit14「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
15	Unit15「演習」	薬学準備教育(3) リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
16	定期試験	薬学準備教育(3)	川崎 美佐子

授業科目名	薬学英語Ⅱ		1年
授業区分	一般教養科目（外国語）	必修	1単位
担当教員	講師：伊藤頼位		
オフィスアワー	平日昼休み		

1. 科目の概要

英語は薬学の学習・研究においてもっとも多く用いられている言語であり、その習得は薬学を志すものにとって必要不可欠である。また、英語による会話の能力は、現代社会における必須の素養であるだけでなく、国際化する医療現場において、その必要性が高まっている。この授業では、英語で書かれた文章から必要な情報を的確に読み取るための基礎的技能を養成する。

2. 一般目標

英語で書かれた文章から必要な情報を的確に読み取るため、読解速度の向上を図り、さまざまな読解技術を習得すると同時に受容語彙を増加させる。また、基本的な文法事項を再確認し、それらを英語運用に活かせるよう訓練する。

3. 行動目標

- (1) 平易な英語で書かれた文章を速読し、主題を把握することができる。
- (2) 平易な英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。
- (3) 3000語の受容語彙（receptive vocabulary）を獲得している。
- (4) 科学に関連する平易な英単語の意味を理解している。
- (5) 効果的な方略と技能を用いて語彙を増加させることができる。
- (6) 文法知識を活用して正確な英語運用ができる。

4. 準備学習

予習：テキストの該当ユニット通読し、未知の単語を単語ノートに記載してその意味を辞書で調べる。テキストの音声ファイルを5回以上聞く。

復習：授業時に配布されるホームワークシートに取り組み、次回授業時に提出する。

※授業には必ず英和辞典を持参すること。（電子辞書でも可）

5. 評価

10% 授業時の態度

30% ホームワーク

60% 定期試験

6. 教科書・参考書

教科書：An Introduction to Scientific English for Japanese College Students

（大学生のための科学英語入門）平野 幸彦 他著 南雲堂（「薬学英語Ⅰ」から継続）

参考書：旺文社『オーレックス英和辞典 第2版』

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	Chapter 4, Unit 4.1 「演習」	薬学準備教育(3)	Good solutions リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
2	Chapter 4, Unit 4.2 「演習」	薬学準備教育(3)	Picture solutions リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
3	Chapter 4, Unit 4.3 「演習」	薬学準備教育(3)	Unscrambling liquids リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
4	Chapter 4, Unit 4.4 「演習」	薬学準備教育(3)	State change リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
5	Chapter 4, Unit 4.5 「演習」	薬学準備教育(3)	Gases and boiling リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
6	Chapter 4 Summary 「演習」	薬学準備教育(3)	Chapter 4 学習事項のまとめ 文法・語彙演習	伊藤 頼位
7	Chapter 6, Unit 6.1 「演習」	薬学準備教育(3)	Chemical opposites リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
8	Chapter 6, Unit 6.2 「演習」	薬学準備教育(3)	Measuring acids リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
9	Chapter 6, Unit 6.3 「演習」	薬学準備教育(3)	Salt and water Safety with acids	伊藤 頼位
10	Chapter 6, Unit 6.4 「演習」	薬学準備教育(3)	Expansion リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
11	Chapter 6 Summary 「演習」	薬学準備教育(3)	Chapter 6 学習事項のまとめ 文法・語彙演習	伊藤 頼位
12	Chapter 8, Unit 8.1 「演習」	薬学準備教育(3)	What munches metal? 文法・語彙演習	伊藤 頼位
13	Chapter 8, Unit 8.2 「演習」	薬学準備教育(3)	Making a fizz リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
14	Chapter 8, Unit 8.3 「演習」	薬学準備教育(3)	A nice change リスニング・読解・語彙演習	伊藤 頼位
15	Chapter 8 Summary 「演習」	薬学準備教育(3)	Chapter 8 学習事項のまとめ 文法・語彙演習	伊藤 頼位
16	定期試験	薬学準備教育(3)		伊藤 頼位

授業科目名	薬学英語Ⅱ		1年
授業区分	一般教養科目（外国語）	必修	1単位
担当教員	非常勤講師：川崎美佐子		
オフィスアワー	木曜日授業終了後		

1. 科目の概要

本授業では、薬学英語Ⅰで学んだことをもとに、英語の文章により慣れ親しみ、より速く正確に内容を把握できるようになることを目指す。将来、英語で書かれた薬学の専門書や論文を読みこなせるようになるための準備段階として、さまざまな英語の文章に触れ、徹底的な英文法の知識の習得、語彙力の増大に重点を置く。また、リスニングやリーディングを通して、総合的に英語力を伸ばしていく。基本的に演習形式で授業を行うので、受講生には積極的な授業参加を期待する。

2. 一般目標

さまざまな英文に触れることで、英語の基本的な文法事項を確認し、語彙力を高める。英語で話された事柄を的確に聞き取り、英語で書かれた文章の正確な読解力を身につける。

3. 行動目標

- (1) 英文法を習得し語彙力を高める。
- (2) 英文の構造を理解し、より速く正確に文章を読むことができる。
- (3) 英文の内容を把握することができる。
- (4) リスニングにおいて、必要な情報を的確に聞き取ることができる。
- (5) 英語の発音に関する知識を身につけ、活用できる。

4. 準備学習

毎回授業終了時に準備学習の範囲を指定するので、必ずやって授業に参加すること。語学は継続的な学習が不可欠なので、授業で扱う内容をもとにできる限り自主学習を行うこと。定期的に小テストを行い授業の定着を図る予定である。授業には英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

5. 評価

平常点（出席、授業態度、授業参加度、準備学習の有無、小テストなど）40%
試験 60%

6. 教科書・参考書

教科書：Health Matters -Health Awareness for College Students-, Tetsuro Fujii and Adam Murray,
KINSEIDO

参考書：英和辞書

その他必要があれば、授業時に紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	Introduction Unit 1「演習」(1)	薬学準備教育(3)	授業についての説明 リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
2	Unit 1「演習」(2)	薬学準備教育(3)	リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
3	Unit 2「演習」	薬学準備教育(3)	リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
4	Unit 3「演習」	薬学準備教育(3)	リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
5	Unit 4「演習」	薬学準備教育(3)	リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
6	Unit 5「演習」	薬学準備教育(3)	リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
7	Unit 6「演習」	薬学準備教育(3)	リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
8	Unit 1 ~ Unit 6 Review	薬学準備教育(3)	Unit1 ~ Unit6の総復習	川崎 美佐子
9	Unit 7「演習」	薬学準備教育(3)	リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
10	Unit 8「演習」	薬学準備教育(3)	リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
11	Unit 9「演習」	薬学準備教育(3)	リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
12	Unit 10「演習」	薬学準備教育(3)	リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
13	Unit 11「演習」	薬学準備教育(3)	リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
14	Unit 12「演習」	薬学準備教育(3)	リスニング, 英文読解, 問題演習	川崎 美佐子
15	Unit 7 ~ Unit 12 Review	薬学準備教育(3)	Unit7 ~ Unit13の総復習	川崎 美佐子
16	定期試験	薬学準備教育(3)		川崎 美佐子

授業科目名	基礎英語演習		1年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：川崎美佐子		
オフィスアワー	木曜日授業終了後		

1. 科目の概要

本授業では、英語の基礎文法を学び、語彙をできるだけ増やすことを目指す。英語を理解するには、まずは文の仕組みを知ること、基本的な英単語の習得が必要不可欠である。さまざまな英文に触れることによって英語に対する自信をつけ、今後の英語学習へとつなげていく。また、簡単なリスニングや会話を取り入れるなど、実践的に英語を用いる機会も作っていく。基本的に演習形式で授業を行うので、受講生には積極的な授業参加を期待する。

2. 一般目標

基本的な英文法の習得と語彙を増やすことにより、今後の英語学習の土台を築くと同時に、英語学習に対する意欲と姿勢を身につける。

3. 行動目標

- (1) 英語の基本的な文法の習得。
- (2) 英語の文章を読むために必要な語彙を増やす。
- (3) 英語の発音に関する知識を身につけ、活用できる。

4. 準備学習

毎回授業終了時に準備学習の範囲を指定するので、必ずやって授業に参加すること。語学は継続的な学習が不可欠なので、授業で扱う内容をもとにできる限り自習を行うこと。定期的に小テストを行い授業の定着を図る予定である。授業には英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

5. 評価

平常点（出席，授業態度，小テストなど）40%
試験 60%

6. 教科書・参考書

教科書：プリントを配布する。

参考書：英語辞書

その他必要があれば、授業時に紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	Introduction 英語の文型, 「演習」	薬学準備教育(3)	授業の説明 英語の文型についての説明と問題演習	川崎 美佐子
2	主語と動詞, be動詞と一般動詞 「演習」	薬学準備教育(3)	be動詞と一般動詞の説明 問題演習	川崎 美佐子
3	動詞の時制, 助動詞 「演習」	薬学準備教育(3)	未来, 現在, 過去の時制と助動詞の説明 問題演習	川崎 美佐子
4	品詞について, There構文 「演習」	薬学準備教育(3)	名詞, 冠詞, 代名詞などの説明 問題演習	川崎 美佐子
5	進行形, 受動態, 完了形 「演習」	薬学準備教育(3)	進行形, 受動態, 完了形の説明 問題演習	川崎 美佐子
6	不定詞, 動名詞 「演習」	薬学準備教育(3)	不定詞, 動名詞の説明 問題演習	川崎 美佐子
7	分詞, 関係代名詞 「演習」	薬学準備教育(3)	分詞, 関係代名詞の説明 問題演習	川崎 美佐子
8	定期試験			川崎 美佐子

授業科目名	英語検定 I		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (外国語)	選択	0.5 単位
担当教員	非常勤講師：福富靖之		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

1. 科目の概要

この授業は、初めて TOEIC を受験する学生を対象とした、TOEIC 受験準備のための科目である。テストの出題様式に準拠した練習問題を解くことにより、問題への対処の仕方を身につけるとともに、PART ごとの具体的な目標を設定できるようにする。

2. 一般目標

TOEIC を始めとする検定試験は、それ自体目的ではなく、あくまでも自分の英語力を確認するための手段であることを忘れずに、総合的に英語を学習する姿勢を身につける。

3. 行動目標

- (1) 基本的な文法・語法の確認。
- (2) TOEIC で出題される様々なジャンルに関する基本的な語彙の習得。
- (3) TOEIC で用いられる様々な英語のアクセント、特にアメリカ英語とイギリス英語の違いに慣れる。

4. 準備学習

英語の習得には反復的な訓練が最も重要である。授業中の演習に加えて、予習・復習を怠らないこと。また、語彙力増強のための小テストを毎回実施するので、必ず準備して臨むこと。

5. 評価

小テスト (30%) と定期試験 (70%) に基づいて評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：教材はプリントを配布する。

参考書：授業中に指示する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	Listening PART 1「演習」	薬学準備教育(3)	写真描写問題	福富 靖之
2	Listening PART 2「演習」	薬学準備教育(3)	応答問題	福富 靖之
3	Listening PART 3「演習」	薬学準備教育(3)	会話問題	福富 靖之
4	Listening PART 4「演習」	薬学準備教育(3)	説明文問題	福富 靖之
5	Reading PART 5「演習」	薬学準備教育(3)	短文穴埋め問題	福富 靖之
6	Reading PART 6「演習」	薬学準備教育(3)	長文穴埋め問題	福富 靖之
7	Reading PART 7「演習」	薬学準備教育(3)	読解問題	福富 靖之
8	定期試験			福富 靖之

授業科目名	英語検定Ⅱ		1, 2年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：福富靖之		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

1. 科目の概要

この授業は、TOEIC 受験準備のための科目である。テストの出題様式に準拠した練習問題を解くことにより、問題形式にさらに慣れるとともに、PART ごとの具体的な目標を明確にする。通常会話で最低限のコミュニケーションができるレベルとされる 460 点を目標スコアとする。

2. 一般目標

TOEIC を始めとする検定試験は、それ自体目的ではなく、あくまでも自分の英語力を確認するための手段であることを忘れずに、総合的な英語力の向上を目指す。

3. 行動目標

- (1) 英語の文法・語法の確認。
- (2) TOEICで出題される様々なジャンルに関する語彙の習得。
- (3) TOEICで用いられる様々な英語のアクセント、特にアメリカ英語とイギリス英語の違いを聞き分ける。

4. 準備学習

英語の習得には反復的な訓練が最も重要である。授業中の演習に加えて、予習・復習を怠らないこと。また、語彙力増強のための小テストを毎回実施するので、必ず準備して臨むこと。

5. 評価

小テスト（30%）と定期試験（70%）に基づいて評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：教材はプリントを配布する。

参考書：授業中に指示する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	Listening PART 1「演習」	薬学準備教育(3)	写真描写問題	福富 靖之
2	Listening PART 2「演習」	薬学準備教育(3)	応答問題	福富 靖之
3	Listening PART 3「演習」	薬学準備教育(3)	会話問題	福富 靖之
4	Listening PART 4「演習」	薬学準備教育(3)	説明文問題	福富 靖之
5	Reading PART 5「演習」	薬学準備教育(3)	短文穴埋め問題	福富 靖之
6	Reading PART 6「演習」	薬学準備教育(3)	長文穴埋め問題	福富 靖之
7	Reading PART 7「演習」	薬学準備教育(3)	読解問題	福富 靖之
8	定期試験			福富 靖之

授業科目名	英会話 I		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (外国語)	選択	0.5 単位
担当教員	講師：伊藤頼位		
オフィスアワー	平日昼休み		

1. 科目の概要

This course is targeted to false-beginners and designed to improve their fluency in spoken English in simple everyday situations. Through conversation practices and games in pairs and small groups, students learn useful expressions and grammatical structures of spoken English. They are then encouraged to use the English language to exchange their opinions and feelings with each other in English. All the lessons of this course are conducted in English. This course limits the number of students to 30.

2. 一般目標

Students are engaged in essential conversational exchanges such as greetings, self-introduction, and talk about people, things, and places so that they can improve their fluency in spoken English.

3. 行動目標

Students will be able to carry on the following conversations in English fluently.

- (1) Greeting people
- (2) Introducing themselves
- (3) Talking about likes, dislikes and favorites
- (4) Asking about locations and giving directions
- (5) Describing someone's personality
- (6) Talking about past events
- (7) Describing future plans
- (8) Describing objects

4. 準備学習

No preparation is required. However, attendance and participation are critically important. Students are always expected to come to class with a positive attitude and play an active role there. They are also required to hand in homework assignments.

5. 評価

- 25% Attitude
- 50% Classwork (pair work, group work)
- 25% Homework

6. 教科書・参考書

- 教科書：None
- 参考書：None

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	Unit 1「演習」 薬学準備教育(3)	Greeting people / Introducing myself / Requesting repetitions	伊藤 頼位
2	Unit 2「演習」 薬学準備教育(3)	Expressing likes and dislikes / Asking about favorites	伊藤 頼位
3	Unit 3「演習」 薬学準備教育(3)	Asking about locations / Giving directions	伊藤 頼位
4	Unit 4「演習」 薬学準備教育(3)	Describing someone's personality	伊藤 頼位
5	Unit 5「演習」 薬学準備教育(3)	Talking about past events	伊藤 頼位
6	Unit 6「演習」 薬学準備教育(3)	Describing future plans	伊藤 頼位
7	Unit 7「演習」 薬学準備教育(3)	Describing objects	伊藤 頼位

授業科目名	英会話 I		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (外国語)	選択	0.5 単位
担当教員	非常勤講師：川崎美佐子		
オフィスアワー	木曜日授業終了後		

1. 科目の概要

This course focuses on improving English communication skills on everyday topics. In this course, students will have opportunities to speak English in pairs or in small groups, as well as opportunities to participate in various activities such as games, roleplaying, and presentations. Through interactive language activities, students learn not only new vocabulary and phrases, but also basic grammar and useful expressions. They are encouraged to convey information, feelings, and ideas according to the situation and purpose. In order to more effectively conduct the language activities stated above, reading and writing activities can be also integrated with listening and speaking as necessary. Students are greatly expected to actively participate in every class.

2. 一般目標

The object of this course is to enhance communicative competence in English. By the end of this course, the student will be able to comprehend others' intentions and respond appropriately relative to the situation and purpose. Students will also learn basic grammar, new vocabulary and phrases, and useful expressions that can be used in everyday settings.

3. 行動目標

Students will be able to:

- 1 . Develop English communication in a variety of settings.
- 2 . Understand what others say and respond appropriately in English.
- 3 . Make simple dialogs using new vocabulary, phrases, and expressions.
- 4 . Describe feelings, ideas, and opinions in simple English.
- 5 . Build confidence in speaking and using English.

4. 準備学習

In this course, reviewing is very important. Therefore, students are required to go over each lesson. Active participation is necessary for fostering a positive attitude toward communication and communicating more effectively in English.

5. 評価

Evaluation will be based on:

- Attendance, attitude, and active participation (30%)
- Coursework (50%)
- Assignments (20%)

6. 教科書・参考書

教科書：By The Way Strategies for Successful Conversation, Michael Hensley and Bill Burns,
MACMILLAN LANGUAGEHOUSE

参考書：None

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	Unit 1「演習」 薬学準備教育(3)	Good to Meet You Activities	川崎 美佐子
2	Unit 2「演習」 薬学準備教育(3)	School Days Activities	川崎 美佐子
3	Unit 3「演習」 薬学準備教育(3)	You Are What You Eat Activities	川崎 美佐子
4	Unit 4「演習」 薬学準備教育(3)	Shop Till You Drop Activities	川崎 美佐子
5	Unit 5「演習」 薬学準備教育(3)	Blind Date Activities	川崎 美佐子
6	Unit 6「演習」 薬学準備教育(3)	Friends Activities	川崎 美佐子
7	Unit 7「演習」 薬学準備教育(3)	Blind Date Activities	川崎 美佐子

授業科目名	英会話Ⅱ		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (外国語)	選択	0.5 単位
担当教員	講師：伊藤頼位		
オフィスアワー	平日昼休み		

1. 科目の概要

This course is targeted to lower-intermediate learners and designed to improve their fluency in spoken English in simple everyday situations. Through conversation practices and games in pairs and small groups, students learn useful expressions and grammatical structures of spoken English. They are then encouraged to use the English language to exchange their opinions and feelings with each other in English. All the lessons of this course are conducted in English. This course limits the number of students to 30.

2. 一般目標

Students are engaged in essential conversational exchanges such as greetings, self-introduction, and talk about people, things, and places so that they can improve their fluency in spoken English.

3. 行動目標

Students will be able to carry on the following conversations in English fluently.

- (1) Asking for personal information
- (2) Talking about family
- (3) Describing routines and schedules
- (4) Describing frequency
- (5) Talking about entertainment and music
- (6) Talking about past events
- (7) Talking about food
- (8) Ordering food
- (9) Talking about neighborhood
- (10) Shopping
- (11) Expressing wants and intentions
- (12) Asking for and giving advice

4. 準備学習

No preparation is required. However, attendance and participation are critically important. Students are always expected to come to class with a positive attitude and play an active role there. They are also required to hand in homework assignments.

5. 評価

25% Attitude
50% Classwork (pair work, group work, presentation)
25% Homework

6. 教科書・参考書

教科書：None
参考書：None

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	Unit 1「演習」 薬学準備教育(3)	Asking for personal information / Talking about family	伊藤 頼位
2	Unit 2「演習」 薬学準備教育(3)	Describing routines and schedules / Describing frequency	伊藤 頼位
3	Unit 3「演習」 薬学準備教育(3)	Talking about entertainment and music / Talking about past events	伊藤 頼位
4	Unit 4「演習」 薬学準備教育(3)	Talking about food / Ordering food	伊藤 頼位
5	Unit 5「演習」 薬学準備教育(3)	Talking about neighborhood / Shopping	伊藤 頼位
6	Unit 6「演習」 薬学準備教育(3)	Expressing wants and intentions	伊藤 頼位
7	Unit 7「演習」 薬学準備教育(3)	Asking for advice / Giving advice	伊藤 頼位

授業科目名	英会話Ⅲ		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (外国語)	選択	0.5 単位
担当教員	講師：伊藤頼位		
オフィスアワー	平日昼休み		

1. 科目の概要

This course is targeted to upper-intermediate learners and designed to improve their fluency in spoken English in simple everyday situations. Through conversation practices and games in pairs and small groups, students learn useful expressions and grammatical structures of spoken English. They are then encouraged to use the English language to exchange their opinions and feelings with each other in English. All the lessons of this course are conducted in English. This course limits the number of students to 30.

2. 一般目標

Students are engaged in essential conversational exchanges such as greetings, self-introduction, and talk about people, things, and places so that they can improve their fluency in spoken English.

3. 行動目標

Students will be able to carry on the following conversations in English fluently.

- (1) Inviting someone
- (2) Responding to an invitation
- (3) Talking about ongoing activities
- (4) Making comparisons
- (5) Expressing obligations, prohibitions, and necessity
- (6) Describing health problems
- (7) Making suggestions and recommendations
- (8) Describing pros and cons
- (9) Giving opinions
- (10) Agreeing or disagreeing with opinions
- (11) Discussing an imaginary situation

4. 準備学習

No preparation is required. However, attendance and participation are critically important. Students are always expected to come to class with a positive attitude and play an active role there. They are also required to hand in homework assignments.

5. 評価

25% Attitude
50% Classwork (pair work, group work, presentation)
25% Homework

6. 教科書・参考書

教科書：None
参考書：None

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	Unit 1「演習」	薬学準備教育(3)	Inviting someone / Responding to an invitation	伊藤 頼位
2	Unit 2「演習」	薬学準備教育(3)	Talking about ongoing activities	伊藤 頼位
3	Unit 3「演習」	薬学準備教育(3)	Making comparisons	伊藤 頼位
4	Unit 4「演習」	薬学準備教育(3)	Expressing obligations, prohibitions, and necessity	伊藤 頼位
5	Unit 5「演習」	薬学準備教育(3)	Describing health problems / Making suggestions and recommendations	伊藤 頼位
6	Unit 6「演習」	薬学準備教育(3)	Describing pros and cons / Giving opinions / Agreeing or disagreeing with opinions	伊藤 頼位
7	Unit 7「演習」	薬学準備教育(3)	Discussing an imaginary situation	伊藤 頼位

授業科目名	英語圏言語文化研修		1, 2年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5 単位
担当教員	講師：伊藤頼位		
オフィスアワー	平日昼休み		

1. 科目の概要

海外の言語文化に接することは国際化社会で生活する上での必須の条件であるばかりでなく、豊かな人間性を育む素地ともなる。この授業では学外の英語・英国文化研修施設を利用した2泊3日の合宿を通じて、日本で紹介される機会の比較的少ない英国の歴史文化に関する造詣を深め、英会話力の強化を図る。利用施設：ブリティッシュヒルズ（福島県岩瀬郡天栄村）。なお、食費、宿泊費等は受講者の負担となる。

2. 一般目標

ネイティブスピーカーによる指導下で英会話と各種文化活動を行い、英語運用能力を高め英国の歴史文化への理解を深める。

3. 行動目標

- (1) 英国の食文化を理解する。
- (2) 英国の娯楽文化を理解する。
- (3) 率先して英語を使ったコミュニケーションを行おうとする態度を養う。

4. 準備学習

合宿前に学内での準備学習を行う。

5. 評価

30% 授業活動での積極性
50% 評価対象クラスでの成績
20% 提出課題

6. 教科書・参考書

教科書：なし
参考書：なし

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	英会話講習 1「演習」	薬学準備教育(3)	内容は受講者募集説明会で案内する	伊藤 頼位
2	英会話講習 2「演習」	薬学準備教育(3)		伊藤 頼位
3	英会話講習 3「演習」	薬学準備教育(3)		伊藤 頼位
4	英会話講習 4「演習」	薬学準備教育(3)		伊藤 頼位
5	英国文化講習 1「演習」	薬学準備教育(3)		伊藤 頼位
6	英国文化講習 2「演習」	薬学準備教育(3)		伊藤 頼位
7	英国文化講習 3「演習」	薬学準備教育(3)		伊藤 頼位

授業科目名	中国語Ⅰ		1, 2年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：劉 芳		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

近年、日本を訪れる中国人の観光客が年々増す一方で、ドラッグストアで日本製の薬を爆買いしたり、医療観光ツアーで来日したりするなど、中国語の需要がますます多くなってきた。本授業では、中国語によるコミュニケーション能力と異文化理解に重点をおき、実践的な会話を身につけると同時に、中国の歴史、文化、社会など幅広い知識を得られるようにする。また薬学に役立つ漢方薬の中国名やその由来、語源などを紹介し、理解して覚えるというスタイルで授業を進める。受講生には積極的な授業参加を期待する。

2. 一般目標

中国語の勉強をきっかけに、異文化に触れ合っそれを理解しようとする姿勢を養い、両国の言葉や文化を比較することによって新たな発見を得られた時の喜びを味わう。

3. 行動目標

1. 中国語で自己紹介と簡単な会話ができる。
2. 中国語の基本的な文法を習得する。
3. 中国語の発音（ピンイン）を身につけ、活用できる。
4. 中国に関する知識を増やし、物事に対し多角度で考える習慣を養う。

4. 準備学習

指定された学習範囲を予習復習した上で授業を臨むこと。
授業を積極的に参加するために、質問などを準備しておくこと。

5. 評価

30% 授業時の活動（出席、演習に取り込む態度、ふり返りシートの記入など）
30% 発表課題及び提出課題
40% 定期試験

6. 教科書・参考書

教科書：なし
参考書：授業中に紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	講座概要	薬学準備教育(1)	授業の説明 中国語について	劉 芳
2	発音①四声 「演習」	薬学準備教育(1)	発音を説明, リスニング, 問題演習 自己紹介演習, 中国各地域の名物を紹介	劉 芳
3	発音②単母音 「演習」	薬学準備教育(1)	発音を説明, リスニング, 問題演習 自己紹介演習, 中国語の歌を鑑賞	劉 芳
4	発音③複母音 I 「演習」	薬学準備教育(1)	発音を説明, リスニング, 問題演習 自己紹介演習, 漢方薬の漢字を紹介	劉 芳
5	発音④複母音 II 「演習」	薬学準備教育(1)	発音を説明, リスニング, 問題演習 自己紹介演習, 56個の民族を紹介	劉 芳
6	発音⑤子音 I 「演習」	薬学準備教育(1)	発音を説明, リスニング, 問題演習 自己紹介演習, 中国の四字熟語を紹介	劉 芳
7	発音⑥子音 II 「演習」	薬学準備教育(1)	発音を説明, リスニング, 問題演習 発表課題練習, 試験準備	劉 芳
8	定期試験			劉 芳

授業科目名	中国語Ⅱ		1, 2年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：劉 芳		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

近年、日本を訪れる中国人の観光客が年々増す一方で、ドラッグストアで日本製の薬を爆買いしたり、医療観光ツアーで来日したりするなど、中国語の需要がますます多くなってきた。本授業では、中国語によるコミュニケーション能力と異文化理解に重点をおき、実践的な会話を身につけると同時に、中国の歴史、文化、社会など幅広い知識を得られるようにする。また薬学に役立つ漢方薬の中国名やその由来、語源などを紹介し、理解して覚えるというスタイルで授業を進める。受講生には積極的な授業参加を期待する。

2. 一般目標

中国語の勉強をきっかけに、異文化に触れ合ってそれを理解しようとする姿勢を養い、両国の言葉や文化を比較することによって新たな発見を得られた時の喜びを味わう。

3. 行動目標

1. 中国語で自己紹介と簡単な会話ができる。
2. 中国語の基本的な文法を習得する。
3. 中国語の発音（ピンイン）を身につけ、活用できる。
4. 中国に関する知識を増やし、物事に対し多角度で考える習慣を養う。

4. 準備学習

指定された学習範囲を予習復習した上で授業を臨むこと。
授業を積極的に参加するために、質問などを準備しておくこと。

5. 評価

30% 授業時の活動（出席、演習に取り込む態度、ふり返りシートの記入など）
30% 発表課題及び提出課題
40% 定期試験

6. 教科書・参考書

教科書：なし
参考書：授業中に紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	発音⑦-n,-ngを持つ母音 I 「演習」	薬学準備教育(1)	発音を説明, リスニング, 問題演習 慣用会話演習, 歴代皇帝を紹介	劉 芳
2	発音⑧-n,-ngを持つ母音 II 「演習」	薬学準備教育(1)	発音を説明, リスニング, 問題演習 慣用会話演習, 三国志を紹介	劉 芳
3	発音⑨軽声 「演習」	薬学準備教育(1)	発音を説明, リスニング, 問題演習 映画鑑賞 (上部), ディスカッション	劉 芳
4	発音⑩声調の変化 「演習」	薬学準備教育(1)	発音を説明, リスニング, 問題演習 映画鑑賞 (下部), ディスカッション	劉 芳
5	発音⑪儿化 (アル化) 「演習」	薬学準備教育(1)	発音を説明, リスニング, 問題演習 慣用会話演習, 名医华佗を紹介	劉 芳
6	発音⑫声調の組み合わせ 「演習」	薬学準備教育(1)	発音を説明, リスニング, 問題演習 慣用会話演習, 漢方薬の漢字を紹介	劉 芳
7	発音⑬発音のまとめ 「演習」	薬学準備教育(1)	問題演習, リスニング, 問題演習 発表課題練習, 試験準備	劉 芳
8	定期試験			劉 芳

授業科目名	中国語Ⅲ		1, 2年
授業区分	一般教養科目 (外国語)	選択	0.5 単位
担当教員	非常勤講師：劉 芳		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

近年、日本を訪れる中国人の観光客が年々増す一方で、ドラッグストアで日本製の薬を爆買いしたり、医療観光ツアーで来日したりするなど、中国語の需要がますます多くなってきた。本授業では、中国語によるコミュニケーション能力と異文化理解に重点をおき、実践的な会話を身につけると同時に、中国の歴史、文化、社会など幅広い知識を得られるようにする。また薬学に役立つ漢方薬の中国名やその由来、語源などを紹介し、理解して覚えるというスタイルで授業を進める。受講生には積極的な授業参加を期待する。

2. 一般目標

中国語の勉強をきっかけに、異文化に触れ合っってそれを理解しようとする姿勢を養い、両国の言葉や文化を比較することによって新たな発見を得られた時の喜びを味わう。

3. 行動目標

1. 中国語で自己紹介と簡単な会話ができる。
2. 中国語の基本的な文法を習得する。
3. 中国語の発音（ピンイン）を身につけ、活用できる。
4. 中国に関する知識を増やし、物事に対し多角度で考える習慣を養う。

4. 準備学習

指定された学習範囲を予習復習した上で授業を臨むこと。
授業を積極的に参加するために、質問などを準備しておくこと。

5. 評価

30% 授業時の活動（出席、演習に取り込む態度、ふり返りシートの記入など）
30% 発表課題及び提出課題
40% 定期試験

6. 教科書・参考書

教科書：なし
参考書：授業中に紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	文法②人称代名詞,À “是” B 「演習」	薬学準備教育(1)	文法を説明, リスニング, 問題演習 発音を復習, 一人っ子政策を紹介	劉 芳
2	文法② “吗” を使った疑問文 「演習」	薬学準備教育(1)	文法を説明, リスニング, 問題演習 発音を復習, 中国の四字熟語を紹介	劉 芳
3	文法③動詞述語文 「演習」	薬学準備教育(1)	文法を説明, リスニング, 問題演習 発音を復習, 漢方薬の漢字を紹介	劉 芳
4	文法④疑問詞疑問文 「演習」	薬学準備教育(1)	文法を説明, リスニング, 問題演習 発音を復習, 中国の食習慣を紹介	劉 芳
5	文法⑤省略疑問文 「演習」	薬学準備教育(1)	文法を説明, リスニング, 問題演習 発音を復習, 中国版西遊記を紹介	劉 芳
6	文法⑥指示代名詞 「演習」	薬学準備教育(1)	文法を説明, リスニング, 問題演習 発音を復習, 漢方薬の漢字を紹介	劉 芳
7	文法⑦形容詞述語文 「演習」	薬学準備教育(1)	文法を説明, リスニング, 問題演習 試験準備	劉 芳
8	定期試験			劉 芳

授業科目名	体育 A・体育 B		1 年
授業区分	一般教養科目（実技）	選択	0.5 単位
担当教員	非常勤講師：藤本千晶		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

超高齢化社会に突入した日本において、スポーツが健康・体力づくりに果たす役割は大きくなっている。しかし、スポーツ活動には時として障害が伴い、健康を害する場合もある。本授業では、これらスポーツの功罪を踏まえ種々のスポーツを体験し、健康で楽しくスポーツ活動を実践するための知識やマナーおよび態度を修得する。またスポーツを通じて共にプレーする仲間との強調を図り、コミュニケーションスキルを養う。注意事項：「体育 A」（授業内容の第 1 回から第 7 回）と「体育 B」（授業内容の第 8 回から第 14 回）は両方履修することが可能である。なお、履修希望者が 40 名を超えた場合は抽選となります。

2. 一般目標

健康・体力づくりの手段としてのスポーツを実践するための知識やマナー、態度を修得することとともに、スポーツ活動を通じて共にプレーする仲間や対戦相手との協同・協調の精神を養う。

3. 行動目標

- 1) 種々のスポーツの競技特性・ルール・技術・戦略を人會し、ゲームを楽しむための能力を修得する。
- 2) スポーツマンシップに則ってスポーツを実践するためのマナー、コミュニケーションスキルを修得する。

4. 準備学習

授業前後に実施するスポーツのルールを把握しておく。

5. 評価

授業への出席状況（50%）、スポーツ活動への積極的な取り組み（40%）、および種々のスポーツ技術の成熟度（10%）を評価し、65 点以上を合格とする。

6. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：なし

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
「体育 A」				
1	バスケットボール	薬学準備教育(1)	ドリブル, パス, シュート, ミニゲーム	藤本 千晶
2	バスケットボール	薬学準備教育(1)	パス回し, ゲーム	藤本 千晶
3	バレーボール	薬学準備教育(1)	パス, トス, アタック, ミニゲーム	藤本 千晶
4	バレーボール	薬学準備教育(1)	サービス, ゲーム	藤本 千晶
5	テニス	薬学準備教育(1)	基本的技術の練習, ゲーム	藤本 千晶
6	テニス	薬学準備教育(1)	基本的技術の練習, ゲーム	藤本 千晶
7	卓球	薬学準備教育(1)	グラウンドストローク, サービス	藤本 千晶
「体育 B」				
8	バドミントン	薬学準備教育(1)	ゲーム (ダブルス)	藤本 千晶
9	ハンドボール	薬学準備教育(1)	ドリブル, パス, シュート, ミニゲーム	藤本 千晶
10	ハンドボール	薬学準備教育(1)	パス回し, ゲーム	藤本 千晶
11	タッチラグビー	薬学準備教育(1)	パス回し, ゲーム	藤本 千晶
12	タッチラグビー	薬学準備教育(1)	パス回し, ゲーム	藤本 千晶
13	フットサル	薬学準備教育(1)	ドリブル, パス, シュート, ミニゲーム	藤本 千晶
14	フットサル	薬学準備教育(1)	パス回し, ゲーム	藤本 千晶

授業科目名	美術A・美術B		1, 2年
授業区分	一般教養科目（実技）	選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：天形 健		
オフィスアワー	金曜日12:15～12:50, 14:45～15:30		

1. 科目の概要

「文化や芸術」を人類はいつ頃の時代に発見し、21世紀までそれを進化／発展させて来たのかを考えます。特に「美術」は、私たちの身の回りに溢れるように存在しています。それを各自が自らの趣味・センスで鑑賞し、好き嫌いの感情を抱くのです。造形的な表現によって、人は何を表し、伝達しようとするのか。美術の全てのジャンルについて学習する時間はありませんが、芸術と言われる絵画と彫刻、そして、デザインとは何かについて考えるために、多くの表現体験を行います。また、視覚的学習として、多くの画像を鑑賞します。

表現体験では以下のような【表現材料】が必要となります。

○スケッチブック

○鉛筆（B, 2B程度）

○水彩絵の具（12色の絵の具。ポスターカラー、アクリル絵具可）

注意事項:「美術A」「美術B」は、両方を履修することが可能です。

2. 一般目標

美術への興味・関心・理解は、表されるものの価値や表現方法、表す技術を学ぶことによって高まります。文化的、精神的に豊かな生き方を考えるために、造形的表現体験と鑑賞を通して、文化に対する一般的な教養を身につけます。

3. 行動目標

美術史と作品鑑賞の学習では、人類の造形的な文化史について洞察を深め、「美」を求めてきた意義について考えます。表現体験学習では、準備・計画・実施・意欲などについて、多面的に自らのあり方を振り返るとともに、配色感覚、空間認識力、描画センスを高めます。表現体験では積極性が求められます。

4. 準備学習

①美術や自然、市街、日用品等に関心を持ち、美術館等に足を運ぶとともに、自然の美しさや季節感、表示や街のデザイン、機能と利便性などについて、視線を向け、よく観察する。②文化史、美術史に関する文献や美術全集などから、興味あるものを選んで読む。

5. 評価

提出作品と筆記試験及び出席により評価します（作品等授業内容40%、筆記試験30%、出欠30%の割合で評定する。）。作品評価のため、作品は定められた期間内に提出します。筆記試験は講義や配布資料、表現体験の理解等に関する授業内容が中心です。提出作品については、主題のとらえ方、表現技術などの作品の質以外に、独創性や丁寧さなど、授業への積極性が感じられる点も加味した評価を行います。

6. 教科書・参考書

教科書：特に指定しない。必要な資料は授業で配布する。

参考書：授業の中で紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
「美術 A」				
1	オリエンテーション プレゼン学習 (1)	薬学準備教育 (1)	「美術」の内容と持ち物および評価についての説明 「人類と文化／美術史」について	天形 健
2	プレゼン学習 (2)	薬学準備教育 (1)	“認識力の発達”を美術作品から読み解く	天形 健
3	プレゼン学習 (3)	薬学準備教育 (1)	“色の科学”の学習と、混色体験 絵の具	天形 健
4	表現体験 (1)	薬学準備教育 (1)	四季のイメージを配色で表す① 絵の具	天形 健
5	〃	薬学準備教育 (1)	四季のイメージを配色で表す② 絵の具	天形 健
6	表現体験 (2)	薬学準備教育 (1)	「配色と調和」① 絵の具	天形 健
7	〃	薬学準備教育 (1)	「配色と調和」② 絵の具	天形 健
8	「美術A」試験	薬学準備教育 (1)		天形 健
「美術 B」				
9	表現体験 (3)	薬学準備教育 (1)	「線と表現」① スケッチ帳	天形 健
10	〃	薬学準備教育 (1)	「線と表現」② スケッチ帳	天形 健
11	〃	薬学準備教育 (1)	「線と表現」③ スケッチ帳	天形 健
12	〃	薬学準備教育 (1)	“空間認識力”を考える スケッチ帳	天形 健
13	表現体験 (4)	薬学準備教育 (1)	「立体を表す表現」について スケッチ帳	天形 健
14	表現体験 (5)	薬学準備教育 (1)	観察して描く(鉛筆デッサン) スケッチ帳	天形 健
15	プレゼン学習 (4)	薬学準備教育 (1)	「世界各地の文化を見る」	天形 健
16	「美術B」試験	薬学準備教育 (1)		天形 健

授業科目名	書写A：書写B		1, 2年
授業区分	一般教養科目（実技）	選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：鈴木蒼舟		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

最近ではコンピューターが定着し、また携帯電話でもメールやラインが頻繁に用いられるようになりました。文字離れの時代などとも言われていますが、文字が「言葉を視覚的に表現する」ことだけであれば情報機器の方が適切な場合も多いことでしょう。

しかし、社会生活においては、まだまだ手書きで文字を書く場面が多々あります。

手書き文字の良いところは、お礼状、お祝状、お悔やみ状、喜び、悲しみなどの気持ちを伝える際、手書きで書くことによって、文字の表情から、書者の心情などを、読む人に伝えることが出来るからです。

ここでは、毛筆と硬筆を合わせて、楷書、行書、草書、隸書、ひらがな、ペン字、調和体、実用書などを、基本から学び、手書き文字を、正しく、調和良く、丁寧に書くことを意識し、書くことを学びます。

「書写A」と「書写B」は両方を履修可能です。

2. 一般目標

文字を正しく、調和良く整えて、丁寧に書く。

3. 行動目標

- 1) 正しい姿勢で書く。
- 2) 執筆法（筆記用具の持ち方）の習得。
- 3) 正しく書く。
- 4) 丁寧に書く。
- 5) 調和良く書く。

4. 準備学習

前回学習した課題を練習し、持参し出席する。

5. 評価

授業時に課す課題による提出物による評価（100%）。

6. 教科書・参考書

教科書：特になし

参考書：適時プリントや教材を配布する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
「書写A」				
1	執筆法	薬学準備教育(1)	姿勢・筆の持ち方・腕の構え方 楷書・基本点画 (1)	鈴木 蒼舟
2	毛筆楷書	薬学準備教育(1)	楷書・基本点画 (2)	鈴木 蒼舟
3	毛筆楷書	薬学準備教育(1)	楷書・基本点画 (3)	鈴木 蒼舟
4	毛筆行書	薬学準備教育(1)	行書 (1)	鈴木 蒼舟
5	毛筆行書	薬学準備教育(1)	行書 (2)	鈴木 蒼舟
6	毛筆草書	薬学準備教育(1)	草書	鈴木 蒼舟
7	毛筆まとめ	薬学準備教育(1)	楷書・行書・草書各一枚提出	鈴木 蒼舟
「書写B」				
8	実用毛筆楷書	薬学準備教育(1)	実用毛筆楷書	鈴木 蒼舟
9	実用毛筆行書	薬学準備教育(1)	実用毛筆行書	鈴木 蒼舟
10	硬筆ペン字	薬学準備教育(1)	調和体 (漢字ひらがな交じり文)	鈴木 蒼舟
11	硬筆ペン字	薬学準備教育(1)	調和体 (漢字ひらがな交じり文)	鈴木 蒼舟
12	実用書毛筆	薬学準備教育(1)	御祝・御礼等の書式 (のし袋)	鈴木 蒼舟
13	実用書毛筆	薬学準備教育(1)	封筒, はがき (宛名)	鈴木 蒼舟
14	実用書毛筆硬筆まとめ	薬学準備教育(1)	実用書 3 ペン字 1 提出	鈴木 蒼舟

授業科目名	数学 I		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1 単位
担当教員	准教授：和田重雄 講師：木田雄一		
オフィスアワー	月曜日～金曜日の放課後		

1. 科目の概要

薬学は自然科学を根底にもつ学問であり、その自然科学を理解する必須の手法の一つとして数学が挙げられる。例えば、反応速度の計算においては、微分の知識が必要であり、体内薬物動態における AUC（血漿薬物濃度曲線下面積）の計算には積分の知識が必要である。

また、薬学分野では物理現象、生命現象、自然現象もしくは社会現象を解析する場面に多く遭遇する。しかし、これらの現象には、その原理が完全には解明されていなかったり、解析に必要な全てのデータを集める事が現実的に不可能である等の理由によって、確定できない要素が多く含まれる。これらの確定できない現象を定式化し解析するための数学として、確率論および統計学が用いられる。

本講義では、薬剤師にとって必要な、あるいは、効率よく薬学を学んでいく上で有効な数学的な知識・技能を身につけていく。具体的には、実践的な薬学数学である指数関数・対数関数・微分と積分の計算、やや学問的に薬学数学を考えていく上でヒントとなる数列と行列、および、統計学の基礎理論としての確率論の基礎知識について学習する。

なお、一部の授業では、クラス分け試験の成績を参考にしてクラス分けを行い、効果的に授業を進める。

2. 一般目標

薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を習得し、それらを薬学領域で応用するための基本的技能を身につける。

3. 行動目標

1. 等差数列と等比数列の基本概念を理解し、それぞれの和を計算できる。
2. 行列の基本概念と演算を理解し、それをを用いて連立一次方程式の解を求められる。
3. 場合の数、順列、組合せの基本概念を理解し、それをを用いた計算ができる。
4. 確率の定義と性質を理解し、計算ができる。
5. 平均値、分散、標準偏差などの基本的な統計量について説明し、求めることができる。
6. 二項分布および正規分布について概説できる。
7. 母集団と標本の関係について説明できる。
8. 指数と対数の計算ができる。
9. 指数関数と対数関数を式およびグラフを用いて説明できる。
10. 極限と導関数の基本概念を理解し、指数関数と対数関数の微分ができる。
11. 原始関数の基本概念を理解し、指数関数と対数関数の不定積分および定積分ができる。

4. 準備学習

基本的に、指定の教科書に沿って講義を進行する。また、授業の終わりに次回の学習項目等を発表する。これに従って、次回講義の範囲の項目を1時間以上かけて予習しておくこと。また、教科書の特性上、演習問題を多く出題するので、前回の授業内容を復習し、次回講義前には必ず解けるようにしておくこと。

5. 評価

定期試験の結果を 80%、小テストの内容を 20% として評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：安西和記、高木徳子、田中栄一、豊田実司 著、都築稔 編、わかりやすい薬学系の数学入門、講談社 石村園子 著「すぐわかる確率・統計」東京図書株式会社
参考書：中川弘一、松林哲夫 著、薬学系学生のための微分積分、共立出版

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	等比数列と等差数列 「講義」「演習」	薬学準備教育-(7)-③-1	等差数列の定義と和の公式, 等比数列の定義と和の公式, 無限等比級数の極限	木田 雄一
2	行列と連立方程式 「講義」「演習」		行列とベクトルの定義と演算, 行列式, 逆行列, 連立方程式	木田 雄一
3	試行と事象, 順列・組み合わせ 「講義」「演習」	薬学準備教育-(7)-④-1	試行と事象, 場合の数, 順列と組合せ, 標本空間	木田 雄一
4	確率と条件付き確率 「講義」「演習」	薬学準備教育-(7)-④-3	確率の定義と公理, 独立な試行, 条件付確率の定義, 乗法定理	木田 雄一
5	確率分布と期待値 「講義」「演習」	薬学準備教育-(7)-⑤-3	確率変数と確率分布, 平均・分散・標準偏差	木田 雄一
6	二項分布と正規分布 「講義」「演習」	薬学準備教育-(7)-④-2	二項分布の性質, 正規分布の性質, 確率変数の標準化	木田 雄一
7	標本分析とその性質 「講義」「演習」	薬学準備教育-(7)-⑤-5	母集団と標本, 母数と統計量, 大数の法則, 中心極限定理	木田 雄一
8	中間試験		1回～7回の範囲の試験	木田 雄一
9	指数関数・対数関数 基本 講義「講義」「演習」	薬学準備教育-(7)-②-1	指数計算と半減期, 対数とその性質, 対数計算	和田 重雄 木田 雄一
10	指数関数・対数関数の習熟 「講義」「演習」	薬学準備教育-(7)-②-1	指数・対数の計算への習熟。pH等, 化学的・物理的な物理量に対する数学的な考察	和田 重雄 木田 雄一
11	微分 基本講義 「講義」「演習」	薬学準備教育-(7)-③-2	極限の概念, 極限値の求め方, 導関数の求め方	和田 重雄 木田 雄一
12	微分 基本演習 「講義」「演習」	薬学準備教育-(7)-③-2	極限値の求め方, 導関数の求め方の演習。応用例の紹介	和田 重雄 木田 雄一
13	積分 基本講義 「講義」「演習」	薬学準備教育-(7)-③-3	各種関数の不定積分, 定積分の求め方	和田 重雄 木田 雄一
14	積分 基本演習 「講義」「演習」	薬学準備教育-(7)-③-3	各種関数の不定積分, 定積分の求め方の基本演習。応用例の紹介	和田 重雄 木田 雄一
15	定期試験		9回～14回の範囲の試験	和田 重雄 木田 雄一

授業科目名	数学Ⅱ		1年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1単位
担当教員	講師：渡邊哲也，中楯 奨 助教：吉田健太郎		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

薬学は自然科学を根底にもつ学問であり，その自然科学を理解する必須の手法の一つとして数学があげられる。例えば，薬物の反応速度に関しては微分と微分方程式さらには積分の知識が必要であり，薬物動態解析や酸・塩基の pH や解離定数の算出には指数，対数の知識が必要である。そのため，薬学を学ぶ上で，指数・対数・微分（微分方程式）・積分の知識（考え方），解法やその応用方法を身につけることが重要である。これは，薬学の現場で起こる科学的な現象を数学的な思考で考えていくための基礎となる。

本講義は，指数・対数・微分・積分の分野を中心に高等学校の内容を復習しながら，より専門性の高い薬学分野の内容を理解できるよう，薬学で必要な内容を例題にして進め，科学的な現象を筋道をたてて，総合的に理解する力を養う。

2. 一般目標

薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的な知識を習得し，それらを薬学領域で応用するための，基本的技術を身につける。また，物事を論理的に考える力を身につける。

3. 行動目標

1. 有効数字を含む値の計算ができる。
2. 連分数の扱いを習熟する。
3. 指数関数及び対数関数を，式及びグラフを用いて説明できる。
4. 極限の基本概念を概説できる。
5. 導関数の基本概念を理解し，代表的な関数の微分ができる
6. 原始関数の基本概念を理解し，代表的な関数の不定積分及び定積分ができる。
7. 微分法的式の成り立ちを理解し，基本的な微分方程式（変数分離型）の一般解と特殊解を求めることができる。

4. 準備学習

数学Ⅱでは，数学Ⅰで学んだ内容を含んだ応用数学となるため，必ず数学Ⅰを復習すること。また，講義後の内容は必ず復習し，次回の講義までには講義で扱った例題や提示された類題を解けるように理解しておくこと。予習は，講義の終わりに次回の講義内容を発表するため，それに従って行うこと。

5. 評価

定期試験：100%

6. 教科書・参考書

教科書：安西和記，高木徳子，田中栄一，豊田実司 著，都築稔 編. わかりやすい薬学系の数学入門，講談社

プリントを配布

参考書：授業中に紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	有効数字と連分数, 割合・比例の基礎 「講義」	薬学準備教育-(7)-①-1 数値(有効数字, 濃度等)の取り扱い及び計算	中橋 奨
2	連分数, 割合・比例の薬学への応用 「講義」	薬学準備教育-(7)-①-1 薬剤の調剤量や反応収率等の計算	中橋 奨
3	指数関数・対数関数の基礎 「講義」	薬学準備教育-(7)-②-1 指数関数・対数関数の薬学への応用(導入教育)	渡邊 哲也
4	微分・積分の基礎 「講義」	薬学準備教育-(7)-③-1,2,3,4 微分・積分の薬学への応用(導入教育)	渡邊 哲也
5	指数関数・対数関数の薬学への応用(1) 「講義」	薬学準備教育-(7)-②-1 pH, 反応速度, 分配平衡, 体内薬物濃度の変化等を数学的に考える。	吉田 健太郎
6	指数関数・対数関数の薬学への応用(2) 「講義」	薬学準備教育-(7)-②-1 pH, 反応速度, 分配平衡, 体内薬物濃度の変化等を数学的に考える。	渡邊 哲也
7	指数関数・対数関数の薬学への応用(3) 「講義」	薬学準備教育-(7)-②-1 pH, 反応速度, 分配平衡, 体内薬物濃度の変化等を数学的に考える。	渡邊 哲也
8	微分・積分の薬学への応用(1) 「講義」	薬学準備教育-(7)-③-1,2,3,4 濃度変化の速度論(0次, 1次, 2次速度等), 及び薬物の安定性と反応速度を数学的に考える。	渡邊 哲也
9	微分・積分の薬学への応用(2) 「講義」	薬学準備教育-(7)-③-1,2,3,4 濃度変化の速度論(0次, 1次, 2次速度等), 及び薬物の安定性と反応速度を数学的に考える。	渡邊 哲也
10	微分・積分の薬学への応用(3) 「講義」	薬学準備教育-(7)-③-1,2,3,4 Higuchi式, ノイエス・ホイットニーの式等を数学的に考える。	吉田 健太郎
11	微分・積分の薬学への応用(4) 「講義」	薬学準備教育-(7)-③-1,2,3,4 血中薬物濃度推移を数学的に考える(AUC, 消失半減期, 消失速度定数等)	渡邊 哲也
12	微分・積分の薬学への応用(5) 「講義」	薬学準備教育-(7)-③-1,2,3,4 速度論における物質収支式の作り方, その解法を行う。	渡邊 哲也
13	微分・積分の薬学への応用(6) 「講義」	薬学準備教育-(7)-③-1,2,3,4 薬学教育において重要な式の導き方を習得する。	渡邊 哲也
14	定期試験		渡邊 哲也 中橋 奨 吉田 健太郎

授業科目名	化学 I		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1 単位
担当教員	准教授：石山玄明， 和田重雄		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

- ・第1学年後期以降に開講される専門科目をギャップを感じることなく学習開始できるように，高等学校での化学の概念・基本事項を確認しつつ，ワンランク上の基礎学力，科学的思考力，論理力を身につける。
- ・入学直後実施の学力試験結果を考慮し習熟度に応じたクラスを設置して，それぞれのクラスで，高等学校で化学を修得した学生あるいは修得していない学生に対応した指導を行い，薬学における化学系の基礎力を着実に身につける。

2. 一般目標

- ・高等学校における化学基礎の単元と有機化学の範囲において，専門科目を無理なく履修できるような知識を修得する。
- ・酸・塩基の反応，酸化還元反応，また，物質の量と溶液の濃度計算法などを修得することにより，化学物質（医薬品を含む）を分析できるようになるための基礎を養う。
- ・代表的な有機化合物の性質，基本的な有機化学の反応を修得することで，有機化合物（医薬品を含む）を化学的な視点から理解する基礎力を身につけ，さらに後期以降に開講される有機化学I-IIIをスムーズに履修できるような一歩踏み込んだレベルの知識を修得する。

3. 行動目標

1. 化学反応の特徴を理解し，種類別に分類できる。
2. 気体，液体，固体のそれぞれの状態での物質量および濃度を的確に求めることができる。
3. 化学反応式に関連づけて物質量を的確に求めることができる。
4. 酸・塩基の特徴，反応性について説明できる。
5. 水溶液のpHを的確に求めることができる。
6. 酸化還元の定義および酸化還元滴定について説明できる。
7. 有機化合物が持つ特性を構造と関連づけて概説できる。
8. 有機化合物の異性体について説明できる。
9. 基本的な有機化学反応機構を，電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。
10. 反応が起こる基本的な原理について概説できる。
11. 基本的な有機反応の仕組みについて説明できる。

4. 準備学習

講義の終了時に次回の予告をするので，簡単でも良いので必ず予習してくる。基本事項の上に，毎回積み重ねていく科目なので，休まず出席すること。その日のうちに理解が不足している部分を教科書，ノート，配布プリントなどを利用して毎回復習すること。

5. 評価

定期試験：80%，講義時の小テスト等 20%

6. 教科書・参考書

教科書：「基礎科学12講」左巻健男 編 化学同人, 「『有機化学』ワークブック」奥山格 著 丸善出版
参考書：

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	化学の基本1 「講義・演習」	薬学準備教育(5)-③	化学反応の分類と化学反応の予想	和田 重雄 石山 玄明
2	化学の基本2 「講義・演習」	薬学準備教育(5)-③	物質の量と溶液の濃度, 濃度の変換	和田 重雄 石山 玄明
3	化学の基本3 「講義・演習」	薬学準備教育(5)-③	化学反応の計算	和田 重雄 石山 玄明
4	化学反応とその性質1 「講義・演習」	薬学準備教育(5)-③	酸・塩基の理論・反応	和田 重雄 石山 玄明
5	化学反応とその性質2 「講義・演習」	薬学準備教育(5)-③	酸化還元の理論・反応	和田 重雄 石山 玄明
6	化学反応とその性質3 「講義・演習」	薬学準備教育(5)-③	平衡と物質の変化	和田 重雄 石山 玄明
7	中間試験		第1回～第6回の範囲	和田 重雄 石山 玄明
8	有機化学入門1 「講義・演習」	C3-(1)-① 3 C3-(1)-① 6	有機化合物, 有機反応の分類	石山 玄明 和田 重雄
9	有機化学入門2 「講義・演習」	C3-(1)-② 1	有機分子の構造と異性体	石山 玄明 和田 重雄
10	有機化学入門3 「講義・演習」	C3-(3)-① 1	有機分子の極性と特性	石山 玄明 和田 重雄
11	有機反応論1 「講義・演習」	C3-(3)-② 2 C3-(3)-② 3	σ 結合の反応性	石山 玄明 和田 重雄
12	有機反応論2 「講義・演習」	C3-(2)-② 1 C3-(2)-② 2	π 結合の反応性	石山 玄明 和田 重雄
13	有機反応論3 「講義・演習」	C3-(2)-③ C3-(1)-① 9	芳香族性と求電子置換反応	石山 玄明 和田 重雄
14	定期試験		第8回～第13回の範囲	石山 玄明 和田 重雄

授業科目名	化学Ⅱ		1年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1単位
担当教員	教授：山岸丈洋		
オフィスアワー	水曜日の15:30～18:00		

1. 科目の概要

薬学を学ぶ上で必要な化学の基礎力を身につけるため、物質を構成する基本単位である原子および分子の性質について説明する。無機化学、金属のまわりを小分子あるいはイオンが取り囲んだ構造をもつ錯体について学ぶ。

2. 一般目標

代表的な元素（典型元素、遷移元素）とその化合物及び錯体の性質を理解するために、名称、構造、性状などに関する知識を習得する。

3. 行動目標

- 1) 原子の構造及び電子配置を説明できる。
- 2) 分子の構造及び極性を説明できる。
- 3) 典型元素および遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。
- 4) 代表的な無機酸化物、オキシ化合物の名称、構造、基本的性質を説明できる。
- 5) 代表的な錯体の名称、立体構造、基本的性質を説明できる。
- 6) 無機医薬品を列挙できる。

4. 準備学習

講義終了の際に、次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を熟読して臨むこと。

5. 評価

学期末試験 90%、出席 10% により評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：「ベーシック薬学教科書シリーズ4 無機化学」化学同人

参考書：「ソロモンの新有機化学（上）（第9版）」廣川書店、「理系のためのはじめて学ぶ化学 [無機化学]」ナツメ社

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	原子の構造「講義」		原子の構造・原子軌道・電子配置	山岸 丈洋
2	化学結合1「講義」	C1-(1)-1-1	化学結合の分類	山岸 丈洋
3	化学結合2「講義」	C1-(1)-1-2	混成軌道	山岸 丈洋
4	分子の構造「講義」		ルイス構造, 形式電荷, 極性	山岸 丈洋
5	元素と周期律「講義」	C3-(5)-1-1	代表的な典型元素と遷移元素とその特徴	山岸 丈洋
6	無機化合物1「講義」	C3-(5)-1-2	窒素酸化物の名称, 構造, 性質	山岸 丈洋
7	無機化合物2「講義」	C3-(5)-1-2	イオウ, リン, ハロゲンの酸化物, オキシ化合物の名称, 構造, 性質	山岸 丈洋
8	無機化合物3「講義」	C3-(5)-1-3	活性酸素の名称, 構造, 性質	山岸 丈洋
9	錯体1「講義」	C3-(5)-1-4	代表的な錯体の名称, 構造, 基本的性質	山岸 丈洋
10	錯体2「講義」	C3-(5)-1-4	代表的な錯体の名称, 構造, 基本的性質	山岸 丈洋
11	錯体3「講義」	C3-(5)-1-4	代表的なドナー原子, 配位基, キレート試薬, 錯体の安定度定数	山岸 丈洋
12	無機医薬品「講義」	C3-(5)-1-5	医薬品として用いられる代表的な無機化合物, 錯体	山岸 丈洋

授業科目名	物理学 I		1 年
授業区分	基礎教育科目 (基礎科学)	必修	1 単位
担当教員	准教授：和田重雄		
オフィスアワー	月曜, 火曜の16:30~18:00		

1. 科目の概要

- ・薬学を学習していく上で把握しておいてもらいたい項目の概念をしっかりとらえるために、物体の運動、波動、電磁気の分野を学習する。

2. 一般目標

- ・薬学を学ぶ上で必要な物理学の基礎力を身につけるために、物質および物体間の相互作用などに関する基本的事項を修得する。
- ・能動的な学習態度の育成。すなわち、公式の暗記、代入に頼るのではなく、自ら公式を導いたり、公式の活用方法を検討するなど、科学的思考力を育む。

3. 行動目標

1. 物理量の基本単位の定義を説明できる。
2. 物理量にはスカラー量とベクトル量があることを説明できる。
3. 運動の法則について理解し、力、質量、加速度、仕事などの相互関係を説明できる。
4. 直線運動、円運動、単振動などの運動を数式を用いて説明できる。
5. エネルギーと仕事の関係について説明できる。
6. エネルギーの種々の形態の相互変換について、例を挙げて説明できる。
7. 電荷と電流、電圧、電力、オームの法則などを説明できる。
8. 電流と磁場の相互関係を説明できる。
9. 電場、磁場の中における荷電粒子の運動を説明できる。
10. 光、音、電磁波などが波であることを理解し、波の性質を表す物理量について説明できる。

4. 準備学習

積み重ねが重要となる科目であるので、講義は休まずに出席をする。授業時間中に理解不足があったら、必ずその日のうちに復習をする。授業終了時に次回の予告をするので、簡単でも良いので、予習をしてくること。

5. 評価

学期末定期試験：80%， 授業時の小テスト等 20%

6. 教科書・参考書

教科書：わかりやすい薬学系の物理学入門 小林 賢他編者 講談社

参考書：『基礎化学 12 講』左巻健男編著 化学同人

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者	
1	自然科学と物理学 「講義・演習」	準備教育- (4)-①	自然現象の解読法, 物体の運動の見方 基本物理量, 基本単位	和田 重雄
2	力学 1 「講義・演習」	準備教育- (4)-②	自由落下運動	和田 重雄
3	力学 2 「講義・演習」	準備教育- (4)-②	運動の 3 法則の理解	和田 重雄
4	波動 1 「講義・演習」	準備教育- (4)-④, ⑤	波動とは	和田 重雄
5	力学 3 「講義・演習」	準備教育- (4)-②	運動方程式と物体の運動	和田 重雄
6	波動 2 「講義・演習」	準備教育- (4)-④	波と光と視覚	和田 重雄
7	力学 4 「講義・演習」	準備教育- (4)-③	仕事, エネルギー, 運動量	和田 重雄
8	電磁気学 1 「講義・演習」	準備教育- (4)-④	波動と音と聴覚	和田 重雄
9	力学 5 「講義・演習」	準備教育- (4)-②	力学総論 1 種々の物体の運動を探る	和田 重雄
10	電磁気学 1 「講義・演習」	準備教育- (4)-⑧	静電気 クーロン力と原子構造	和田 重雄
11	力学 6 「講義・演習」	準備教育- (4)-②	力学総論 2 種々の物体の運動を探る	和田 重雄
12	電磁気学 2 「講義・演習」	準備教育- (4)-⑥, ⑦	電流と電圧, 電流と磁気	和田 重雄
13	定期試験			和田 重雄

授業科目名	物理学Ⅱ（物理化学入門）		1年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1単位
担当教員	教授：柏木良友 准教授：和田重雄，志村紀子 講師：小野哲也		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

- ・1学年後期以降の専門科目をスムーズに学習開始ができるよう，高等学校で学習した化学・物理の概念・基本事項を確認しつつ，ワンランク上の基礎知識，科学的思考力，論理力を身につける。
- ・物理学はそもそも，自然現象には普遍的な法則があると考え，微視的な立場と巨視的な立場から理論を構築していく学問である。物理化学という科目は，化学現象を物理的に学習していく分野である。そこで，微視的な立場として量子化学（原子の中の挙動と考えてよい）を，巨視的な立場として，物質の三態を中心に，授業を進めていく。なお，各時間で学んだことをまとめるという意味を含め，適宜小テストを行う。
- ・授業奇数回（火曜日）は，原則4月に実施の学力試験の成績を参考にしてレベル分けのクラスを設置し，学生の学力に対応した指導を行い，真の基礎の土台作りを行う。

2. 一般目標

- ・物理的，化学的なものの考え方，概念をしっかりと身につけることを最大の目標とする。
- ・物理化学という科目は，化学現象を物理的に学習していく分野と考えられる。専門化学をより発展的に学習する科目である。本科目では，量子化学（原子の中の挙動と考えてよい），物質の三態を中心に，専門科目で基礎固めを行っていく。
- ・量子化学分野：原子の中の構造，原子同士の結びつき等を扱っていく。プラスとマイナスの電気が引き合い，プラス同士，あるいはマイナス同士が反発しあう。これを元に，原子の内部構造をとらえたり，原子同士の結びつきを考察することにより，物質の様々な特徴が予想できるようになる。そのような，何を考えれば何がわかるのかという流れ（考え方）を，しっかりと身につけることが一般目標の一つである。それと同時に，物質の特性を予想できるようになる基礎知識を身につけてもらいたい。
- ・物質の状態分野：イオン結晶性の物質はもちろん，分子性の物質も分子間においてクーロン力が働いている。それらを踏まえて，気体，液体，固体がどのような挙動を示すのか。それを，定量的に考察していく。

3. 行動目標

1. 原子の構造を説明できる。
2. 化学結合の様式を説明できる
3. ファンデルワールス力について説明できる
4. 静電相互作用について説明できる
5. 原子の構造と放射壊変について説明できる
6. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる
7. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる
8. 相変化に伴う熱の移動について説明できる
9. 状態図について説明できる
10. 希薄溶液の束一的性質について説明できる

4. 準備学習

積み重ねが重要となる科目であるので、講義は休まずに出席をする。授業時間中に理解不足があったら、必ずその日のうちに復習をする。授業終了時に次回の予告をするので、簡単でも良いので、予習をしてくること。

5. 評価

学期末定期試験：80%， 授業時の小テスト等 20%

6. 教科書・参考書

教科書：『物理化学テキスト』葛谷昌之編 廣川書店
担当教員編集教材

参考書：『基礎化学 12 講』左巻健男編著 化学同人
『現代物理化学』寺嶋正秀他編 化学同人

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	物質の三態Ⅰ 「講義・演習」 C1-(2)-⑤	三態変化とエネルギー，相平衡	柏木 良友 和田 重雄
2	量子化学Ⅰ 「講義・演習」 C1-(1)-③ 準備教育- (4)-⑧	電子の軌道と波動方程式	和田 重雄
3	物質の三態Ⅱ 「講義・演習」 C1-(2)-⑤	気体の法則，理想気体の状態方程式	小野 哲也 和田 重雄
4	量子化学Ⅱ 「講義・演習」 C1-(1)-③	電子スピンと排他原理，原子の性質	和田 重雄
5	物質の三態Ⅲ 「講義・演習」 C1-(2)-⑤	混合気体と蒸気の扱い	小野 哲也 和田 重雄
6	量子化学Ⅲ 「講義・演習」 C1-(1)-①	化学結合Ⅰ 金属結合，イオン結合	和田 重雄
7	物質の三態Ⅳ 「講義・演習」 C1-(2)-⑤	実在気体の性質，実在気体の状態方程式	小野 哲也 和田 重雄
8	量子化学Ⅳ 「講義・演習」 C1-(1)-②	化学結合Ⅱ 共有結合	和田 重雄
9	物質の三態Ⅴ 「講義・演習」 C1-(2)-⑥	束一的性質（理想溶液の性質）	柏木 良友 和田 重雄
10	量子化学Ⅴ 「講義・演習」 C1-(1)-②	分子同士の相互作用	和田 重雄
11	放射化学入門 「講義・演習」 C1-(1)-④ D2-(1)-④	放射線の特徴 放射線の生体への影響	志村 紀子
12	物質の三態Ⅵ 「講義・演習」 C1-(1)-③ -6	固体の結晶構造	和田 重雄
13	定期試験		

授業科目名	生物学 I		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1 単位
担当教員	准教授：和田重雄 非常勤講師：佐野和美		
オフィスアワー	月曜，火曜の16：30～18：00		

1. 科目の概要

- ・薬学を学習していく上でとらえておかなければならない概念をしっかりとらえるために，生物学を幅広く学習する。細かい知識より，生物の特徴，生物学の考え方を学び取る。

2. 一般目標

- ・生物と生物学の大まかな考え方を修得することが大きな目標となる。
- ・知っておくべき細かな知識についても，説明を加える。
- ・細かい知識にこだわり過ぎず，生物（学）に対する考え方をしっかりと修得してもらいたい。
- ・各器官の構造と機能に関する基本的事項を修得する。
- ・生体構成物質の構造，性質，機能について説明できる。
- ・生命情報を担う遺伝子の複製，発現とそれらの制御に関する基本的事項を修得する。

3. 行動目標

1. 細胞の構造と機能に関する基本事項を修得する。
2. 生命現象を担う分子の構造，性質，役割に関する基本事項を修得する。
3. 生命活動を担うタンパク質の構造と機能を概説する。
4. 生体のエネルギー代謝の概要を説明できる
5. 個体発生について概説できる
6. 生体機能が神経やホルモンにより調節されていることを概説できる。
7. 血糖の調節機構に関して概説できる。
8. 地球の生態系や生活環境を保全，維持できるようになるために，環境に関する基本的事項を修得する。
9. 体外の環境を認知する感覚器と体の各部が運動する作動器，それを司る中枢神経の関係を概説できる。
10. 社会的活動をする生物の集団を概説できる。

4. 準備学習

前回の授業の内容を復習しておく。シラバスの授業内容を踏まえ，高校で学習した内容を思い出す。準備もさることながら，復習をしっかりと行ってもらいたい。ノートまとめ，知識の定着，生物学の根本的な考え方の習得などを特に重視してもらいたい。

5. 評価

定期試験：80%， 授業時の課題・小テスト 20%

6. 教科書・参考書

教科書：鈴木孝二監修 「改訂版 フォトサイエンス生物図録」（数研出版）

参考書：プライマリー薬学シリーズ4 『薬学の基礎としての生物学』（日本薬学会編，東京化学同人）

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者	
1	生物とは 「講義・演習」	準備教育- (6)	生物の定義をみんなで考える	和田 重雄
2	体を作る成分 「講義・演習」	C6-(2)-① ~⑧ C6-(3)-①	体を構成する元素と物質を考えよう。	和田 重雄
3	代謝 「講義・演習」	C6-(5)-① 準備教育- (6)-④	体内の物質は、何のためにどのように変化するのか	和田 重雄
4	恒常性の維持 「講義・演習」	C7-(2)- ①, ② 準備教育- (6)-②	暑いときに汗がでてしまうしくみ	和田 重雄
5	生物の動き 「講義・演習」	準備教育- (6)-②	飛んできたボールをよけるメカニズム	和田 重雄
6	細胞と組織 「講義・演習」	C6-(1)-① ~③ 準備教育- (6)-①②	体の各部分は、その機能に合った細胞でできている	和田 重雄
7	生理学その1	C7-(1)-⑤ ⑬ 準備教育- (6)-②	感覚器と筋肉の構造と機能	和田 重雄
8	生理学その2	C7-(1)-⑦ ⑭ 準備教育- (6)-②	血液と循環器系の構造と機能	和田 重雄
9	生理学その3	C7-(1)-⑨ 準備教育- (6)-②	消化器系の構造と機能	和田 重雄
10	生化学その1	C6-(2)-③ ④⑤ 準備教育- (6)-③④	アミノ酸とタンパク質, 核酸の構造と性質	和田 重雄
11	生化学その2	C6-(2)-① C6-(1)-①	炭水化物・脂質の構造と性質, 細胞膜の特徴	和田 重雄
12	動物の行動(社会生物学) 「講義・演習」	準備教育- (2)	人間以上の厳しい社会をつくる昆虫	佐野 和美
13	生態系 「講義・演習」	D2-(2)-① ~④ 準備教育- (6)-⑧	昨日飲んだ水は、信長が飲んだ水かも	佐野 和美
14	定期試験			

授業科目名	生物学Ⅱ		1年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1単位
担当教員	教授：大島光宏 非常勤講師：佐野和美		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

- ・薬学を学習していく上でとらえておかなければならない概念をしっかりとらえるために、生物学を幅広く学習する。細かい知識より、生物の特徴、生物学の考え方を学び取る。

2. 一般目標

- ・生物と生物学の大まかな考え方を修得することが大きな目標となる。
- ・知っておくべき細かな知識についても、説明を加える。
- ・細かい知識にこだわり過ぎず、生物（学）に対する考え方をしっかりと修得してもらいたい。
- ・各器官の構造と機能および、その形成過程等に関する基本的事項を修得する。
- ・生命情報を担う遺伝子の複製、発現とそれらの制御に関する基本的事項を修得する。

3. 行動目標

1. 生命体の共通性を理解する。
2. 発生の過程を理解する。
3. 情報の受容と応答について理解する
4. 遺伝現象・遺伝子の働きを理解する。
5. 恒常性について理解する。

4. 準備学習

学習した内容を良く理解して、次の授業に臨む。

5. 評価

学期末定期試験：80%， 授業時の課題・小テスト 20%

6. 教科書・参考書

教科書：鈴木孝二監修 「改訂版 フォトサイエンス生物図録」（数研出版）

参考書：

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	生命体の単位その1	準備教育-(6)	生物の共通システム その1	大島 光宏
2	分子生物学その1	C6-(4)-① C6-(7)-①	細胞分裂と遺伝と遺伝子	佐野 和美
3	生命体の単位その2	準備教育-(6)	生物の共通システム その2	大島 光宏
4	分子生物学その2	C6-(4)-③ 準備教育-(6)⑤	遺伝情報の流れ, セントラルドグマ	佐野 和美
5	生命体の単位その3	準備教育-(6)	生物の共通システム その3	大島 光宏
6	分子生物学その3	C6-(4)-④ ⑤ 準備教育-(6)⑤	遺伝子の翻訳とDNAの複製	佐野 和美
7	発生その1	準備教育-(6)⑥	卵は完全栄養	大島 光宏
8	生理学その4	C7-(1)-④	神経系の構造と機能	佐野 和美
9	発生その2	準備教育-(6)⑥	個体発生と系統発生	大島 光宏
10	生理学その5	C7-(1)-⑫	内分泌系の構造と機能	佐野 和美
11	発生その3	準備教育-(6)⑥	ちくわ(発生のしくみ)	大島 光宏
12	生理学その6	C8-(1)-① ~③	免疫 風邪はどのように治るの	佐野 和美
13	定期試験			

授業科目名	化学熱力学入門		1年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1単位
担当教員	教授：柏木良友 講師：小野哲也		
オフィスアワー	前期・後期とも水曜日の15:30～17:30		

1. 科目の概要

物理化学はエネルギーと物質に関する自然現象を理解する上で重要な学問であり、薬学領域で学ぶあらゆる教科の基本となっている。この科目では、物理学で学んだ基本をもとに、まず化学熱力学の基礎となる熱力学第一、第二、第三法則、自由エネルギーなどを理解し、さらにこれを応用して化学平衡などの自然現象について学ぶ。特に、理想的思考力を身につけ、客観的に実験事実と理論を対比して考えられるような姿勢を養う。

2. 一般目標

1. 物質の状態を理解するために、熱力学に関する基本的知識を修得する。

3. 行動目標

1. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。
2. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。
3. エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。
4. 熱力学における系、外界、境界について説明できる。
5. 熱力学第一法則を説明できる。
6. 状態関数と経路関数の違いを説明できる。
7. 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。
8. 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。
9. エンタルピーについて説明できる。
10. 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。
11. エントロピーについて説明できる。
12. 熱力学第二法則について説明できる。
13. 熱力学第三法則について説明できる。
14. ギブズエネルギーについて説明できる。
15. 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。
16. ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。
17. ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。
18. 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。
19. 共役反応の原理について説明できる。

4. 準備学習

講義終了の際に次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を熟読して臨むこと（その際に高校時代に使用した物理、化学の教科書・参考書等を見直すとい）。また、前回の講義内容については、前日にしっかり復習しておくこと。

5. 評価

学期末試験 100%

6. 教科書・参考書

教科書：「物理化学テキスト」葛谷 編 廣川書店

参考書：「薬学物理化学（第4版）」小野 編 廣川書店、「薬学物理化学演習（第2版）」小野 編 廣川書店，「アトキンス物理化学（第8版）上・下巻」P. W. Atkins 著／千原・稲葉 訳 東京化学同人，「スタンダード薬学シリーズⅡ 2物理系薬学Ⅰ.物質の物理的性質」日本薬学会 編 東京化学同人

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者	
1	気体の微視的状態と巨視的状態Ⅰ 「講義」	C1-(2)-① -1	ファンデルワールスの状態方程式	柏木 良友
2	気体の微視的状態と巨視的状態Ⅱ 「講義」	C1-(2)-① -2	気体の分子運動とエネルギー	柏木 良友
3	気体の微視的状態と巨視的状態Ⅲ 「講義」	C1-(2)-① -3	エネルギーの量子化とボルツマン分布	柏木 良友
4	エネルギーⅠ 「講義」	C1-(2)-② -1,3	系, 外界, 境界, 状態関数, 経路関数	小野 哲也
5	エネルギーⅡ 「講義」	C1-(2)-② -2	仕事, 熱, 熱力学第一法則	小野 哲也
6	エネルギーⅢ 「講義」	C1-(2)-② -5	定容熱容量, 定圧熱容量	小野 哲也
7	エネルギーⅣ 「講義」	C1-(2)-② -4,6	エンタルピー, 定圧過程, 定容過程	小野 哲也
8	エネルギーⅤ 「講義」	C1-(2)-② -7	化学変化に伴うエンタルピー変化	小野 哲也
9	エネルギーⅥ 「講義」	C1-(2)-② -7	化学変化に伴うエンタルピー変化	小野 哲也
10	自発的な変化Ⅰ 「講義」	C1-(2)-② -4 C1-(2)-③ -1,2	可逆過程, 不可逆過程 エントロピー, 熱力学第二法則, カルノーサイクル	柏木 良友
11	自発的な変化Ⅱ 「講義」	C1-(2)-③ -3	物理変化, 化学変化に伴う標準エントロピー変化 熱力学第三法則	柏木 良友
12	自発的な変化Ⅲ 「講義」	C1-(2)-③ -4,5	ギブズ自由エネルギー, 自発的な変化の方向	柏木 良友
13	化学平衡の原理Ⅰ 「講義」	C1-(2)-④ -1,2,3	化学ポテンシャル, 平衡定数, ルシャトリエの法則	柏木 良友
14	化学平衡の原理Ⅱ 「講義」	C1-(2)-④ -4	ファントホッフ式, 共役反応	柏木 良友
15	定期試験			柏木 良友 小野 哲也

授業科目名	基礎科学演習 I		1 年
授業区分	基礎教育科目 (基礎科学)	必修	1 単位
担当教員	准教授：和田重雄 講師：熊本隆之 助教：金原 淳, 横田 理		
オフィスアワー	月曜, 火曜の16:30~18:00		

1. 科目の概要

薬学を学習・研究をしていく上で必要となる基本的な知識, 技術を身につける科目である。具体的には, 講義, 演習, 実験, シミュレーション, プレゼンテーション等々を通じて, 総合的な科学能力を身につけ, 種々の科学的問題を解決する手法を体得する。

2. 一般目標

- ・薬学の学習・研究に必要な基礎知識・技能を定着させる。研究等に必要な基本的な器具の使用法等を学ぶ。

3. 行動目標

1. 物質の量の表し方を習得する。
2. 現象を客観的に捉える観察眼をもち, 論理的に思考できる。
3. 物事を認識する過程を理解する。
4. 分析に用いる器具を正しく使用できる。
5. 測定値を適切に取り扱うことができる。
6. 化学反応を定量的に捉えられる。
7. 光の屈折について説明できる。
8. 有機化合物の構造の捉え方, 有機反応の基本的な考え方, 系統的な理解法を体得する。
9. 定着させる。有機反応代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。
10. キラリティーと光学活性の関係を概説できる。

4. 準備学習

授業終了時に, 次回の予告, 予習の一例を説明するので, 実施すること。予習もさることながら, 復習こそしっかりしておいてもらいたい。

5. 評価

授業終了時提出のプリント：40%, レポート：50% 授業出席状況・態度 10%

6. 教科書・参考書

教科書：授業時間時にプリントを配布する

参考書：わかりやすい薬学系の物理学入門 小林賢他編 講談社サイエンティフィク

その他, 授業時間中に随時紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者	
1	ガイダンス, 概説 「講義」	G-(1)-3 準備教育- (4)~(7)	基礎科学学習のための技能とは 認知心理学から見た自然科学の学習	和田 重雄
2	物理量の表し方と運用1 「講義・演習」	準備教育- (4), (7)	単位と量の表し方。量の求め方。	和田 重雄
3	物理量の表し方と運用2 「講義・演習」	準備教育- (4)	物理現象と物理量の扱い その1	和田 重雄
4	物理量の表し方と運用3 「講義・演習」	準備教育- (4)	物理現象と物理量の扱い その2	和田 重雄
5	物理量の表し方と運用4 「講義・演習」	準備教育- (5)	化学反応の定量的把握と物理量 その1	和田 重雄
6	物理量の表し方と運用5 「講義・演習」	準備教育- (5)	化学反応の定量的把握と物理量 その2	和田 重雄
7	物理量の表し方と計測1 「講義・演習」	C1-(1)-③ C3-(1)-②	水の屈折率の計測 光の特性の体得	和田 重雄
8	物理現象の理解 「講義・演習」	準備教育- (4)④	光と色と波動, 色の認識	和田 重雄
9	物理量の表し方と運用6 「講義・演習」	A-(5)-4 C2-(1)-①②	グラフの表し方。検量線の作製。 データ処理の意味	和田 重雄
10	物理量の表し方と計測2 「講義・演習」	C2-(1)-① 準備教育- (7)⑤	試験管の外径と内径の計測 ノギスの使い方と誤差の計算	和田 重雄 横田 理
11	物理量の表し方と計測3 「講義・演習」	C2-(1)-① 準備教育- (7)⑤	ホールピペットの目盛りの校正 ガラス体積計の扱い, 密度の計算	和田 重雄 熊本 隆之
12	有機化合物の性質その1 「講義・演習」	C3-(1)-① 準備教育- (5)②	有機反応の基本的なとらえ方	和田 重雄
13	有機化合物の性質その2 「講義・演習」	C3-(2) 準備教育- (5)②	有機反応の系統的な理解・習熟	和田 重雄
14	有機化合物の命名法 「講義・演習」	C3-(1)-①① 準備教育 (5)-②	有機化合物分子模型の組み立て	和田 重雄 金原 淳
15	有機化合物の構造 「講義・演習」	C3-(1)-②② 準備教育 (5)-②	化学物質の I U P A C 命名法の習得	和田 重雄 金原 淳

授業科目名	基礎科学演習Ⅱ		1年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1単位
担当教員	准教授：和田重雄 講師：熊本隆之 助教：金原 淳，横田 理		
オフィスアワー	月曜，火曜の16：30～18：00		

1. 科目の概要

薬学を学習・研究をしていく上で必要となる基本的な知識，技術を身につける科目である。具体的には，講義，演習，実験，シミュレーション，プレゼンテーション等々を通じて，総合的な科学能力を身につけ，種々の科学的問題を解決する手法を体得する。

2. 一般目標

- ・薬学の学習・研究に必要な基礎知識・技能を定着させる。研究等に必要な基本的な器具の使用法等を学ぶ。

3. 行動目標

1. 現象を客観的に捉える観察眼をもち，論理的に思考できる。
2. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り，情報倫理，情報セキュリティに配慮して活用できる。
3. 必要な情報を的確に収集し，信憑性について判断できる。
4. 目的に合った適切な情報源を選択肢，必要な情報を検索，収集できる。
5. 得られた情報を論理的に統合・整理し，自らの考えと共に，わかりやすく表現できる。
6. 効果的なプレゼンテーションを行い，適切な質疑応答ができる。
3. 測定値を適切に取り扱うことができる。
4. 表現したいデータを適切なグラフで表す。
6. 微分型速度式を積分型速度式に変換できる
7. pHおよび解離定数について説明できる
8. キラリティーと光学活性の関係を概説できる。
9. エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる
10. 代表的な生体高分子を構成する小分子の構造に基づく科学的性質を説明できる
11. 必要な情報を的確に収集し，信憑性について判断できる。
12. 目的に合った適切な情報源を選択肢，必要な情報を検索，収集できる。
13. 得られた情報を論理的に統合・整理し，自らの考えと共に，わかりやすく表現できる。
14. 医薬品を使用したり取り扱う上で，必須の医薬品情報を列挙できる
15. 効果的なプレゼンテーションを行い，適切な質疑応答ができる。

4. 準備学習

授業終了時に，次回の予告，予習の一例を説明するので，実施すること。予習もさることながら，復習こそしっかりしておいてもらいたい。

5. 評価

授業時提出のプリント：40%， レポート：50% 授業出席状況・態度 10%

6. 教科書・参考書

教科書：授業時間時にプリントを配布する

参考書：授業時間中に随時紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者	
1	情報検索 「講義・演習」	A-(5)-3,5 準備教育-(8)	情報検索の方法 インターネット等による薬物, 物質の情報検索	和田 重雄 熊本 隆之
2	物質の特性の検討 1 「講義・演習」	D1-(3)-① ② D2-(2)-③	食環境と物質, 水環境と物質	和田, 熊本 横田
3	物質の特性の検討 2 「演習」	準備教育-(1)	食環境, 水環境に関する調査	和田, 熊本 横田
4	科学コミュニケーション 1 「演習」	準備教育-(9)	食環境, 水環境に関する調査 物質と水環境, 食環境に関する発表資料の作成	和田, 熊本 横田
5	科学コミュニケーション 2 「演習」	準備教育-(9)	物質と水環境, 食環境に関する発表資料の作成	和田, 熊本 横田
6	科学コミュニケーション 3 「演習」	準備教育-(9) A-(3)-①	物質と水環境, 食環境に関する発表	和田, 熊本 横田
7	物質の特性の検討 3 「講義・演習」	C2-(1)-① 2 C2-(2)-① 2	酸・塩基と pH 計算	和田 重雄
8	物理量の表し方と運用 5 「講義・演習」	C2-(1)-① 2 準備教育-(5)③	中和滴定シミュレーション, グラフ作成	和田 重雄
9	物理量の表し方と運用 6 「講義・演習」	C2-(1)-① 2 準備教育-(7)	反応速度とグラフ作成 (対数グラフ用紙の扱い)	和田 重雄
10	生物の特徴と機能 1 「演習」	C7-(1), (2) 準備教育-(6)-①②	生体の機能と構造	和田 重雄
11	生物の特徴と機能 2 「演習」	準備教育-(6)-⑧ 準備教育-(6)-①②	生体の機能と構造	和田 重雄
12	分子の立体構造 1 「講義・演習」	C3-(1)-② 2 準備教育 (5)-②	エナンチオマー分子模型作成 旋光性の観察・立体異性概念の育成	和田 重雄 金原 淳
13	分子の立体構造 2 「講義・演習」	C4-(1)-① 1	炭水化物の構造と分子模型作製 立体異性概念の育成	和田 重雄
14	分子の立体構造 3 「講義・演習」	C4-(1)-① 1	アミノ酸の分子模型作製・タンパク質立体構造 立体異性概念の育成	和田 重雄
15	分子の立体構造 4 「講義・演習」	C3-(1)-② 2	ジアステレオマーの分子模型作製 立体異性概念の習得	和田 重雄 金原 淳

授業科目名	基礎科学実習		1年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1単位
担当教員	教授：堀江均，山岸丈洋 准教授：和田重雄，鈴木康裕，石山玄明，関健二郎 講師：八巻史子 助教：佐藤安訓		
オフィスアワー	月曜，火曜の16：30～18：00		

1. 科目の概要

「百聞は一見にしかず」という言葉がある。とにかく，自然のなりたち，科学現象を自分の手で確かめてもらいたい。書物から，教員の言葉から，板書から，動画からなど様々な手段で薬学のベースとなる自然科学の種々の知見を吸収している。しかし，特定の角度からの情報に偏ってしまうことが少なくない。今までに学習した知識を総動員しても，ある現象を再現できないことがしばしばある。また，同じものでも，視点を変えて見返してみると，新たな発見があったという経験もあるであろう。これらも，一度ある科学現象を体験すると，自分に欠けていた知識に気づくはずである。とにかく，自分自身の手で科学現象を多数体験することが，あなたの成長を早めることになると考えられる。そのような観点で，様々な実物に触れてもらう。

2. 一般目標

- ・実験の基本的なマナーを習得する。
- ・実物を見て，たくさんの知見を得る。
- ・実験器具の使用方法や，実験テクニックを身につける。
- ・薬学の学習・研究に必要な基礎知識・技能を定着させる。

3. 行動目標

1. 現象を客観的に捉える観察眼をもち，論理的に思考できる。
2. 分析に用いる器具を正しく使用できる。
3. 測定値を適切に取り扱うことができる。
4. 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。
5. 代表的な有機化合物の定性反応を説明できる。
6. タンパク質等の定量分析の方法を説明できる。
7. 薄層クロマトグラフィーの特徴を説明できる。
8. 電気泳動法の原理及び実用例を説明できる。
9. 基礎的な無菌操作を行える。
10. 微生物への遺伝子導入について説明できる。
11. 実験動物を用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。
12. 骨，筋肉について概説できる。
13. 倫理に配慮して実験動物を取り扱える。

4. 準備学習

実習書を事前に読み，必ず，実験ノートに，実験手順のフローチャート作ってくる。そこに，実験中に気づいたこと，観察したことを記載していく。

5. 評価

実験レポート 60% 出席 20% 実習態度等 20%

6. 教科書・参考書

教科書：授業時間時にプリントを配布する

参考書：授業時間中に随時紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	実験ガイダンス, 実習講義 「講義」	G-(1)-3 C2-(3)-① 1	和田 重雄
2	基礎分析系実習その1 「実習」	C2-(3)-① 1 C2-(1)-① 1	和田, 鈴木 石山
3	基礎分析系実習その2 「実習」	C2-(3)-② 1	和田, 鈴木 石山
4	基礎分析系実習その3 「実習」	C2-(3)-① 2 C2-(1)-① 1	和田, 山岸 石山
5	基礎生物系実習 その1 「実習」	C6-(4)-① 1,2 C6-(4)-⑥ 1	和田, 堀江 佐藤 (安)
6	基礎生物系実習 その2 「実習」	C2-(1)-① 1,2	和田, 鈴木 佐藤 (安)
7	基礎生物系実習 その3 「実習」	C2-(5)-① 2 C2-(5)-② 1	和田, 鈴木 佐藤 (安)
8	基礎生物系実習 その4 「実習」	C7-(1)-③ 3 C7-(1)-⑤ 3	和田, 関, 八巻

授業科目名	フレッシュマンセミナー		1年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	0.5単位
担当教員	講師：伊藤頼位 アドバイザー教員		
オフィスアワー	伊藤頼位：平日昼休み		

1. 科目の概要

大学へ入学して間もない時期は、以前とは大きく異なる生活環境や学習環境に戸惑い、日々の生活や学習をどのように進めればよいか不安を感じる事が少なくない。この授業ではそうした不安を早期に解消し、大学生としての生活と学習を円滑に開始できるよう、様々な活動を通して大学の規則や6年間の学習の内容、卒業後の進路の選択肢を知るとともに、効果的な学習の進め方、適切な学習計画と生活環境の作り方、教員や友人とのコミュニケーションの取り方についてクラスメートと協同して学ぶ。

2. 一般目標

大学生生活を円滑に開始するため、大学の規則や6年間の学習の内容、卒業後の進路の選択肢を知る。また、効果的な学習の進め方、適切な学習計画と生活環境の作り方、教員や友人とのコミュニケーションの取り方について学ぶ。

3. 行動目標

- (1)薬学部のカリキュラムの概要を説明できる。
- (2)整理された授業ノートを作成できる。
- (3)適切に構成されたレポートを作成できる。
- (4)アドバイザー教員の研究領域について概要を説明できる。
- (5)効率的な資料の検索と、適切な引用ができる。

4. 準備学習

特になし

5. 評価

- 80% 授業時の活動（リアクションフォームへの記入・ディスカッションでの発言や質問）
20% 提出課題

6. 教科書・参考書

教科書：なし
参考書：なし

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	大学の6年間を知ろう	薬学共用試験・薬剤師国家試験の概要/薬剤師の就職先/履修科目を整理する/7年後の自分を想像する	伊藤 頼位
2	コミュニケーションを取ろう(1)	アドバイザー教員とのゼミナール	伊藤 頼位 アドバイザー
3	コミュニケーションを取ろう(2)	アドバイザーゼミの報告書を作成する/クラスメイトと交流する	伊藤 頼位
4	効果的に学習しよう	講義の聞き方/メモの取り方/ノートの作り方	伊藤 頼位
5	レポートの書き方を知ろう(1)	レポートの構成/資料の検索方法/正しい引用の方法	伊藤 頼位
6	レポートの書き方を知ろう(2)	考えを展開する方法	伊藤 頼位
7	定期試験に備えよう	ノートの整理方法/学習方法についてのグループディスカッション	伊藤 頼位

授業科目名	情報科学講義		1年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1単位
担当教員	講師：木田雄一		
オフィスアワー	月曜日～金曜日の放課後		

1. 科目の概要

社会の情報化が進展し、産業・経済・生活の構造が変化するのに伴って、コンピューターやインターネット、携帯情報端末を支える情報通信技術は、薬学領域を含めた、あらゆる分野における基盤技術として、ますます発展を続けている。このような情勢のなかで、情報システムの利用は、実務の効率的な遂行において不可欠となった。

情報システムは、その中心的な役割を担うコンピューターを構成するハードウェア技術とソフトウェア技術、互いに接続し連携するためのネットワーク技術など多岐に渡る技術の上に成り立っている。

また、誰もがスマートホンに代表されるインターネットに接続された情報端末を持ち、気軽に情報発信ができる現代は、逆に考えると、例え学生であっても実社会と直結しており、その目を向けられる事をも意味する。従って、情報システムやインターネットの利用においては、情報倫理と情報セキュリティの知識が必須となる。

本講義では、情報システム、特にコンピューターと携帯情報端末を今後の学習や就職後の実務に効率的に利用できるようになるため、上述した技術と知識の基礎を学ぶ。

2. 一般目標

本講義では、情報システム、特にコンピューターと携帯情報端末を今後の学習や就職後の実務に効率的に利用できるようになるため、電子データの特徴、コンピューターの仕組みとハードウェア関連技術、ソフトウェア関連技術、ネットワーク関連技術の基礎知識、および、情報倫理と情報セキュリティの基礎知識の修得を目標とする。

3. 行動目標

- ・コンピューターを構成する基本的装置について概説できる。
- ・電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。
- ・無線LANを利用するための注意点について概説できる。
- ・インターネットの仕組みを概説できる。
- ・ソーシャルネットワークサービスの利用における留意点を説明できる。
- ・ネットワークセキュリティについて概説できる。
- ・情報倫理、情報セキュリティに関する情報を収集できる。
- ・著作権、肖像権、引用と転載の違いを説明できる。
- ・ソフトウェア使用上のルールとマナーを概説できる。
- ・コンピューターウイルスとその予防について概説できる。

4. 準備学習

シラバスに従って講義を進めるので、その範囲の教科書を30分以上かけて熟読して臨むこと。

基本的な四則演算（加減乗除）ができる前提で講義を進める。数字や筆算に対するアレルギーを克服しておくこと。

5. 評価

定期試験の成績（90%）、授業毎に行う小テスト（10%）で評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：伊東俊彦 著「情報科学基礎」ムイスリ出版株式会社

参考書：IT 技能演習の教科書を、参考書として利用する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	データと情報の表現 「講義」	薬学準備教育-(8)-①-3	データと情報の基礎、電子データの特徴	木田 雄一
2	コンピューターの仕組みとハードウェア (1) 「講義」	薬学準備教育-(8)-①-1	コンピューターの構成要素（演算装置、制御装置）	木田 雄一
3	コンピューターの仕組みとハードウェア (2) 「講義」	薬学準備教育-(8)-①-1	コンピューターの構成要素（主記憶装置、補助記憶装置、入力装置、出力装置）	木田 雄一
4	ソフトウェア 「講義」	薬学準備教育-(8)-②-1,5	ソフトウェアの種類、オペレーティングシステムの役割、プログラムとは、データベースの基礎	木田 雄一
5	ネットワーク 「講義」	薬学準備教育-(8)-①-2,4,5,7	ネットワークの種類、無線LANの種類と注意点、インターネットの仕組み	木田 雄一
6	情報セキュリティと情報倫理 (1) 「講義」	薬学準備教育-(8)-①-2③-1~3,8	情報システムのセキュリティ	木田 雄一
7	情報セキュリティと情報倫理 (2) 「講義」	薬学準備教育-(8)-①-6③-4~7	情報倫理、著作権・肖像権・引用	木田 雄一
8	定期試験			木田 雄一

授業科目名	I T 技能演習 I		1 年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1 単位
担当教員	講師：木田雄一		
オフィスアワー	月曜日～金曜日の放課後		

1. 科目の概要

社会の情報化が高度に発展した現代において、情報の収集・加工・提供・管理を効率よく行うためには、情報機器の利用が必須となった。スマートホンに代表される携帯情報端末の利用が普及した現代においても、文書の作成や表計算など、多くの情報を入力する場面や高度な計算処理を行う場面では、大きな画面とキーボードそして高い計算能力のあるコンピュータの重要性は変わっていない。

これを受けて本授業では、オペレーティングシステムの基本操作、アカウントの管理、データファイルの管理、ワードプロセッサによる文書作成、化学構造式の描画を実際に行い、コンピューターの基本的な利用技術を身につける。

2. 一般目標

情報の収集・加工・提供・管理を効率よく行うための技能として、コンピューターの基本的な利用技術を習得する。

3. 行動目標

- ・オペレーティングシステムの基本的な操作ができる。
- ・アカウントとパスワードを適切に管理できる。
- ・電子データの特徴を知り、データファイルを適切に管理できる。
- ・学生用ポータルサイトと学習用ソフトウェアを活用できる。
- ・ワードプロセッサによる文書作成と印刷ができる。
- ・画像ファイルの形式とその特徴に応じて、データを適切に取り扱うことができる。
- ・化学構造式描画ソフトによる化学構造式の描画ができる。

4. 準備学習

演習終了の際に次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を 30 分程度かけて読んでから臨むこと。
演習課題の範囲と補足資料を <http://st1.student-ohu.ac.jp/> に随時掲載するので、毎週、必ず見ておくこと。

5. 評価

演習課題の完成度（80%）、演習中の態度（10%）、出席状況（10%）で評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：佐藤憲一・川上準子 著「コ・メディカルのための情報リテラシー」（MS-Office2010 版）
共立出版

参考書：情報科学講義の教科書を、参考書として利用する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者	
1	オペレーティングシステムの基本操作「演習」	薬学準備教育-(8)-①-2, ③-2	ログインと電源を切る方法, アカウントの管理, キーボードの練習	木田 雄一
2	学生用ポータルサイトと学習用ソフトの利用「演習」	薬学準備教育-(8)-②-1	学生用ポータルサイトの紹介, 学習用ソフトウェアの利用方法	木田 雄一
3	データファイルの管理「演習」	薬学準備教育-(8)-①-3, ③-3	フォルダと階層構造, データファイルの管理	木田 雄一
4	ワープロソフトによる文書作成 (1)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2	日本語入力の方法, MS-Wordによるファイルの開き方と保存方法, 簡単な文書の作成	木田 雄一
5	ワープロソフトによる文書作成 (2)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2	特殊文字の入力, さまざまな文字飾りの適用, 文のコピー・移動・削除	木田 雄一
6	ワープロソフトによる文書作成 (3)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2	表のある文書の作成	木田 雄一
7	ワープロソフトによる文書作成 (4)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2	既定の書式に基づいた文書の作成, 印刷プレビューと実際の印刷	木田 雄一
8	ワープロソフトによる文書作成 (5)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2	ワードアートとイラストのある文書の作成	木田 雄一
9	ワープロソフトによる文書作成 (6)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2	数式のある文書の作成	木田 雄一
10	ワープロソフトによる文書作成 (7)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2	段組みのある文書の作成	木田 雄一
11	ワープロソフトによる文書作成 (8)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2	複雑な文書の作成	木田 雄一
12	ワープロソフトによる文書作成 (9)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2	複雑な文書の作成	木田 雄一
13	ワープロソフトによる文書作成 (10)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2	複雑な文書の作成と印刷	木田 雄一
14	化学構造式の描画 (1)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-3, 4	画像ファイルの形式とその特徴 化学構造式描画ソフトChemDrawの基本操作	木田 雄一
15	化学構造式の描画 (2)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-3	各種の化学構造式の描画	木田 雄一

授業科目名	I T 技能演習 II		1 年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1 単位
担当教員	講師：木田雄一		
オフィスアワー	月曜日～金曜日の放課後		

1. 科目の概要

社会の情報化が高度に発展した現代において、情報の収集・加工・提供・管理を効率よく行うためには、情報機器の利用が必須となった。スマートホンに代表される携帯情報端末の利用が普及した現代においても、文書の作成や表計算など、多くの情報を入力する場面や高度な計算処理を行う場面では、大きな画面とキーボードそして高い計算能力のあるコンピュータの重要性は変わっていない。

これを受けて本授業では、表計算ソフトによるデータ処理とグラフ作成、インターネットを利用した情報検索の課題を実際に行い、コンピュータの基本的な利用技術を身につける。

2. 一般目標

情報の収集・加工・提供・管理を効率よく行うための技能として、コンピュータの基本的な利用技術を習得する。

3. 行動目標

- ・表計算ソフトによるデータ処理とグラフ作成ができる。
- ・インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。
- ・検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。
- ・情報倫理、セキュリティに関する情報を収集できる。
- ・マナーを守り電子メールを利用できる。

4. 準備学習

演習終了の際に次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を30分程度かけて読んでから臨むこと。
演習課題の範囲と補足資料を <http://stl.student-ohu.ac.jp/> に随時掲載するので、毎週、必ず見ておくこと。

5. 評価

演習課題の完成度（80%）、演習中の態度（10%）、出席状況（10%）で評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：佐藤憲一・川上準子 著「コ・メディカルのための情報リテラシー」（MS-Office2010 版）
共立出版

参考書：情報科学講義の教科書を、参考書として利用する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	表計算の基本操作 (1) 「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2 表計算の基本操作, 簡単な計算表の作成	木田 雄一
2	表計算の基本操作 (2) 「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2 関数計算の利用	木田 雄一
3	表計算の基本操作 (3) 「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2 表の編集, 書式の設定	木田 雄一
4	表計算の基本操作 (4) 「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2 複雑な計算表の作成	木田 雄一
5	表計算ソフトでのグラフ作成 (1)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2 グラフ作成の基本操作	木田 雄一
6	表計算ソフトでのグラフ作成 (2)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2 グラフの編集	木田 雄一
7	表計算ソフトでのグラフ作成 (3)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2 数式のグラフ化	木田 雄一
8	表計算ソフトでのグラフ作成 (4)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2 様々な種類のグラフの作成	木田 雄一
9	表計算ソフトのデータベース機能 (1)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2 Excelのデータベース機能の概要, 簡単なデータベースの作成	木田 雄一
10	表計算ソフトのデータベース機能 (2)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2 各種の条件によるソート, フィルタによるデータの抽出	木田 雄一
11	表計算ソフトのデータベース機能 (3)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2 クロス集計とピボットテーブル	木田 雄一
12	表計算ソフトのデータベース機能 (4)「演習」	薬学準備教育-(8)-②-2 ゴールシークとソルバー	木田 雄一
13	インターネットを利用した情報検索「演習」	薬学準備教育-(8)-①-7, ③-1, 7, 8 インターネットの利用とセキュリティ インターネットを利用した文献検索	木田 雄一
14	オンラインでの医薬品情報検索「演習」	薬学準備教育-(8)-①-8 インターネットでの医薬品情報検索 添付文書情報の検索	木田 雄一
15	電子メールの利用「演習」	薬学準備教育-(8)-①-6 電子メールの送信, 受信, 転送	木田 雄一

授業科目名	日本語表現演習 I		1年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1単位
担当教員	非常勤講師：佐藤亜実		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

日常生活では、他人に自分の意見や気持ちを伝えるために、メールやSNSなどのコミュニケーションツールが多く用いられている。一方で、大学生や社会人になると、自分の身近な人に対して手軽に文章を書くことだけでなく、普段かかわりのない人や目上の方に対して丁寧に文章を書くことも必要になる。特に医療従事者には、相手の立場に合わせたわかりやすい文章を書き、情報や意見を正確に伝える能力が求められる。

本講義では、大学生や社会人に要請される文章表現能力を培うことを目指す。授業では、「書く」ための基礎的な知識を習得する講義と、その知識をもとに実践する演習を織り交ぜて行う。また、他の人が書いた文章を添削することを通じて、「読む」力を身に付けると同時に、読み手にとってわかりやすい文章とは何かということについても理解を深める。文章を書く際には正しい表記や言葉遣いも必要となるため、漢字や敬語などの基礎的な知識もあわせて確認する。

2. 一般目標

大学生・社会人に要請される文章表現能力とはどのようなものであるかを理解し、他者と良好な関係を持ちながら、自律的に円滑に課題をこなしていけるように、それぞれの目的に応じた文章表現能力を体得することを目標とする。大学生として、問題意識をもってテーマを設定し、根拠をもとに論証する力（レポートを書く力）を身に付ける。

3. 行動目標

手紙やEメール、論説文を扱い、講義部分ではその文章作法についての知識を習得する。文章作法と同時に、漢字や敬語を正しく書けるように修練する。また、演習部分では、様々な問題のある文章例を素材にして、その中の不適切な表現、問題点を発見し、それを書き直ししながら、的確な文章を書く能力を獲得する。

4. 準備学習

授業者が配布するプリントを使用して講義を行う。口頭発表や討議においては、グループでの話し合いや資料の作成をする必要がある。講義前、あるいは講義後の課題として、講義のテーマに即した文章を作成し、次の授業までに提出してもらうことがある。また、漢字や語句等の小テストのための自習も必要である。

5. 評価

課題としての文章（レポート）や小テストを主たる評価の対象とし、授業中に行う作業（文章作成など）の平常点も加味して、最終的な評価とする。平常点（20%）、授業内での提出物（40%）、期末課題（40%）で評価する。筆記試験は行わない。レポートなどの未提出者は、履修を放棄したものとみなす。

6. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法』（慶応義塾大学出版会）

野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』（ひつじ書房）

橋本修・安部朋世・福嶋健伸編『大学生のための日本語表現トレーニング』（三省堂）

浜田麻里・平尾得子・由井紀久子『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）
 米田明美・蔵中さやか・山上登志美『大学生のための日本語表現実践ノート』（風間書房）

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	イントロダクション	なぜ文章作成が必要か 自己紹介をする・他己紹介をする	佐藤 亜実
2	大学でのノートの取り方 連絡メモの取り方	授業を再現できるノートをとる 内容を端的に述べるメモをとる	佐藤 亜実
3	敬語の基礎	敬語や語句の基本ルールをマスターする	佐藤 亜実
4	メールの書き方	お知らせのメール, 問い合わせのメール, お願いのメールを書く	佐藤 亜実
5	手紙の書き方	書式やマナーの基本をマスターする 手紙を書く	佐藤 亜実
6	文章の読解	文章読解のポイントを学ぶ	佐藤 亜実
7	文献の調べ方	必要な文献を入手する	佐藤 亜実
8	資料の読み取り	表・図・グラフから情報を抽出する	佐藤 亜実
9	口頭発表 (1)	発表資料を作成する (1)	佐藤 亜実
10	口頭発表 (2)	発表資料を作成する (2)	佐藤 亜実
11	討議 (1)	効果的なプレゼンテーションを行う (1)	佐藤 亜実
12	討議 (2)	効果的なプレゼンテーションを行う (2)	佐藤 亜実
13	討議 (3)	効果的なプレゼンテーションを行う (3)	佐藤 亜実
14	討議 (4)	効果的なプレゼンテーションを行う (4)	佐藤 亜実
15	討議 (5)	効果的なプレゼンテーションを行う (5) 講義のまとめ	佐藤 亜実

授業科目名	日本語表現演習Ⅱ		1年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1単位
担当教員	講師（歯学部）：唐沢 明		
オフィスアワー	金曜の昼休み		

1. 科目の概要

日本語・コミュニケーションの知識と実践は、薬学の学習・研究のみならず、あらゆる知的活動の基盤であり、また薬剤師業務に必須のコミュニケーション能力と情報処理能力の根幹である。授業では日本語コミュニケーションのうち、特に話す・聞くことを正確に実践するために必要な基本的スキルと、プレゼンテーション、ヒアリング、傾聴力など、1人1人参加型のグループワークに取り組んだ後、その成果をフィードバックすることで理解を深める形式で授業を行う。

2. 一般目標

大学における学習・研究活動の基礎となる日本語コミュニケーションの「話す」「聞く」能力を向上させるため、実践演習型の授業を行う。アイコンタクト、傾聴力、マナー、敬語力も向上させる狙いがある。

将来、薬剤師、MR、病院勤務に必要な会話力を養う。

3. 行動目標

1. 日本語のコミュニケーションの基礎を理解し、実践演習できる。
2. 書くこと、読むことのスキルをアップさせる。
3. 話すこと、聞くことができる実践コミュニケーションをする。
4. TPOに合った敬語力、挨拶ができるようになる。
5. 自分の考えを相手に伝えるコミュニケーションができる。
6. 読解力、文章表現力を養うことができる。
7. 「ビジネス敬語検定」にトライし、自らの敬語力をチェックする。

4. 準備学習

予習として配布された課題に取り組み、完成させてから授業に臨む。課題の完成には30分程度を要する。授業は完成した課題を用いて行うので、予習がされていない場合は十分な学習効果が期待できない。また、授業時の演習のみでは演習量が不足するので、発展演習として積極的に読書に取り組むこと。

5. 評価

- 35% 授業時の活動・発表
- 25% 提出課題およびレポート課題
- 40% 定期試験（または作文レポート）

6. 教科書・参考書

教科書：『ビジネス敬語のマナー（完全版）』（ナツメ社・唐沢 明監修）

参考書：「ビジネス敬語検定」のプリントなど

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	イントロダクション	なぜ文章表現・コミュニケーションが必要なのか	唐沢 明
2	文章作成の基礎	自分の思いを相手に伝えるために	唐沢 明
3	「書く」コミュニケーション	実践作文トレーニング	唐沢 明
4	「読む」コミュニケーション	読解力, 新聞の天声人語・社説	唐沢 明
5	タイトル, 短文の作成	インパクト・コンパクトの文章構成	唐沢 明
6	敬語レッスン	あいさつ・マナーの基礎について	唐沢 明
7	ビジネス敬語検定	感謝と尊敬の気持ちを伝える	唐沢 明
8	ビジネス敬語検定	敬語コミュニケーション	唐沢 明
9	文章の主題と構成「演習」	文章の主題・段落の構成	唐沢 明
10	「話す」コミュニケーション	プレゼンテーション	唐沢 明
11	「聞く」コミュニケーション	傾聴力～相手の目を見て心で聴く	唐沢 明
12	メールの書き方	簡潔に要点を伝えるために	唐沢 明
13	手紙の書き方	気持ちを伝える縦書きレター	唐沢 明
14	心を読むレッスン	空気を読む, 時代を読む, 先を読むために	唐沢 明
15	ポイント・まとめ	伝えるコミュニケーション・スピーチとは	唐沢 明
16	定期試験(または作文レポート)		唐沢 明

授業科目名	倫理学		1年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1単位
担当教員	非常勤講師：高橋恭寛		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

現代の社会を見渡せば、「企業倫理」や「政治倫理」、「企業倫理」など、あらゆる場面で「倫理」という言葉が登場する。医療従事者にとっても「医療倫理」のように、他人事ではない。しかし、この「〇〇倫理」という形で応用されるもととなる「倫理」とは、そもそも何なのかを理解する必要があるだろう。

倫理学とは、「正しいこと」や「良いこと」の「基準」について考える学問であるとされている。自らを振り返って考えたとき、自分の感情や行動は、何かの「基準」に拠っていることもあるのではないだろうか。それは「他者」もまた同様である。無論、この「基準」は一面的なものではない。時代や地域、集団などによって様々な理論がこれまでも生み出されてきた。この講義では、古くから議論されてきた倫理学の基礎理論を学び、医療従事者として身に付けるべき生命、医療に関する「倫理」の基礎的知識を習得する。

2. 一般目標

医療に関わる倫理問題を考えるために必要な倫理学の基礎理論について学ぶ。

3. 行動目標

- ①倫理学とはどのような学問なのか、その成立過程と課題について説明することができる。
- ②倫理学の基本的な理論（義務論、功利主義、自由主義、正義論、共同体主義）について説明することができる。
- ③古典的な倫理問題から応用倫理の問題まで自分で考えられるようになる。

4. 準備学習

授業は、講義形式であるが、本講義や次講義に関するトピックについて、簡単なコメントを課すことがある。この時に自分なりに考え、意見を書くように努めること。また日常生活やニュースなどから倫理的に問題となっている課題に対し関心を持つようにすること。

5. 評価

レポート 60%，平常点 40%

6. 教科書・参考書

教科書：なし。随時プリントを配布する。

参考書：加藤尚武『現代倫理学入門』（講談社学術文庫，1997年），中山元『正義論の名著』（ちくま新書，2011年）

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	はじめに 「講義」	薬学準備教育(1) ガイダンス。倫理学とは何か。「倫理」と「道徳」。	高橋 恭寛
2	倫理学概説 「講義」	薬学準備教育(1) 日本における倫理学の成立と展開	高橋 恭寛
3	倫理学の理論(1) 「講義」	薬学準備教育(1) 義務論について	高橋 恭寛
4	倫理学の理論(2) 「講義」	薬学準備教育(1) 功利主義について	高橋 恭寛
5	倫理学の理論(3) 「講義」	薬学準備教育(1) 自由主義について	高橋 恭寛
6	倫理学の理論(4) 「講義」	薬学準備教育(1) 正義論について	高橋 恭寛
7	倫理学の理論(5) 「講義」	薬学準備教育(1) 共同体主義について	高橋 恭寛

授業科目名	心理学の基礎		1年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1単位
担当教員	准教授（歯学部）：車田 文雄		
オフィスアワー	後期，火曜日の昼休み（12：00～13：00）		

1. 科目の概要

心理学はその対象となる人間存在の複雑さや曖昧さ、多様性をそのまま引き受けざるを得ず、一義的・一般的知見を抽出しにくいという学問でもある。本講義では心理学の基本的な立場を通して、人間理解の特性を学習する。また薬学との摺り合わせを鑑み、臨床家として他者を理解・援助するにあたっての心理学的な手がかりや方法を探る。そして心理テスト等を通し、自己理解が他者理解・援助と相即することを学ぶ。

2. 一般目標

まず、心理学の代表的な理論や人間理解の方法について説明するために、心の探究の歴史を理解する。続いて、病む人の心理ならびにその援助法にあたり、医療従事者として配慮すべきことを考えるために臨床心理学を習得する。

3. 行動目標

- 1) 現代における心の問題を述べられる。
- 2) 心理学の基本的な立場を説明できる。
- 3) 臨床心理学および精神医学を述べられる。
- 4) 性格を分類できる。
- 5) 心の援助（事例読解）を実施できる。
- 6) 心の援助法を配慮できる。

4. 準備学習

予習：新聞等から心理学に関わる情報を取得しておく。（30分）

復習：講義内容の板書のカラー文字およびスライドにて強調された部分を復習しておくこと。（30分）

5. 評価

- | | |
|---------------------|------------------|
| ① 定期試験および追再試験結果 70% | ② 出席状況 10% |
| ③ 受講態度 10% | ④ 課題への取り組み状況 10% |

を評価し、65%以上を合格とする。

6. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：なし

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	学ぶ・覚えるところ	薬学準備教育(2)	学習のプロセス	車田 文雄
2	喜怒哀楽のところ	薬学準備教育(2)	感情, 葛藤ストレス	車田 文雄
3	その人らしさの心理	薬学準備教育(2)	パーソナリティ	車田 文雄
4	人と関わる心理	薬学準備教育(2)	対人認知	車田 文雄
5	人と集うところ	薬学準備教育(2)	集団の心理	車田 文雄
6	健康なところ	薬学準備教育(2)	メンタルヘルス	車田 文雄
7	カウンセリングのところ	薬学準備教育(2)	カウンセリングマインド	車田 文雄

授業科目名	薬学入門		1年
授業区分	基礎教育科目（薬学基礎）	必修	1単位
担当教員	教授：衛藤雅昭，井上忠夫 准教授：伊藤 鍛 非常勤講師：鳥貫英二， 齊藤美恵子		
オフィスアワー	火曜日 16:20以降		

1. 科目の概要

入門では，薬学について学ぶ意義と概要について解説する。薬剤師資格取得を目指して6年間にわたって学習を続ける学生諸君の勉学の動機付けを図る。

2. 一般目標

薬学生としてのモチベーションを高めるために，薬の専門家として身につけるべき基本的知識，技能，態度を修得する。

3. 行動目標

1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。3) 「薬とは何か」を概説できる。4) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。5) 薬剤師の活動分野（医療機関，製薬企業，衛生行政など）について概説できる。6) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ，その仕事を概説できる。7) 病院・開局薬剤師の業務を見聞し，その保健，福祉の重要性を知る。8) 生活習慣病の基礎を学び，その予防・健康管理について概説できる。9) 栄養学の基礎知識を説明できる。10) 医療と薬剤師の関わりや地域医療における薬剤師の役割を説明できる。11) 悪性腫瘍の現況と抗ガン剤について知る。

4. 準備学習

レポート課題を出すのでよく復習してほしい。なお，講義日程は担当者の都合により変更になることがあるので掲示に注意すること。

5. 評価

出席とレポートとあわせて評価する。配点は出席点30%，レポート70%とする。

6. 教科書・参考書

教科書：配布資料を用いる。

参考書：鎌滝哲也 著「薬学へのいざない」東京化学同人

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	薬学への招待 「講義」 A-(1)-① ②	薬学の歴史的な流れと医療におけるその役割, 薬とは何かを学ぶ。	衛藤 雅昭
2	薬学の歴史 薬の発見の歴史 (1) 「講義」 A-(1)-④	薬学の歴史および代表的な薬 (インスリン, ペニシリン, アドレナリンなど) の発見の歴史を学ぶ。	衛藤 雅昭
3	薬学の歴史 薬の発見の歴史 (2) 「講義」 A-(1)-④	薬学の歴史および代表的な薬 (インスリン, ペニシリン, アドレナリンなど) の発見の歴史を学ぶ。	衛藤 雅昭
4	病院薬剤師は何をしているのか 「講義」 A-(1)-② -2	病院薬剤師の業務を知る。	伊藤 鍛
5	保険薬局の今 「講義」 A-(1)-② -2	保険薬局薬剤師の業務内容を知る。	島貫 英二
6	悪性腫瘍と抗ガン剤 「講義」 E2-(7)-⑦ ⑧	我が国における悪性腫瘍の現況と抗ガン剤について学ぶ。	井上 忠夫
7	糖尿病とは 糖尿病と栄養学を学ぼう 「講義」 E1-(3)-1 E2-(5)-① -1 A-(4)	糖尿病を学習し, チーム医療の重要性, 基礎的な栄養学を学ぶ。	斉藤美恵子
8	定期試験		衛藤 雅昭

授業科目名	チーム医療学演習 I		1年
授業区分	基礎教育科目（薬学基礎）	必修	1単位
担当教員	教授：早坂正孝，衛藤雅昭，小池勇一 准教授：伊藤 鍛 臨床系教員，基礎系教員（准教授以下）		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

薬剤師の任務は、薬剤師法第1条において「薬剤師は、調剤，医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって，公衆衛生の向上及び増進に寄与し，もって国民の健康な生活を確保するものとする。」と規定されている。この「国民の健康な生活の確保」を達成するためには，医師，歯科医師，看護師などの他の医療職との連携が重要であることは論をまたない。「チーム医療」とは，医療従事者が互いに対等に連携して治療やケアに当たることで患者中心の医療を実現しようとするものであり，近年，医療現場において，高い専門性を有する多職種の医療スタッフが，目的と情報を共有し，業務を分担するとともに互いに連携・補完しあい，患者の状況に的確に対応したチーム医療を実践しており，医療における重要な要素の一つとなっている。

平成25年に改訂された薬学教育モデルカリキュラムにおいても，チーム医療が教育目標（GIO：general instructional objective）に取り入れられ，さらに，平成31年度から開始される薬学実務実習に関するガイドライン（平成27年：薬学実務実習に関する連絡協議会）に「チーム医療への参画」としてその修得が明記されている。

そこで，初めに，学生が公平に幅広く参加・実習体験できる教育を受けるために，薬物療法に関して「代表的な8疾患」について，本学の医師2名による講義および演習を行う。薬学臨床における代表的な8疾患とは，がん，高血圧症，糖尿病，心疾患，脳血管障害 精神神経障害，免疫・アレルギー疾患，感染症である。次に，早期体験学習を通じて，患者・生活者の視点に立って，様々な薬剤師の業務を見聞し，薬剤師業務の重要性について討議する。さらに，救急演習を通し，一次救急の手当の基本を体験し，医療の理解につなげる。

なお，外部機関との調整を要する内容があるために，一部の項目について講義順の変更あるいは実施時期が前期，後期で交換される可能性があることを付記する。

2. 一般目標

将来，薬剤師として活躍するために必要な多職種連携を容易とするために，医療職としての基本的な知識や技能を学ぶ。

3. 行動目標

患者・生活者本位の視点に立ち，薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために，薬物療法の実践と，チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。また，薬学臨床における代表的な疾患，すなわち，がん，高血圧症，糖尿病，心疾患，脳血管障害 精神神経障害，免疫・アレルギー疾患，感染症についても，基礎的事柄を修得する。

【早期臨床体験】

1. 患者・生活者の視点に立って，様々な薬剤師の業務を見聞し，その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。
2. 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づき，その重要性や課題を討議する。
3. 一次救急処置（心肺蘇生，外傷対応等）を説明し シミュレータを用いて実施できる。

【臨床における心構え】

1. 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。
2. 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。
3. 患者・生活者の健康の回復と維持，生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。

【臨床実習の基礎】

1. 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。
2. 病院・薬局の薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。
3. 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し，その内容と関連を概説できる。
4. 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し，その業務内容を相互に関連づけて説明できる。
5. 薬剤師の関わる社会保障制度（医療，福祉，介護）の概略を説明できる。

4. 準備学習

ガイダンスや掲示により予定を明示するので、事前に内容を把握していくこと。

5. 評価

講義演習での参加態度、見学評価、SGD 等での発表評価およびテーマ毎の2～3のレポート（400字程度）を総合的に判断して評価する。

なお、演習科目なので全出席が必要である。

6. 教科書・参考書

教科書：配付資料を用いる。

参考書：新ビジュアル薬剤師実務シリーズ（上・下），羊土社

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	ガイダンス F(4)	本演習の意義と概要を説明する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
2	チーム医療とは(1) 「講義」 F(4)	チーム医療の意義と概要を説明する。	伊藤 鍛
3	医療と地域をつなぐこれからの薬剤師像「DVD」 F(4)	チーム医療に関する薬剤師の役割についてDVD（NHKで放映）を聴講する。	衛藤 雅昭 早坂 正孝 伊藤 鍛
4	医療と地域をつなぐこれからの薬剤師像「演習」 F(4)	チーム医療に関する薬剤師の役割についてDVDを聴講して演習を行う。	衛藤 雅昭 早坂 正孝 伊藤 鍛
5	代表的な8疾患を理解する(1)「講義」 F(5)	薬学臨床の学習で関わっておく必要のある疾患を学習する。	衛藤 雅昭 小池 勇一
6	代表的な8疾患を理解する(1)「演習」 F(5)	薬学臨床の学習で関わっておく必要のある疾患を学習する。	衛藤 雅昭 小池 勇一
7	代表的な8疾患を理解する(2)「講義」 F(5)	薬学臨床の学習で関わっておく必要のある疾患を学習する。	衛藤 雅昭 小池 勇一
8	代表的な8疾患を理解する(2)「演習」 F(5)	薬学臨床の学習で関わっておく必要のある疾患を学習する。	衛藤 雅昭 小池 勇一
9	体験学習・病院(1) F(1)	病院を訪問し、業務を見学する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
10	体験学習・病院(2) F(1)	病院を訪問し、業務を見学する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
11	体験学習・病院(3) F(1)	病院を訪問し、業務を見学する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
12	体験学習・薬局(1) F(1)	保健薬局を訪問し、業務を見学する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
13	体験学習・薬局(2) F(1)	保健薬局を訪問し、業務を見学する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
14	体験学習・薬局(3) F(1)	保健薬局を訪問し、業務を見学する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
15	病院・保険薬局体験学習まとめ「演習」 F(1)	病院・保険薬局で得たものをまとめて発表する。	早坂 正孝 伊藤 鍛

授業科目名	チーム医療学演習Ⅱ		1年
授業区分	専門教育科目（基礎）	必修	1単位
担当教員	教授：早坂正孝，衛藤雅昭，小池勇一 准教授：伊藤 鍛 臨床系教員，基礎系教員（准教授以下） 非常勤講師：斉藤美恵子		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

チーム医療学演習Ⅰに引き続き、チーム医療学演習Ⅱを開講する。科目の概要については チーム医療学演習Ⅰを参照されたい。

本演習の初めに、薬害被害者の話を聞く機会を設け、医療の基本理念を学ぶと共に、薬害の原因や社会的影響について考える。次に、チーム医療に直結している内容（例えばNSTや感染対策チーム）の各論ごとに、講義、演習を行い、チーム医療を取り巻く医療環境についても学ぶ。さらに、不自由体験を通じて、患者の心理を思い図れる動機づけを行う。

なお、外部機関との調整を要する内容があるために、一部の項目について講義順の変更あるいは実施時期が前期、後期で交換される可能性があることを付記する。

2. 一般目標

将来、薬剤師として活躍するために必要な多職種連携を容易とするために、医療職としての基本的な知識や技能を学ぶ。

3. 行動目標

1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。
2. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。
3. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。
4. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。
5. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。
6. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。
7. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。
8. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。
9. 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。
10. 健康管理・疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。
11. 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。
12. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。
13. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。
14. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。

4. 準備学習

前週までに必要な事前学習項目を掲示する。

5. 評価

講義演習での参加態度、見学評価、SGD等での発表評価およびテーマ毎の2～3のレポート（400字程度）を総合的に判断して評価する。

なお、演習科目なので全出席が必要である。

6. 教科書・参考書

教科書：配付資料を用いる。

参考書：新ビジュアル薬剤師実務シリーズ（上・下），羊土社

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	ガイダンス F(4)	本演習の意義と概要を説明する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
2	チーム医療とは (2) 「講義」	チーム医療の意義と概要を説明する。	伊藤 鍛
3	薬害と社会 「講義」	薬害被害者の話を聞き，薬害の原因、健康被害、社会的影響を考える。	衛藤 雅昭 早坂 正孝 伊藤 鍛
4	薬害と社会 「演習」	薬害被害者の話から薬害の原因、健康被害、社会的影響について演習を行う。	衛藤 雅昭 早坂 正孝 伊藤 鍛
5	セルフメディケーション 「講義・演習」	チーム医療におけるセルフメディケーションについて講義と演習を行う。	多根井重晴
6	血中濃度測定（TDM）に おけるチーム医療 「講義・演習」	TDMにおけるチーム医療の講義と演習を行う。	河野 晴一
7	糖尿病におけるチーム医療 の実際－医師の立場から 「講義・演習」	糖尿病におけるチーム医療の講義と演習を行う。	斉藤美恵子 衛藤 雅昭
8	栄養サポートチーム (NST) 「講義・演習」	NSTに関する講義と演習を行う。	早坂 正孝
9	がん治療に関するチーム医療 「講義・演習」	がん治療に関するチーム医療の講義と演習を行う。	井上 忠夫
10	感染制御チーム（ICT） 「講義・演習」	ICTに関する講義と演習を行う。	中村 郁子
11	障がい疑似体験（不自由体験）(1) 「実習」	各種障がいを疑似体験する用具を身に付けて，障がい者理解につなげる。	早坂 正孝 伊藤 鍛 伊藤 鍛
12	体験学習（1）介護施設等 「体験」	社会福祉施設における介護等を体験する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
13	体験学習（2）介護施設等 「体験」	社会福祉施設における介護等を体験する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
14	体験学習（3）介護施設等 「体験」	社会福祉施設における介護等を体験する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
15	救急演習 「講義・実習」	手当の基本，人工呼吸や心臓マッサージの方法，AEDを用いた除細動などを習得する。	早坂 正孝 伊藤 鍛

授業科目名	健康科学入門		1年
授業区分	基礎教育科目（教養）	必修	1単位
担当教員	教授：押尾茂		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

健康や医療に関する情報は世の中に溢れていますそして、それらの情報の信頼性には大きな違いがあることは何となくおわかりでしょう。あなたは、信頼性を判断をどこにおいていますか。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などのマスコミに取り上げられてものは信頼できますか。本講座では、医療人である前に、市民の一人として身に付けておきたい情報リテラシー（情報活用能力）を学びます。

2. 一般目標

市民としての基本的な素養として、健康や医療に関する情報を適確に判断することができる情報リテラシーを身に付ける。

3. 行動目標

1. 情報の根拠を正確に把握できる。
2. 情報の質を適切に評価できる。
3. 研究手法について、そのレベルを適切に評価できる。
4. データ処理の質を適切に評価できる。
5. 個人情報保護について説明できる。
6. 利益相反について説明できる。

4. 準備学習

毎回指定された教科書の部分をよく読んで出席する。

5. 評価

出席、授業態度、レポートを総合して評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：「健康・医療の情報を読み解く 健康情報学への招待 第2版」中山健夫 著 丸善出版

参考書：「医学的根拠とは何か」津田敏秀著 岩波新書 岩波書店、「予防接種は「効く」のか？

ワクチン嫌いを考える」岩田健太郎著 光文社新書 光文社

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	情報リテラシーとは何か (講義)	第1・2・3章 教科書1-26ページ	押尾 茂
2	医学情報の読み方 (1) (講義)	第4・5・6章 教科書27-49ページ	押尾 茂
3	医学情報の読み方 (2) (講義)	第7・8・9章 教科書50-74ページ	押尾 茂
4	医学情報の読み方 (3) (講義)	第10・11・12章 教科書75-94ページ	押尾 茂
5	情報の解釈 (講義)	第13・14章 教科書95-118ページ	押尾 茂
6	個人情報保護・利益相反・ 健康, 医療情報の検索, 研究倫理・研究不正防止 (講義)	第15・16・17・18章 教科書119-148ページおよび研究倫理・研究 不正防止に関する配付資料	押尾 茂
7	健康情報の新しい流れ (講義)	第19・20・21・22章 教科書149-189ページ	押尾 茂

授業科目名	生化学 I		1 年
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	1 単位
担当教員	教授：大島光宏		
オフィスアワー	月曜日～金曜日の 16：10～18：00		

1. 科目の概要

生命システムを理解するために必要な、最初の科目のひとつである。ダーウィンが予測したように、（現在知られている）全ての生物は共通の祖先（細胞）から進化したと考えられており、生命の最小単位といわれる「細胞」の構造や機能は、微生物から高等動物まで驚くほど似通っている。本講義では、生命システムを構築するために最低限必要な、細胞を構成する物質、すなわちタンパク質、糖質、脂質、核酸などについて、その構造と機能を理解する。さらに、生命システム成立のために不可欠である、タンパク質の立体構造認識能力についても理解する。

2. 一般目標

細胞を構成している物質を細かく分けていくと、タンパク質、糖質、脂質、核酸などになる。しかしながら、これらの物質を混ぜたスープに生命は宿らない。これらの物質の構造と機能を学ぶとともに、混ぜただけでは生命とならない理由を皆で考え、さらに生命がなぜタンパク質を選んだかを考えることが、本講義の目標である。

3. 行動目標

- ・生命システム概念、すなわち「動的平衡」とは何かを説明できる。
- ・生体を構成する物質の構造と機能を説明できる。
- ・タンパク質の立体構造認識能力について説明できる。
- ・生命現象に関して、ほとんど理解が進んでいない理由を説明できる。

4. 準備学習

自分で物事を考える習慣を身に付けておくこと。正解はないので、答えをすぐに求めないこと。

5. 評価

定期試験 80%、提出物 10%、出席 10%

6. 教科書・参考書

教科書：マッキー著 市川厚監修「マッキー生化学」第4版 化学同人

参考書：平澤栄次著「はじめての生化学」化学同人、ほか多数。授業で紹介します。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	序論1 生命とは何か C8-(2)-1-1, 2	生命とは何か, 生物界, 生命の進化 生命は定義できない!	大島 光宏
2	序論2 生命とは何か C8-(2)-1-1, 2	生体分子, 生細胞は化学工場か, システム生物学 生命はロバストなシステム!	大島 光宏
3	細胞1 C8-(2)-3-1	基本概念, 原核細胞の構造 人類は未だ原核細胞すら作れない!	大島 光宏
4	細胞2 C8-(2)-3-1	真核細胞の構造 体積は1000倍! ミトコンドリアは細菌!	大島 光宏
5	糖質1 C9-(1)-2-1, 2 C9-(1)-2-3 C6-(1)-1-2	単糖 すべてはグルコースから! 太陽に感謝! 二糖, 多糖 地上で最も多い有機質はセルロース!	大島 光宏
6	糖質2 C9-(1)-2-3	複合糖質, 糖の定性, 定量試験 軟骨はほとんど糖でできている!	大島 光宏
7	脂質と膜1 C9-(1)-1-2	脂質の分類 油と脂の違い!	大島 光宏
8	脂質と膜2 C8-(2)-3-1	膜 生体膜は脂質とタンパク質が半々!	大島 光宏
9	アミノ酸, ペプチド, タンパク質1 C9-(1)-3-1, 3	アミノ酸, ペプチド 生命のアルファベット!	大島 光宏
10	アミノ酸, ペプチド, タンパク質2 C9-(3)-1-3	タンパク質 20種類のアミノ酸が織り成す無限の世界!	大島 光宏
11	アミノ酸, ペプチド, タンパク質3 C9-(3)-2-1-5, C9-(3)-3-1-5 C9-(3)-4-1-3	タンパク質の立体構造認識能力 間違いが起こらない訳! (立体構造認識能力劇場つき) タンパク質の研究法, 試験法	大島 光宏
12	核酸 C9-(1)-2-3 C9-(2)-2-4	DNA, RNA, ウイルス ウイルスは生物か? RNA 新大陸!	大島 光宏
13	ビタミン C9-(3)-4-1-3	ビタミンの構造と機能, 過剰症・欠乏症 森鷗外の悲劇!	大島 光宏
14	水・無機質 C9-(3)-2-3, C11-(1)-1-1	生体に含まれる無機質の種類と機能 水は極性を持つ特殊な物質!	大島 光宏

授業科目名	機能形態学 I		1 年
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	1 単位
担当教員	教授：野島浩史		
オフィスアワー	月～木曜日の16：30～18：00		

1. 科目の概要

機能形態学は、ヒトの身体を理解するための生理、解剖・組織学であり、正常な生命体の組織・構造と機能、さらには、個々の器官を構成する細胞の機能について学ぶ科目である。正常な身体の働きを理解することは、異常（病態）を理解することにつながる。したがって、本科目は薬理・病態系などの医療系科目を学ぶための基礎科目として位置づけられる。

2. 一般目標

生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能に関する基本的な知識を修得する。

3. 行動目標

- 1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態および体内での位置およびを説明できる。
- 2) 組織、器官を構成する代表的な種類の細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。
- 3) 中枢神経系、体性神経系、自律神経系の構成と機能を説明できる。
- 4) 主な骨と関節、および主な骨格筋の名称を挙げ、位置を説明できる。
- 5) 皮膚の構成と機能を説明できる。
- 6) 心臓、血管系、リンパ系の構造と機能を説明できる。
- 7) 肺、気管支の構造と機能を説明できる。
- 8) 消化管（口腔、食道、胃、小腸、大腸）の構造と機能を説明できる。
- 9) 消化器付属器官である肝臓、膵臓、胆嚢の構造と機能を説明できる。
- 10) 腎臓、膀胱、精巣、卵巣、子宮の構造と機能を説明できる。
- 11) 性周期の調節機構を説明できる。
- 12) 脳下垂体、甲状腺、副腎、眼、耳、鼻の構造と機能を説明できる。
- 13) 骨髄、脾臓、胸腺の構造と機能を説明できる。
- 14) 血球の構造と機能を説明できる。

4. 準備学習

前期に開講された生物学 I と II の復習をしっかりと行い、教科書（トートラの人体解剖生理学）を一読してから、初回の授業に出席する。第 1 回目の授業の際に、次回以降の講義プリントを配付するので、必ず予習をしてきたうえで授業に臨む。この授業では、9 回の確認テストを実施するが、これらは宿題として配布するので、必ず自らが行き、知識を定着させるように努める。

5. 評価

定期試験の成績のみで評価し、判定する。

6. 教科書・参考書

教科書：トートラ人体解剖生理学 原書 9 版 佐伯由香ほか編訳 丸善、およびプリント

参考書：スタンダード薬学シリーズⅡの4「生物系薬学Ⅱ－人体の成り立ちと生体機能の調節」

日本薬学会編 東京化学同人

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者	
1	器官系概論 概要-1「講義」	C7-(1)-③ -1	人体を構成する器官, 器官系の名称, 形態, 体内での位置および機能	野島 浩史
2	器官系概論 概要-2「講義」	C7-(1)-③ -2	組織, 器官を構成する代表的な細胞の種類	野島 浩史
3	神経系 中枢神経系「講義」	C7-(1)-④ -1	中枢神経系の構成と機能	野島 浩史
4	神経系 末梢神経系「講義」	C7-(1)-④ -2	末梢神経系の構成と機能	野島 浩史
5	骨格系・筋肉系, 皮膚 「講義」	C7-(1)-⑤ -1,2,⑥-1	骨・筋肉, 皮膚の構造と機能	野島 浩史
6	循環器系 心臓「講義」	C7-(1)-⑦ -1	心臓の構造と機能	野島 浩史
7	循環器系 血管とリンパ系「講義」	C7-(1)-⑦ -2,3	血管系とリンパ系の構造と機能	野島 浩史
8	呼吸器系「講義」	C7-(1)-⑧ -1	肺, 気管支の構造と機能	野島 浩史
9	消化器系 消化管「講義」	C7-(1)-⑨ -1	食道, 胃, 小腸, 大腸の構造と機能	野島 浩史
10	消化器系 消化器付属器官「講義」	C7-(1)-⑨ -2	肝臓, 膵臓, 胆のうの構造と機能	野島 浩史
11	泌尿器系「講義」	C7-(1)-⑩ -1	腎臓, 尿管, 膀胱の構造と機能	野島 浩史
12	生殖器系「講義」	C7-(1)-⑪ -1 C7-(2)-⑩ -1	生殖器の構造と機能, 性周期の調節	野島 浩史
13	内分泌系「講義」	C7-(1)-⑫ -1	内分泌器官の構造と分泌されるホルモンの作用	野島 浩史
14	感覚器系, 血液・造血器系 「講義」	C7-(1)-⑬ -1,⑭-1	眼, 耳, 鼻および血液・造血器系の構造と機能	野島 浩史
15	定期試験			野島 浩史

授業科目名	有機化学 I		1 年
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	1 単位
担当教員	教授：山岸丈洋 助教：金原 淳		
オフィスアワー	水曜日の 15：30～18：00		

1. 科目の概要

有機化学を学ぶ基礎として有機化合物の性質を概説するとともに各論としてアルカン，シクロアルカンの命名法・性質について講義する。また，酸・塩基の概念と反応，分子の三次元構造（立体化学），化学反応における反応機構について理解する。

2. 一般目標

有機化合物の構造とその性質を理解するために，化学結合の種類と形成される化学構造の性質について学ぶ。また，化合物の三次元構造を理解するために，位置異性，立体異性，光学異性などの異性体をはじめ，立体配座を含めて立体化学の基礎を修得する。さらに，反応の基礎を把握するために，酸・塩基の概念と求核置換・脱離反応について理解を深め，医薬品類の化学的性質を理解する基礎を養う。

3. 行動目標

アルカン，シクロアルカンの構造式を正しく書け，命名することができる。有機化合物の構造式から化合物の性質と三次元構造を理解できる。また，ハロゲン化アルキルの求核置換・脱離反応における反応機構が理解でき，生成物を予測できる。

4. 準備学習

講義終了の際に，次回の内容を案内するので，その範囲の教科書を熟読して臨むこと。

5. 評価

学期末試験 90%，出席 10% により評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：「ソロモンの新有機化学 I（第 11 版）」廣川書店，「基礎有機化学問題集」廣川書店，「分子模型 BAS-1 基本 A セット」モル・タロウ

参考書：

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	炭素化合物と化学結合 「講義」	C3-(1)-①-3,4 化学結合, ルイス構造, オクテット則, 共鳴	山岸 丈洋
2	炭素化合物と化学結合 「講義」	C1-(1)-①-2 C3-(2)-①-1 メタンの構造 :sp ³ 混成, エテンの構造 :sp ² 混成 エチンの構造 :sp 混成	山岸 丈洋
3	炭素化合物と化学結合 「講義」	C3-(1)-①-2 分子の形: 原子価殻電子対反発モデル 構造式の表示法	山岸 丈洋
4	代表的な炭素化合物 「講義」	C3-(1)-①-2 C3-(2)-①-1 炭素-炭素共有結合 アルカン, アルケン, アルキン, 芳香族化合物	山岸 丈洋
5	代表的な炭素化合物 「講義」	C3-(3)-①-1 極性共有結合, 官能基, 物理的性質と分子構造	山岸 丈洋
6	有機化学反応序論: 酸と塩基 「講義」	C3-(1)-①-5,9 C3-(3)-⑦-1 反応とその機構, 酸-塩基反応, 酸と塩基の強さ 構造と酸性度の関係	山岸 丈洋
7	有機化学反応序論: 酸と塩基 「講義」	C3-(1)-①-5,9 C3-(3)-⑦-2 有機化合物の塩基としての役割 有機反応の機構	山岸 丈洋
8	アルカン: 命名法と配座 解析 「講義」	C3-(1)-①-1,-2-8 C3-(2)-①-1,2 アルカンなどの IUPAC 命名法 アルカン, シクロアルカンの立体化学と配座 解析	山岸 丈洋
9	アルカン: 命名法と配座 解析 「講義」	C3-(2)-①-3,4,5 シクロアルカンの相対的安定性 二置換シクロヘキサンの立体配座	山岸 丈洋
10	立体化学: キラル分子 「講義」	C3-(1)-②-1,2,5 エナンチオマーとキラル分子 エナンチオマー命名法: (R-S) 規則	金原 淳
11	立体化学: キラル分子 「講義」	C3-(1)-②-3,4,7 キラル中心を 2 個以上もつ分子 環式化合物の立体異性	金原 淳
12	イオン反応: 求核置換反応 I 「講義」	C3-(3)-②-1,2 求核置換反応, 求核試薬, 脱離基	金原 淳
13	イオン反応: 求核置換反応 II 「講義」	C3-(1)-①-6,7,8,9 C3-(3)-②-1,2 S _N 2 反応と S _N 1 反応の機構	金原 淳
14	総合演習 「演習」	問題の解答・解説	山岸 丈洋

授業科目名	基礎分析化学		1年
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	1単位
担当教員	准教授：鈴木康裕 助教：大樂武範		
オフィスアワー	水曜日12：00～13：00		

1. 科目の概要

「分析化学」とは、何が（定性）、どれだけ（定量）、どのような状態（状態）で存在しているかを明らかにする学問である。薬学において、医薬品を含む化学物質の定性・定量分析法は日本薬局方の一般試験法、TDM（血中薬物濃度測定）をはじめ生化学、薬理学、薬物動態学など様々な分野で使用されている。本講義では、化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、物質の定性、定量に関する基本的事項を修得することを目的とする。また、水溶液中での物質の性質を理解するために、各種の化学平衡に関する基本的知識を修得し、分析法バリデーション等定量の基礎を学ぶと共に、各種化学平衡を利用した容量分析法についても学ぶ。なお、2年次の実習において、技能として学ぶ。

2. 一般目標

日本薬局方に定められた各種医薬品を含む化学物質の品質管理における定性・定量法を修得することを目的とする。主成分を正確な定性・定量分析できるようになるために、物理化学的分析法の基準ともなる各種化学平衡を利用した化学的分析法の原理、操作法および応用例を学ぶ。また、化学物質の分析に用いる器具の使用法と得られる測定値の取り扱いに関する基本的事項を学ぶ。

3. 行動目標

- 1) 薬学分野における分析化学の意義および物質の基礎概念と分析化学との関連を理解する。
- 2) 分析に用いる器具を正しく使用できる。
- 3) 測定値を適切に取り扱うことができる。
- 4) 分析法のバリデーションについて説明できる。
- 5) 化学平衡に基づいて各種溶液中での化学種の濃度を計算できる。
- 6) 酸・塩基の定義、pH測定法やpH緩衝液について説明でき、計算ができる。
- 7) 各種化学平衡を酸・塩基、沈殿、錯体・キレート生成、酸化還元反応、分配から説明できる。
- 8) 各種化学平衡に基づく容量分析法の原理、操作法および応用例が説明できる。
- 9) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。
- 10) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験および容量分析を列挙し、その内容を説明できる。

4. 準備学習

本講義では、薬品分析に必要な定性および定量分析を科学的に理解するために、酸・塩基平衡を中心とした化学平衡をもとに、中和、非水、キレート、沈殿、酸化還元滴定に関する基本的知識を修得することを一般目標としている。講義は、教科書を中心に板書とパワーポイントによって進める。したがって、講義内容をよく聞いて、ノートをとること。また、講義開始後には、講義内容を予習・復習させる目的で、小テストを課すので勉強してくること。

5. 評価

単位認定試験は、教科書および授業で行った範囲から出題する。適語選択・補充、および記述形式として実施する。成績評価は、単位認定試験の結果を重視するが、必要に応じて、中間試験を実施し、その結果、小テスト、および授業態度（出欠・発表）を加点対象とし、総合的に評価（100点満点）する。

6. 教科書・参考書

教科書：「パートナー分析化学I改訂第2版」萩中 淳・山口政俊・千熊正彦編，南江堂

坂本正徳著「ポイント薬学計算 考え方から解き方まで（第3版）」廣川書店

参考書：「第17改正日本薬局方解説書」廣川書店，日本薬学会編，スタンダード薬学シリーズ2

物理系薬学 II. 化学物質の分析第3版 東京化学同人，よくわかる薬学分析化学 二村典行・大庭義史・山下幸和編，廣川書店

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	序論 「講義」 C2-(1)-①	①分析科学とは，②分析方法の分類，③試薬と水，④分析用器具の材質，⑤濃度の表示	鈴木 康裕
2	定量分析総論 「講義」 C2-(1)-① -2,3 C2-(3)-②	①定量分析とは，②定量分析の種類，③分析データの取り扱い，④分析法バリデーション	鈴木 康裕
3	容量分析総論 「講義」 C2-(3)-②	①容量分析総論，②容量分析法の種類，③容量分析標準液，量器と補正，④終点の検出と誤差	鈴木 康裕
4	酸・塩基の電離平衡 (1) 「講義」 C2-(2)-① -1	①酸・塩基平衡の基礎概念	鈴木 康裕 大樂 武範
5	酸・塩基の電離平衡 (2) 「講義」 C2-(2)-① -2	①酸・塩基水溶液のpH	鈴木 康裕 大樂 武範
6	酸・塩基の電離平衡 (3) 「講義」 C2-(2)-① -4,②-4	①緩衝作用，②分子形とイオン形の存在比	鈴木 康裕 大樂 武範
7	中和滴定 (1) 「講義」 C2-(3)-② -1	①中和滴定とは，②酸・塩基平衡と中和滴定，③酸・塩基指示薬，④中和滴定曲線，⑤多塩基酸の滴定曲線	鈴木 康裕 大樂 武範
8	中和滴定 (2) 「講義」 C2-(3)-② -1	①加水分解する塩の滴定（追い出し滴定），②中和滴定各論，③電気的終点検出法	鈴木 康裕 大樂 武範
9	非水滴定 「講義」 C2-(3)-② -1	①非水滴定，②カールフィッシャー法による水分測定法	鈴木 康裕 大樂 武範
10	キレート滴定 「講義」 C2-(2)-② -1,(3)-② -2	①金属錯体とは，②キレート滴定	鈴木 康裕 大樂 武範
11	沈殿滴定 「講義」 C2-(2)-② -2,(3)-② -3	①沈殿の生成と溶解，②沈殿滴定，③酸素フラスコ燃焼法によるハロゲン，イオウの定量	鈴木 康裕 大樂 武範
12	酸化還元 「講義」 C2-(2)-② -3,(3)-② -4	①酸化還元反応，②電極電位，③過マンガン酸滴定	鈴木 康裕 大樂 武範
13	酸化還元滴定 「講義」 C2-(3)-② -4	①ヨウ素滴定，②ヨウ素酸塩滴定，③ジアゾ滴定	鈴木 康裕 大樂 武範
14	定性分析 「講義」 C2-(3)-①	①無機イオンの定性反応，②医薬品の確認試験	鈴木 康裕 大樂 武範
15	試験		

授業科目名	物理化学 I		1 年
授業区分	専門教育科目 (基礎科目)	必修	1 単位
担当教員	教授：柏木良友 講師：小野哲也 助教：大樂武範		
オフィスアワー	前期・後期とも水曜日の15：30～17：30		

1. 科目の概要

物理化学は数少ない法則をもとに、自然現象を体系的に捉えようとする学問である。自然科学的な考え方の基礎であり、「科学的」という場合は物理化学を抜きに語れない。ここでは、物理学で学んだことをもとにして原子・分子の構造と、分子間相互作用などの物理化学的性質の発現に関する基礎について学ぶ。

2. 一般目標

物質を構成する原子・分子の構造に関する基本的知識を修得する。

3. 行動目標

- ファンデルワールス力について説明できる。
- 静電相互作用について例を挙げて説明できる。
- 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。
- 分散力について例を挙げて説明できる。
- 水素結合について例を挙げて説明できる。
- 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。
- 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。
- 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。
- 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。
- 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。
- 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。
- 光の散乱および干渉について説明できる。
- 結晶構造と回折現象について概説できる。

4. 準備学習

講義終了の際に次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を熟読して臨むこと（その際に高校時代に使用した物理、化学の教科書・参考書等を見直すこと）。また、前回の講義内容については、前日にしっかりと復習しておくこと。

5. 評価

学期末試験 100%

6. 教科書・参考書

教科書：「物理化学テキスト」葛谷 編 廣川書店

参考書：「薬学物理化学（第4版）」小野 編 廣川書店、「薬学物理化学演習（第2版）」小野 編 廣川書店、「アトキンス物理化学（第8版）上・下巻」P. W. Atkins 著／千原・稲葉 訳 東京化学同人、「スタンダード薬学シリーズⅡ 2 物理系薬学Ⅰ . 物質の物理的性質」日本薬学会 編 東京化学同人

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	分子間相互作用 I 「講義」	C1-(1)-② -2	極性分子, 無極性分子, 静電相互作用	小野 哲也
2	分子間相互作用 II 「講義」	C1-(1)-② -1,3,4	ファンデルワールス力, 双極子間相互作用, 分散力	小野 哲也
3	分子間相互作用 III 「講義」	C1-(1)-② -5,6,7	水素結合, 電荷移動相互作用, 疎水性相互作用	小野 哲也
4	分子間相互作用 IV 「講義」	C1-(1)-②	化合物の沸点, 融点	小野 哲也
5	原子・分子の挙動 I 「講義」	C1-(1)-③ -1	電磁波の性質および物質との相互作用	柏木 良友
6	原子・分子の挙動 II 「講義」	C1-(1)-③ -2,3	分子の振動, 回転, 電子遷移 電子や核のスピンとその磁気共鳴	柏木 良友 大樂 武範
7	原子・分子の挙動 III 「講義」	C1-(1)-③ -4,5,6	光の屈折, 偏光, および旋光性 光の散乱および干渉, 結晶構造と回折現象	柏木 良友 大樂 武範
8	定期試験			柏木 良友 小野 哲也 大樂 武範

授業科目名	薬学と法		1年
授業区分	専門教育科目（薬学専門）	必修	1単位
担当教員	准教授：多根井重晴		
オフィスアワー	終日（予約制）		

1. 科目の概要

近代国家において、医薬品の取扱は厳しい法律規制のもとに行われている。その取り扱いの責任者としての任に当たるのが薬の専門家である薬剤師である。薬剤師は法律上種々の権限が与えられると共に重い責任を負っている。薬学生は薬学と法の関係について学び、将来の薬剤師としての重要な使命を認識することが必要である。

本科目においては、薬に関する法律の歴史に始まり、薬害事件、医薬品副作用被害救済制度、医薬品医療機器等法による医薬品等の規制事項や、薬を取り巻く薬事行政一般について学び、薬学生として知っておかなければならない法との関係についての基礎的事項を修得する。

2. 一般目標

薬に関する法律の歴史的背景、医薬品等を規制する法律、医薬品副作用被害救済制度、薬剤師業務や製薬企業の仕事に係る法律を学び、法との関係についての基本的知識を修得する。

3. 行動目標

①薬に関する法律の歴史について概説できる。②薬を取り巻く法律について概説できる。③薬害事件とその対処、医薬品副作用被害救済制度について概説できる。④薬事に関する行政一般について概説できる。

4. 準備学習

講義終了の際に、次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を熟読して臨むこと。

なお、予習及び復習に際しては、概ね各々2時間程度の勉強時間を要するものとする。

個々の進捗状況にもよるが、場合によっては演習問題等を積極的に取り入れることにより、早期の段階で知識の定着化を図る等、効率的で効果的な学習方法を確立し、実施すべきであるとする。

5. 評価

授業への出席並びにレポートの提出を必須条件とし、定期試験の結果（100％）にて評価する。

但し、資質（± 50％）、授業態度（± 15％）、課題への取り組み（± 15％）を加味し、本学の成績評価基準に準拠して最終判定し、総合評価とする。

6. 教科書・参考書

教科書：わかりやすい薬事関係・法規（廣川書店）

薬学ドリル 得点源にする法規（メディセレ教育出版）

医薬品医療機器等法・薬剤師法 毒物及び劇物取締法解説（薬事日報社）

参考書：薬事ハンドブック（じほう）

未来を拓く20の提言（じほう）

薬剤師の臨床判断（じほう）

治療薬ハンドブック（じほう）

休み時間の薬事法規・制度（講談社）

薬学総論Ⅰ 薬剤師としての基本事項（東京化学同人）

薬学総論Ⅱ 薬学と社会（東京化学同人）

よくわかる再生医療編（ドーモ）

よくわかる医療機器編（ドーモ）

よくわかる薬機法（ドーモ）

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	法・倫理・責任 (1) 「講義」	B-(2)-①	法規	多根井 重晴
2	法・倫理・責任 (2) 「講義」	B-(1)	倫理	多根井 重晴
3	法・倫理・責任 (3) 「講義」	B-(2)-②	責任	多根井 重晴
4	制度 (1) 「講義」	B-(4)-①, ②	医療制度	多根井 重晴
5	制度 (2) 「講義」	B-(3)-②	医療と経済	多根井 重晴
6	制度 (3) 「講義」	B-(2)-②	医薬品開発・血液供給体制	多根井 重晴
7	薬事関係法規 (1) 「講義」	B-(2)-①	薬剤師法 (1)	多根井 重晴
8	薬事関係法規 (2) 「講義」	B-(2)-②	薬剤師法 (2)	多根井 重晴
9	薬事関係法規 (3) 「講義」	B-(2)-②	医薬品医療機器等法	多根井 重晴
10	薬事関係法規 (4) 「講義」	B-(2)-③	麻薬等の取締法 (1)	多根井 重晴
11	薬事関係法規 (5) 「講義」	B-(2)-③	麻薬等の取締法 (2)	多根井 重晴
12	医事関係法規 (1) 「講義」	B-(2)-①	医療法 (1)	多根井 重晴
13	医療保険関係法規 (1) 「講義」	B-(3)-①	医療法 (2)	多根井 重晴
14	総括 「講義」	B-(1),(2), (3),(4)	まとめ	多根井 重晴
15	定期試験		定期試験	多根井 重晴

授業科目名	薬学演習 I		1 年
授業区分	専門教育科目（薬学専門）	必修	1 単位
担当教員	学年主任，基礎教育科目・専門教育科目担当教員		
オフィスアワー			

1. 科目の概要

1 年次に開講された基礎教育科目，専門教育科目は，2 年次以降の学習の基礎となり大変重要である。そこで本演習はこれらの科目の総復習のために，後期試験終了後に開講し，その試験は進級試験として実施される。

2. 一般目標

1 年次に開講された基礎教育科目，専門教育科目について知識の整理と定着を図る。

3. 行動目標

本演習は1 年次に開講された科目の総復習を主旨とすることをよく理解し，各科目の演習を通じて各自の欠点をよく見出し，速やかに解決して試験に臨む態度が必要である。

4. 準備学習

当日の演習範囲についてはあらかじめ担当教員とともに掲示するので，その範囲の予習を必ず行うこと。

5. 評価

試験は客観試験と記述試験を併用で行い，得点率 65% 以上を合格とする。また，必要に応じて追再試験を実施する。なお，本演習は進級必須科目であるので，本試験合格が進級条件となる。

6. 教科書・参考書

教科書：各科目で使用した教科書，教員作製のプリントなどの資料

参考書：各科目の指定に準ずる

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1 ～ 15	15回の演習を行った後、試験を実施する 「演習」	1年次に開講された基礎教育科目、専門教育科目の演習を実施する。	

